財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第468集

甘楽条里遺跡
（庭谷深町地区）
甘楽条里遺跡
（造石大町地区）
塚田遺跡
田島遺跡

国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

2009

群馬県富岡土木事務所
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

甘楽条里遺跡（庭谷深町地区）・塚田遺跡
甘楽条里遺跡（造石大町地区）・田島遺跡

国道254号（甘楽吉井バイパス）事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

二〇〇九

群馬県富岡土木事務所
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

甘楽条里遺跡
（庭谷深町地区）
甘楽条里遺跡
（造石大町地区）
塚田遺跡
田島遺跡

国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

2009

群馬県富岡土木事務所
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

▲甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)北東から，甘楽・富岡市街方面を望む

甘楽郡甘楽町の福島から新屋にかけての地域には、「甘楽条里」と呼ばれる条里制に基づいた水田区画が現存し、その面積は230haにも及ぶ。遺跡は、この整然と区画された水田地帯の真っ直中に位置している。

▼甘楽条里遺跡(造石大町地区)東から，甘楽・富岡市街方面を望む

▲**塚田遺跡**（東から，甘楽・富岡方面を望む）　遺跡は、「甘楽条里」の東側微高地上に立地する。写真上方の家並みの先が、「甘楽条里」の水田地帯。

▼**塚田遺跡**（西から，吉井町市街方面を望む）　舗装道路を挟んだ写真上側のシート部分が田島遺跡で、その向かって右側の水田は白倉川の低地部。

序

首都東京と長野を結ぶ国道254号線は古くから主要な街道で、群馬県内では藤岡市、多野郡吉井町、甘楽郡甘楽町、富岡市、甘楽郡下仁田町を通過しております。近年、その交通量は増加し、吉井町、甘楽町、富岡市の各市街地を迂回するバイパスが計画されて、富岡市街地を迂回する部分は平成９年度までに建設が終了して供用されています。

甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)･甘楽条里遺跡(造石大町地区)･塚田遺跡・田島遺跡は、これら一連の国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴って、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成18年度に発掘調査を実施した遺跡です。

これらの遺跡の周辺地域には、この地域を代表する前方後円墳の笹森古墳が立地しています。また、遺跡名の由来でもある広い範囲の水田に甘楽条里と呼ばれる方格の地割りが遺存し、この遺跡の甘楽条里遺跡(庭谷深町地区・造石大町地区)は、この地割りの一画を占める位置にあります。

今回の諸遺跡の調査では、平安時代の浅間山の噴火に伴う火山灰を含む土壌の下位から水田が検出された他、中世の掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑などが発見され、この地域における土地利用の変遷を考える上で、また新たな資料を追加することとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県西部県民局 富岡土木事務所、群馬県教育委員会、甘楽町教育委員会、吉井町教育委員会、地元関係者の方々から格別のご指導とご高配を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序といたします。

平成21年　２月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　　高　橋　勇　夫

例　　言

1　本書は、国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴う、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・甘楽条里遺跡(造石大町地区)・塚田遺跡・田島遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡所在地　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：群馬県甘楽郡甘楽町庭谷、甘楽条里遺跡(造石大町地区)：甘楽郡甘楽町造石、塚田遺跡・田島遺跡：多野郡吉井町片山

3　事業主体　群馬県県土整備部(西部県民局　富岡土木事務所)

4　調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　調査期間　平成18年４月１日～平成18年６月30日(平成18年度)

6　整理期間　平成20年10月１日～平成20年11月30日(平成20年度)

7　発掘調査・整理組織

管理指導　高橋勇夫

事務担当　木村祐紀　津金澤吉茂　萩原　勉　西田健彦　中束耕志　相京建史　笠原秀樹　石井　清　佐嶋芳明　大木紳一郎　斉藤恵利子　国定　均　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　今泉大作　栗原幸代　佐藤聖行　矢島一美　齋藤陽子　今井もと子　内山桂子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　狩野真子　北原かおり　武藤秀典

調査担当　主任専門員(総括)　飯塚卓二　主任専門員(総括)　木津博明

整理担当　主任専門員(総括)　坂口　一

整理補助　渡部あい子　戸神晴美　高田栄子　大勝桂子

遺物写真　佐藤元彦　デジタル図版作成　牧野裕美　酒井史恵　安藤美奈子　矢端真観　荒木絵美　市田武子　廣津真希子　高梨由美子　横塚由香　下川陽子

保存処理　関　邦一　小材浩一　津久井桂一　多田ひさ子

器械実測　田所順子　岸　弘子　小池益美　田中精子　山口洋子

8　本書作成の担当者は次のとおりである。

塚田遺跡掘立柱建物　飯森康広(専門員)　中・近世遺物観察　大西雅広(主任専門員(総括))

上記以外　坂口　一(主任専門員(総括))

9　出土遺物と記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10　本書の作成にあたっては次の方々に有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

浅間　陽　小高哲茂　小安和順　田辺芳昭　長井正欣　中村岳彦　長谷部すみ　日沖剛史　前田和昭　三浦京子　右島和夫　茂木由行　甘楽町教育委員会　吉井町教育委員会　吉井町都市整備課　(敬称略)

凡　　例

1　調査区域には、国家座標の日本平面直角座標第Ⅸ系(日本測地系)に基づく5m間隔のグリッドを設定した。

2　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1)　胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒(　＜0.5mm)、粗砂粒(0.5～2.0mm)、細礫(2.0～5.0mm)、中礫(5.0mm＞　)とした。

(2)　色調は農林省水産技術会議事務局監修、(財)日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に従った。

(3)　遺物の出土レベルは、遺構の底面から遺物までの垂直距離を示した。

3　本文中で使用したテフラ記号の名称は以下の通りである。

浅間Ａ軽石(As-A)・・・・・・・・・　1783(天明３)年　　浅間Ｂ軽石(As-B)・・・・・・・・・・・ 1108(天仁元)年

As-A混土・・・・・・・・・・・・・・・　1783(天明３)年以降　　As-B混土・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1108(天仁元)年以降

目　　次

口絵

序

例言

凡例

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要　・・・・・　1

1　調査に至る経緯と経過　・・・・・・・　1

2　調査の方法　・・・・・・・・・・・・・・　1

3　遺跡の位置と地形　・・・・・・・・・　2

4　周辺の遺跡　・・・・・・・・・・・・・・　2

5　遺跡の基本層序　・・・・・・・・・・・　4

Ⅱ　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・・・　5

1　第１面　・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

（1）水田　・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

（2）溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

2　第２面　・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

（1）溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

Ⅲ　甘楽条里遺跡(造石大町地区)　・・　13

1　水田　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

2　溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

Ⅳ　塚田遺跡　・・・・・・・・・・・・・・　19

1　第１面　・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

（1）竪穴状遺構　・・・・・・・・・・・・　23

（2）土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

（3）溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

2　第２面　・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

（1）建物　・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

（2）掘立柱建物　・・・・・・・・・・・・　30

（3）井戸　・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

（4）溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40

（5）ピット群　・・・・・・・・・・・・・・　46

Ⅴ　田島遺跡　・・・・・・・・・・・・・・　53

1　水田　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54

Ⅵ　遺物観察表　・・・・・・・・・・・・　55

Ⅶ　調査の成果　・・・・・・・・・・・・　57

1　現存する条里地割りと

確認した遺構の関係について・・・・　57

写真図版・遺構一覧表・報告書抄録

付図　甘楽条里遺跡周辺地形図(１：3,000)

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要

1　調査に至る経緯

国道254号線は東京と長野を結ぶ古くからの幹線道路で、群馬県内の西毛地域を結ぶ主要な幹線道路でもある。近年、交通量の増加に伴う渋滞の緩和のため、吉井町、甘楽町、富岡市の各市街地を迂回するバイパスが計画され、富岡市街地を迂回する富岡バイパスについては、平成９年度までに建設が終了して供用されている。

この一連の国道254号線バイパス化計画のなかで、甘楽郡甘楽町と多野郡吉井町の建設予定地内における埋蔵文化財の試掘調査が、平成15年度に群馬県教育委員会文化課によって行われた。この結果、平安時代の水田跡とその下層の遺構の存在が判明した。

このため、群馬県西部県民局富岡土木事務所と県文化課との協議を経て、平成18年４月１日～同年６月30日にかけて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施するに至った。

2　調査の方法

今回の調査対象地は、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)、甘楽条里遺跡(造石大町地区)、塚田遺跡、田島遺跡の４遺跡である。調査対象地には、いずれも日本測地系の国家座標に基づいた5m間隔のグリッドを設定した。

これらの遺跡のうち、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)、甘楽条里遺跡(造石大町地区)、田島遺跡については、基本土層において天仁元年(1108)の浅間Ｂ軽石(As-B)を含む黒色土が存在し、基本的にはこの下面を調査面とした。

また、同層が存在しない塚田遺跡については、近世の遺構・遺物を検出した表土層直下と、中世の遺構・遺物を検出したそれより下位のⅣ層上面の２面調査を行った。なお、浅間Ｂ軽石(As-B)を含む黒色土を除いて、調査面となり得るテフラの一次堆積層は存在しない。

図1　発掘調査区域図(Ｓ＝1：12,000)
1：甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)　2：甘楽条里遺跡(造石大町地区)　3：塚田遺跡　4：田島遺跡

3　遺跡の位置と地形

甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)は甘楽郡甘楽町庭谷に、甘楽条里遺跡(造石大町地区)は甘楽郡甘楽町造石に、塚田遺跡及び田島遺跡は多野郡吉井町片山にそれぞれ所在し、上信電鉄上州福島駅・上州新屋駅間の北側400mに位置する。

これらの遺跡は、遺跡の北側900mを東流する鏑川が形成した右岸の河岸段丘上に立地する。鏑川は長野県との県境に位置する甘楽郡下仁田町の物見山付近を源流とし、高崎市で烏川に合流する長さ約60kmの河川で、特に右岸側に４段の段丘面を形成しており、この遺跡は下位から２段目の段丘面に相当する平坦地である。この段丘面は南側の丘陵から北流する白倉川、庭谷川などの作用で南西から北東への緩やかな傾斜地形を示し、遺跡の標高は最も低い田島遺跡から、最も高い甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)にかけて約127m～136mである。

遺跡の周辺には、甘楽町福島から新屋にかけて、230haに及ぶ「甘楽条里」と呼ばれる条里制に基づいた水田区画が現存し、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)は坪のほぼ中央部に(図7)、甘楽条里遺跡(造石大町地区)は坪境を跨ぐ形で位置している(図17)。

4　周辺の遺跡

縄文時代は、条里制に基づいた水田区画が現存する平坦地の周辺では、福島椿森遺跡(№9)で前・中期の包含層から土器・石器が出土している程度で、極めて希薄である。

弥生時代も比較的少ないが、甘楽条里遺跡(第20～30地点，№23)で集落が、甘楽条里遺跡(大山前地区，№10)で溝が確認されている他、南西側微高地上の稲荷北遺跡(№16)、笹遺跡(№18)でも集落が確認されている。

古墳時代では、南西側の微高地上に立地する全長76mで５世紀前半の前方後円墳である天王塚古墳(№15)、全長約100mで６世紀後半の巨石巨室横穴式石室を伴う前方後円墳の笹森古墳(№17)が特筆される他、後期の鹿島古墳群(№14)、北西部の微高地上に大山古墳群(№8)が立地する。集落では森西遺跡(№5)、久保儘下遺跡(№6)、青木畑Ⅰ・Ⅱ遺跡(№7)、稲荷北遺跡(№16)、笹遺跡(№18)、甘楽条里遺跡(第20～30地点，№23)などで集落が確認されており、甘楽条里遺跡(第20～30地点)では、多数の玉造工房が確認されている。

奈良・平安時代では、森西遺跡(№5)、久保儘下

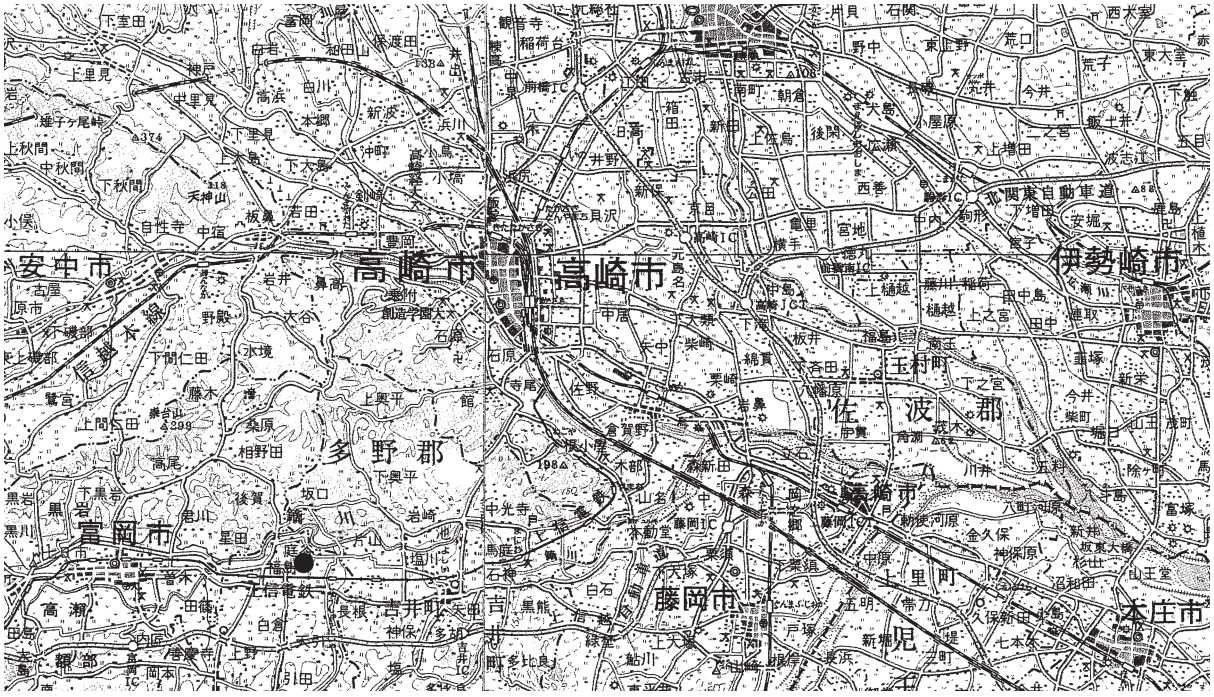


図2　遺跡の地形図(Ｓ=1：20万)

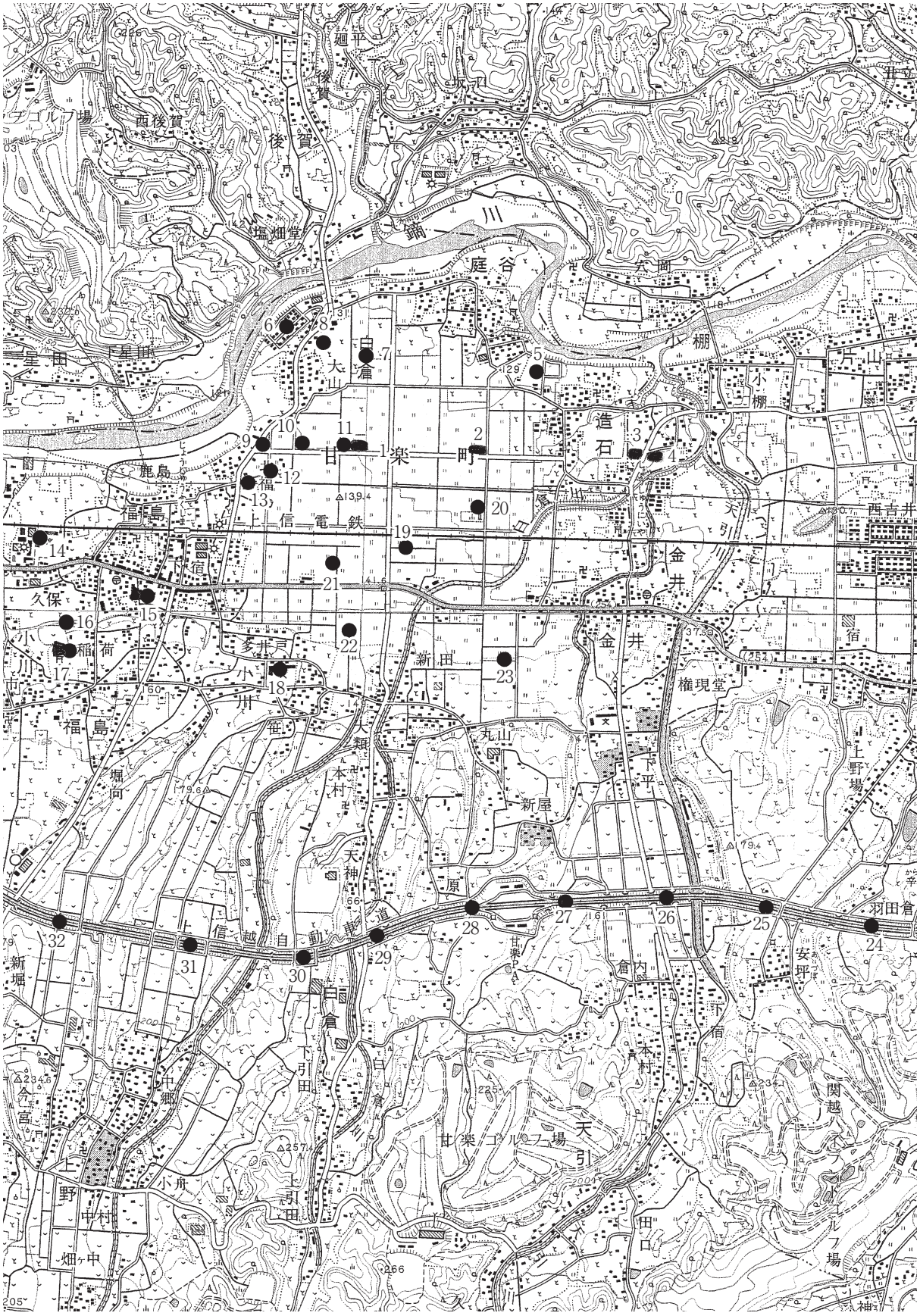


図3　周辺の遺跡位置図(Ｓ＝1：25,000)

遺跡(№6)、青木畑Ⅰ・Ⅱ遺跡(№7)、中椿遺跡(№12)、甘楽条里遺跡(第20～30地点，№23)などで集落が確認されている他、甘楽条里遺跡(大山前地区，№10)、甘楽条里遺跡(第6～18地点，№19)、甘楽条里遺跡(第1～5地点，№20)、甘楽条里遺跡(平成9･10年度地点，№21)、甘楽条里遺跡(第19地点，№22)などで天仁元年(1108)の浅間Ｂ軽石(As-B)直下の水田が確認されている。特に、甘楽条里遺跡(第1～5地点)では、調査区の西端で検出された畦畔と溝の方向が、現存する条里の水田区画と一致する。

江戸時代では甘楽条里遺跡(第6～18地点，№19)、甘楽条里遺跡(第1～5地点，№20)、甘楽条里遺跡(平成9･10年度地点，№21)で、天明三年(1783)の浅間Ａ軽石(As-A)直下の畑など確認されている。

周辺の遺跡一覧表

№.	遺　跡　名	概　　要	文　　献
1	**甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)**	浅間Ｂ軽石混土下水田、中世以降用水路	本報告書
2	**甘楽条里遺跡(造石大町地区)**	浅間Ｂ軽石混土下水田、中世以降用水路	本報告書
3	**塚田遺跡**	中世建物･掘立柱建物･柵列、中･近世用水路	本報告書
4	**田島遺跡**	浅間Ｂ軽石混土下水田	本報告書
5	森西遺跡	古墳･平安住居	『森西遺跡』甘楽町教委1985
6	久保儘下遺跡	古墳前期～平安住居21、後期円墳1	『久保儘下遺跡』甘楽町教委1991
7	青木畑Ⅰ･Ⅱ遺跡	古墳･平安住居11	『青木畑Ⅰ・Ⅱ遺跡』甘楽町教委1983
8	大山古墳群	舟型石棺	『甘楽町史』甘楽町1979
9	福島椿森遺跡	縄文･平安包含層	『福島椿森遺跡』県埋文事業団2000
10	甘楽条里遺跡（大山前地区）	浅間Ｂ軽石下水田、溝、弥生溝	『甘楽条里遺跡』県埋文事業団2000
11	甘楽条里遺跡（前田地区）	圃場整備時の掘削で遺構未確認	『甘楽条里遺跡』県埋文事業団2000
12	中椿遺跡	平安住居跡6、土坑6	『中椿遺跡』甘楽町教委1983
13	旧福島町53号墳（稲荷社）	不詳	『上毛古墳綜覧』1938
14	鹿島古墳群	円墳(横穴式)6世紀半以降	『甘楽町史』甘楽町1979
15	天王塚古墳	前方後円墳、主軸長76m	『群馬県史』資料編3　群馬県1984
16	稲荷北遺跡	弥生･古墳時代住居	『稲荷北遺跡』甘楽町教委1988
17	笹森古墳	前方後円墳(巨石巨室の横穴式石室)全長99m	『甘楽町史』甘楽町1979
18	笹遺跡	弥生～古墳住居、奈良時代遺物	『笹遺跡』群馬県立博物館1963･1966
19	甘楽条里遺跡(第6～18地点）	浅間Ｂ軽石下水田、浅間Ａ軽石下畠。	『甘楽条里遺跡』甘楽町教委1985
20	甘楽条里遺跡(第1～5地点）	古墳前期水路、浅間Ｂ下水田、浅間Ａ下畠	『甘楽条里遺跡』甘楽町教委1984
21	甘楽条里遺跡(平成9･10年度)	浅間Ｂ下水田、浅間Ａ下処理溝、溝･溜井9	『甘楽条里遺跡』甘楽町教委1998･1999
22	甘楽条里遺跡(第19地点)	浅間Ｂ下水田･溝、平安遺構、水田	『甘楽条里遺跡』甘楽町教委1986
23	甘楽条里遺跡(第20～23地点)	弥生～平安集落、竪穴状遺構2、古墳玉造工房	『甘楽条里遺跡』甘楽町教委1987･1989
24	長根羽田倉遺跡	古墳後期祭祀遺構、古墳～平安集落	『長根羽田倉遺跡』県埋文事業団1990
25	長根安坪遺跡	縄文～弥生集落、古墳前期方形周溝墓14･古墳15	『長根安坪遺跡』年報8　県埋文事業団1990
26	天引口明塚	古墳後期円墳2、中世竪穴状遺構1	『天引口明塚遺跡』年報10 県埋文事業団1991
27	天引狐崎遺跡	AT下石器群、弥生集落、後期古墳2	『天引狐崎遺跡Ⅰ』県埋文事業団1993
28	白倉下原･天引向原遺跡	AT下石器群、弥生～平安集落、粘土採掘坑、平安寺院	『白倉下原・天引向原遺跡』県埋文事業団1993
29	白倉東八幡遺跡	縄文･古墳後期集落	『山武考古学研究所年報』№8　1991
30	白倉南水塚遺跡	縄文住居2、古墳集落	『山武考古学研究所年報』№9　1992
31	上野松葉遺跡	弥生･奈良住居82･平安1、縄文陥穴状土坑3	『山武考古学研究所年報』№8･9　1991･1992
32	上野寺場遺跡	古墳前期～中期住居7、奈良･平安住居23、土坑55	『山武考古学研究所年報』№8　1991

5　遺跡の基本層序

甘楽条里遺跡(庭谷深町地区・造石大町地区)

Ⅰ　表土(土地改良盛土)。

Ⅱ　土地改良以前水田耕作土。

Ⅲ　浅間Ｂ軽石を含む黒色土(As-B混土)。

Ⅳ　暗灰色粘質土。

Ⅴ　黒色粘質土。

塚田遺跡

Ⅰ　表土。

Ⅱ　灰暗褐色土。

Ⅲ　黒灰褐色土。

Ⅳ　灰褐色シルト。

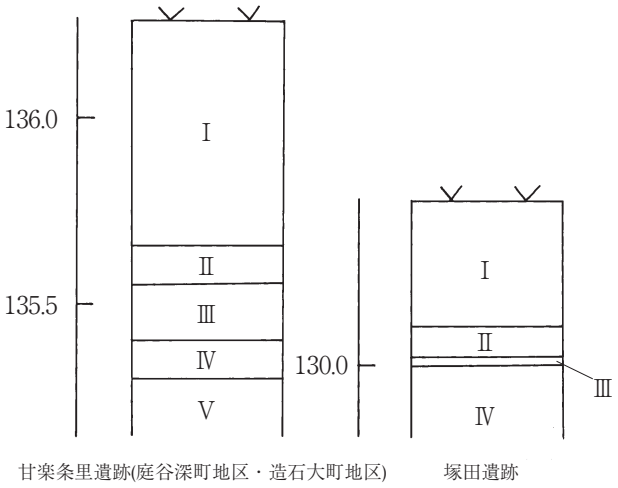


図4　基本土層柱状図

Ⅱ　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)

所在地：甘楽郡甘楽町庭谷

遺跡遠景　(東から，富岡方面を望む)

遺跡は、鏑川の右岸段丘上に立地する。この遺跡周辺には、「甘楽条里」と呼ばれる条里制に基づいた水田区画が現存し、この遺跡は１坪のほぼ中央部に位置している。

写真中央の畦と用水路は、現存する条里区画の南北方向の坪境となる。

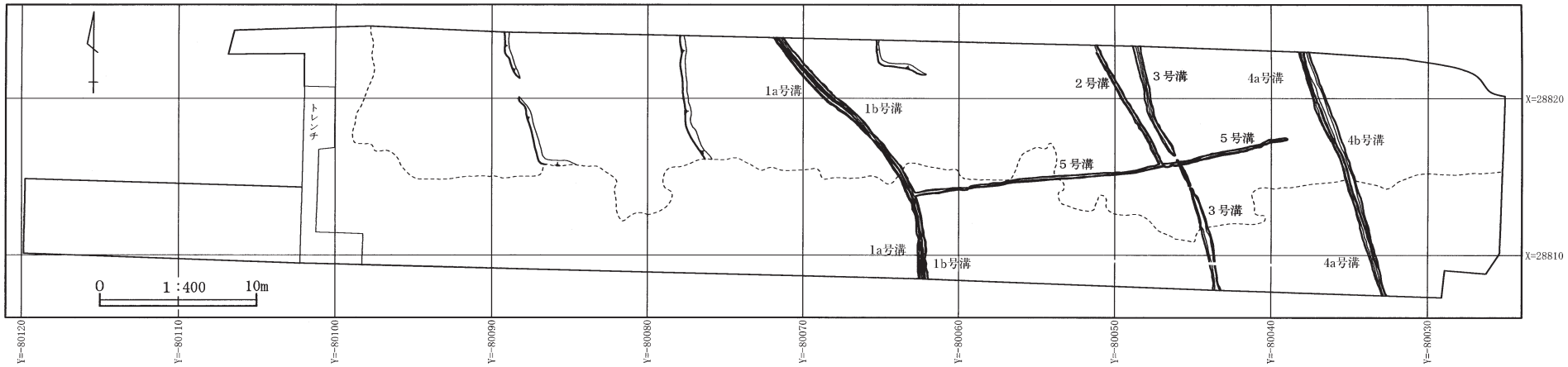


図5　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)全体図

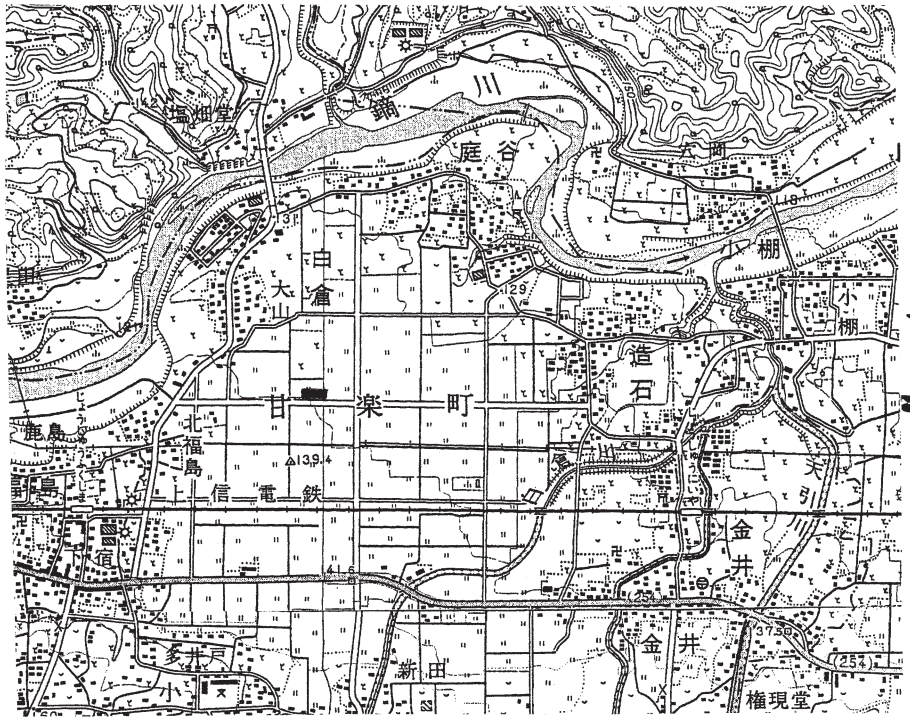


図6　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)位置図(S＝1：25,000)

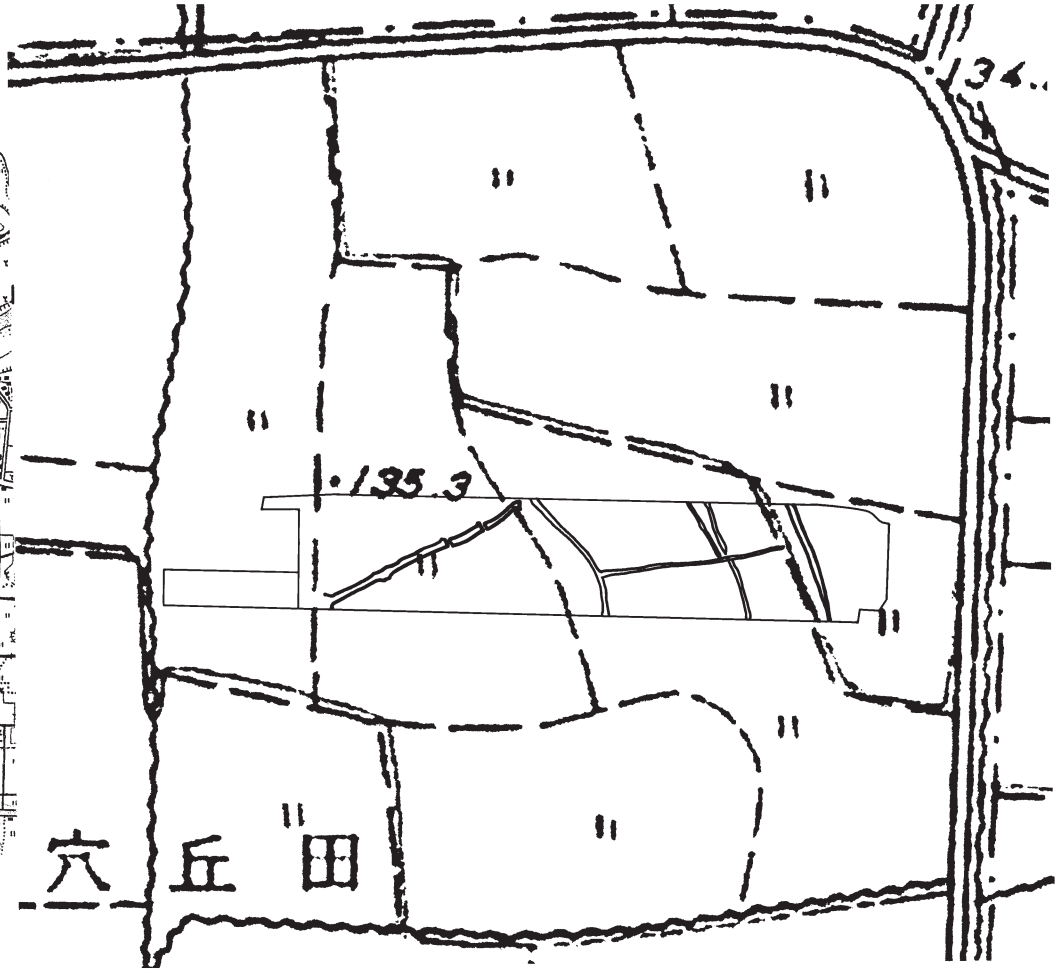


図7　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)位置図(S＝1：1,000，昭和49年甘楽町都市計画図)

Ⅱ　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)

1　第1面

第1面の調査は、基本土層Ⅲ層(浅間B軽石を含む黒色土)の下面を調査面とした。

(1)水　田

検出面　基本土層Ⅲ層(浅間B軽石を含む黒色土)の下面で検出。Ⅲ層は浅間B軽石(As-B)が耕作によって撹拌されて形成されたAs-B混土であることから、この水田面は旧地表面ではなく、Ⅲ層を耕作土とする水田の耕作土下面(基底面)。調査区域の南半分は、Ⅲ層が削平されて基盤層が露出。**立地・地形**　南西から北東方向への緩やかな下り勾配。基底面の標高は調査区の南西部が135.5m、北東部が135.0m、比高50cmで、勾配は約0.7%。**畦畔**　畦畔は未確認だが、調査区域の西半部において、西側から東側にかけて高さ5cmほど落ちる3条の段差を確認。これらの段差の間隔は11～12mで、西側の2条は等高線を斜めに切る形でほぼ南北方向に走行し、東側の1条は南端部が直角よりやや大きい角度で東側に折れる。棚田状に造成された水田区画の境と考えられ、広義の耕作痕型擬似畦畔と判断。**耕作土**　Ⅲ層の可能性が高い。**水口**　未確認。**用水路**　未確認。**取・配水構造**　旧地表面としての水田ではないことから詳細は不明だが、地形的には南→北、西→東に配水する可能性が高い。**遺物**　無し。**重複**　6号溝→水田面→1～5号溝。**年代**　詳細な年代は不明だが、浅間B軽石の降下年代である天仁元年(1108)以降で、この年代に比較的近い平安時代以降の可能性が高い。**所見**　この水田面はAs-B混土の下面で検出した、同層を耕作土とする水田の耕作土の下面。確認した南北方向の3条の段差は、棚田状に造成された水田区画の境である可能性が高く、広義の耕作痕型擬似畦畔と考えられる。浅間B軽石降下以降の比較的近い年代である可能性があること、段差の走行が真北方向に近いこと、その間隔が11～12mであることから、条里制に基づいた地割りの長地型区画の痕跡である可能性も考えられる。

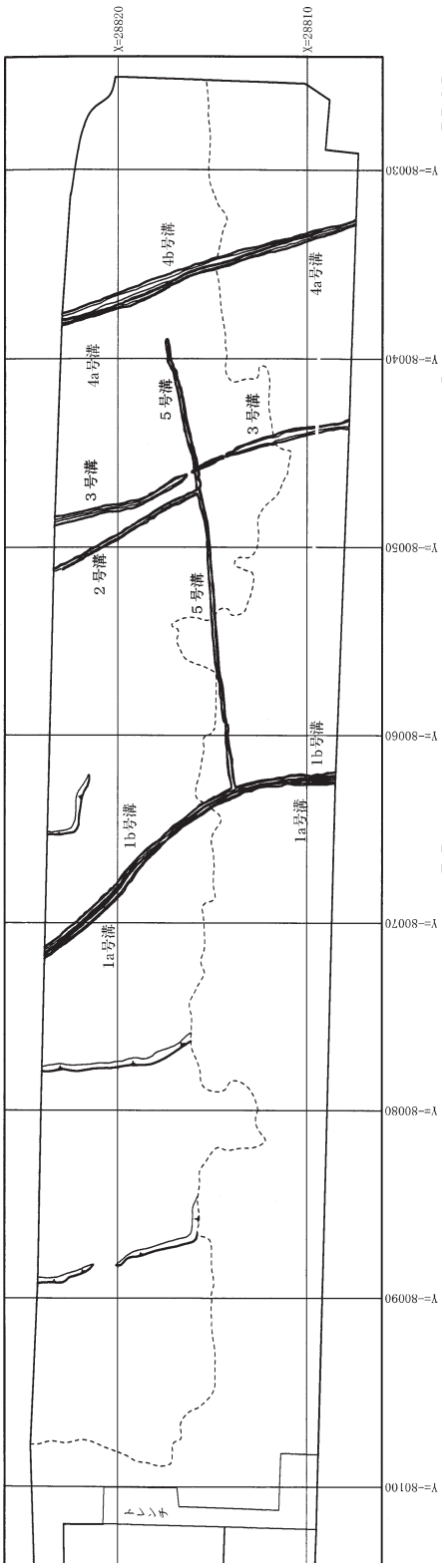


図8　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)水田全体図

(2)　溝

１ａ号溝

規模・形状　上幅30cm、下幅10cm、深さ10cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で緩やかに蛇行して走行。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約5cmで、勾配は約0.3%。**遺物**　無し。**重複**　１ｂ号溝と重複するが、その走行は完全に平行。１ｂ溝→１ａ溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから用水路の可能性が高い。分岐する５号溝と、それから分岐する２号溝と同時存在。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦と平行する(6頁図7参照)。

１ｂ号溝

規模・形状　上幅30cm、下幅10cm、深さ15cmの逆台形状。**走行**　南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で緩やかに蛇行して走行。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区の南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.6%。**遺物**　無し。**重複**　１ａ号溝と重複するが、その走行は完全に平行。１ｂ溝→１ａ溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから、用水路の可能性が高い。この溝から５号溝が東側に分岐し、さらに５号溝から２号溝が北側に分岐することから、２・５号溝と同時存在し、この溝間は水田であった可能性が高い。また、この溝から分岐した５号溝は途中で途切れるが、おそらく４ａ・４ｂ号溝のいずれかと直交する形で接続していたものと考えられ、このいずれかと同時存在した可能性が高く、この間も水田であった可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦と平行する(6頁図7参照)。

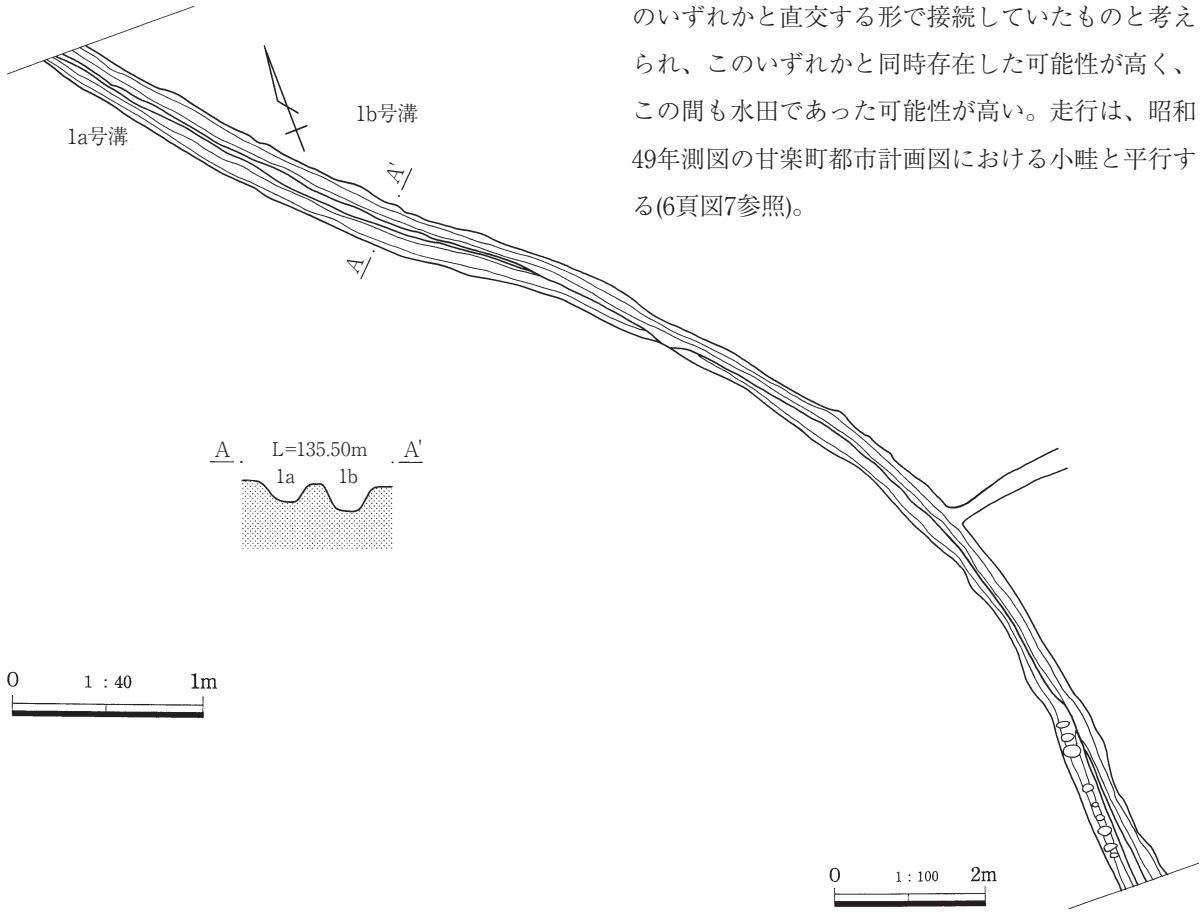


図9　１ａ・１ｂ号溝

２号溝

規模・形状　上幅25cm、下幅10cm、深さ5cmの逆台形状。**走行**　５号溝から分岐して、南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-30°-W。南端部と北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから、用水路の可能性が高い。１ｂ号溝から分岐した５号溝からさらに分岐し、これらにほぼ平行して走行することから、１ｂ・５号溝と同時存在し、この溝間は水田の可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦と平行する(6頁図7参照)。

３号溝

規模・形状　上幅40cm、下幅10cm、深さ25cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で緩やかに蛇行して走行。方位N-20°-W。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約25cmで、勾配は約1.5％。**遺物**　無し。**重複**　５号溝と重複。５溝→３溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから、用水路の可能性が高い。東側約10mの位置を平行して走行する４ａ・４ｂ号溝のいずれかと同時存在したものと考えられ、この間は水田であった可能性が高い。１ｂ号溝から分岐した５号溝と重複することから、１ａ号溝と同時存在した可能性も考えられる。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦と平行する(6頁図7参照)。

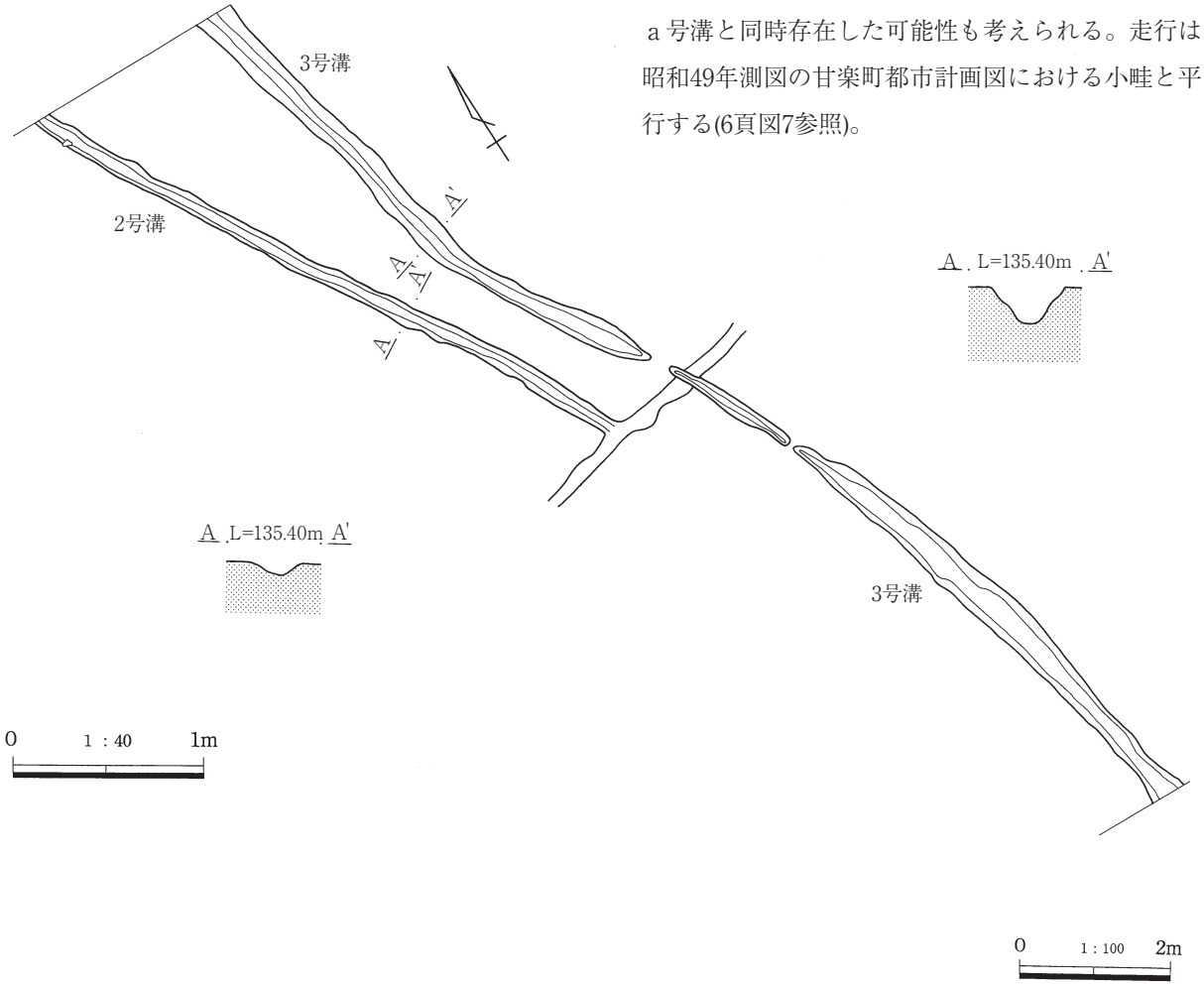


図10　２・３号溝

４ａ号溝

規模・形状　上幅25cm、下幅10cm、深さ15cmの逆台形状。**走行**　南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-20°-W。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区の南端部と北端部の比高は約15cmで、勾配は約0.9％。**遺物**　無し。**重複**　４ｂ号溝と重複するが、その走行は完全に平行。４ｂ溝→４ａ溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから、用水路の可能性が高い。走行は、西側の３号溝と平行し、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦とほぼ一致する(6頁図7参照)。

４ｂ号溝

規模・形状　上幅40cm、下幅20cm、深さ10cmで、底面は平坦な逆台形状。**走行**　南東から北西の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-20°-W。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.6％。**遺物**　無し。**重複**　４ａ号溝と重複するが、その走行は完全に平行。４ｂ溝→４ａ溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線を鋭角に横切る形で走行することから用水路の可能性が高い。走行は、西側約10ｍに位置する３号溝と平行する。また、１ｂ号溝から分岐した５号溝は途中で途切れるが、おそらくこの溝か４ａ号溝とほぼ直交する形で接続していたものと考えられ、４ａ・４ｂ号溝のいずれかが同時存在していたものと考えられ、この間は水田であった可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における小畦とほぼ一致する(6頁図7参照)。

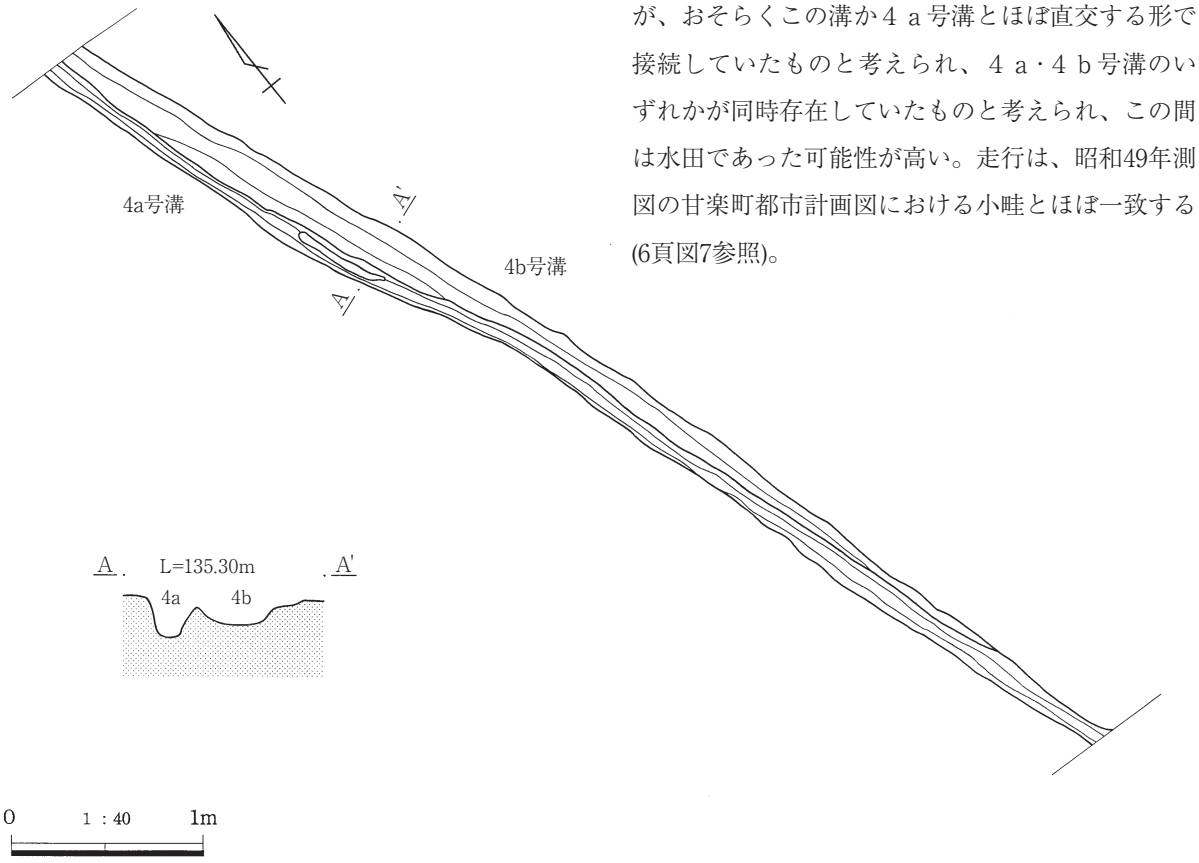


図11　４ａ・４ｂ号溝

５号溝

規模・形状　上幅20cm、下幅10cm、深さ5cmで、底面は平坦な逆台形状。**走行**　１ｂ号溝から分岐して西から東の方向に、等高線にほぼ直交する形で直線的に走行。方位N-80°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。１ｂ号溝分岐部とこの溝の東端部の比高は約10cmで、勾配は約0.4％。１ｂ号溝分岐部から16mの地点で、２号溝が北側に分岐。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、南北方向の用水路を結ぶ支線の用水路の可能性が高い。１ｂ号溝から分岐し、２号溝はこの１ｂ号溝から分岐することから、１ｂ・２号溝と同時存在し、この溝間は水田の可能性が高い。また、この溝は東端部で途切れるが、おそらく東側でほぼ直交して走行する４ａ・４ｂ号溝のいずれかに接続するものと考えられ、これらと同時存在した可能性が高く、この間も水田であったものと考えられる。

図12　５号溝

2　第２面

第２面の調査は、基本土層Ⅳ層(暗灰色粘質土)を下げる段階で６号溝を検出したことから、Ⅳ層の中位を調査面とした。

なお、この面で検出した遺構は６号溝のみで、この他に遺構・遺物は検出できなかった。

(1)　溝

６号溝(写真PL.3)

検出面　基本土層Ⅳ層(暗灰色粘質土)の中位で検出。**規模・形状**　上幅80cm、下幅50cm、深さ20cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南西から北東の方向に、等高線にほぼ直交する形で直線的に走行。方位N-65°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。溝の南西端部と北東端部の比高は約20cmで、勾配は約0.7％。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田の下位で検出したことから、平安時代以前と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、等高線にほぼ直交する形の走行であることから、排水路か、南北方向の用水路を結ぶ支線の用水路の可能性が考えられる。

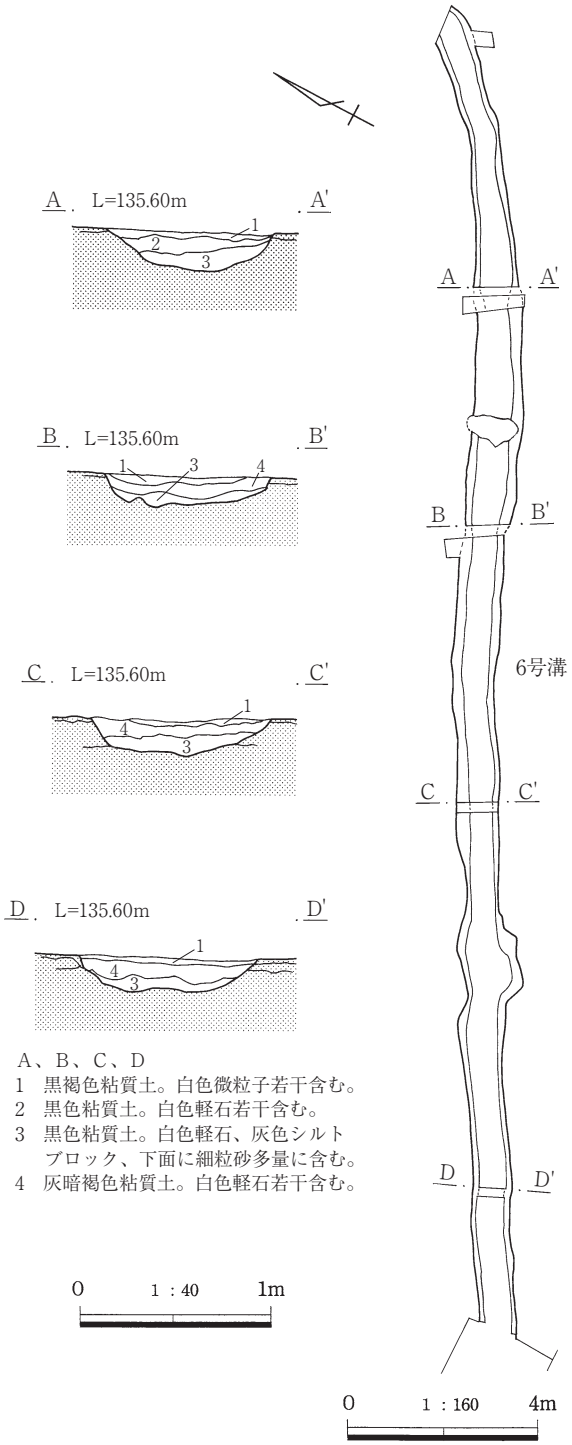


図13　６号溝

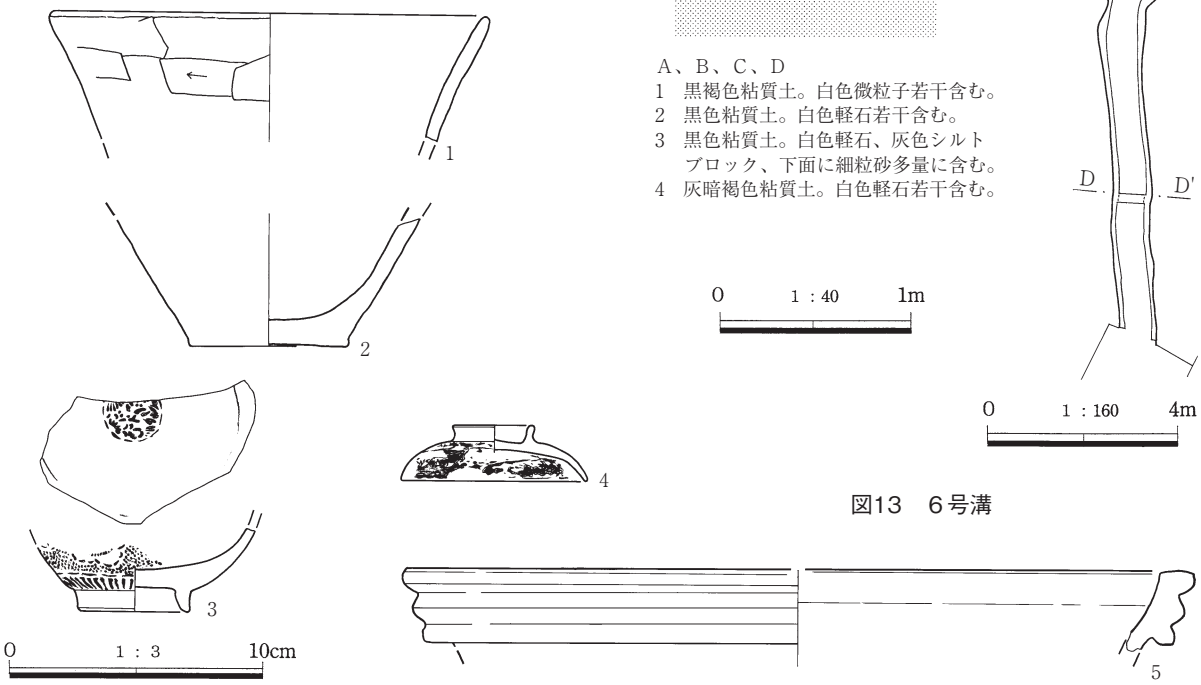


図14　第１面　遺構外出土遺物

Ⅲ　甘楽条里遺跡(造石大町地区)

所在地：甘楽郡甘楽町造石

遺跡遠景　(北東から甘楽・富岡方面を望む)

遺跡は、鏑川の右岸段丘上に立地する。この遺跡周辺には、「甘楽条里」と呼ばれる条里制に基づいた水田区画が現存し、この遺跡は坪境を跨ぐ形で位置している。

テント下方斜めの畦が、現存する条里区画の南北方向の坪境となる。

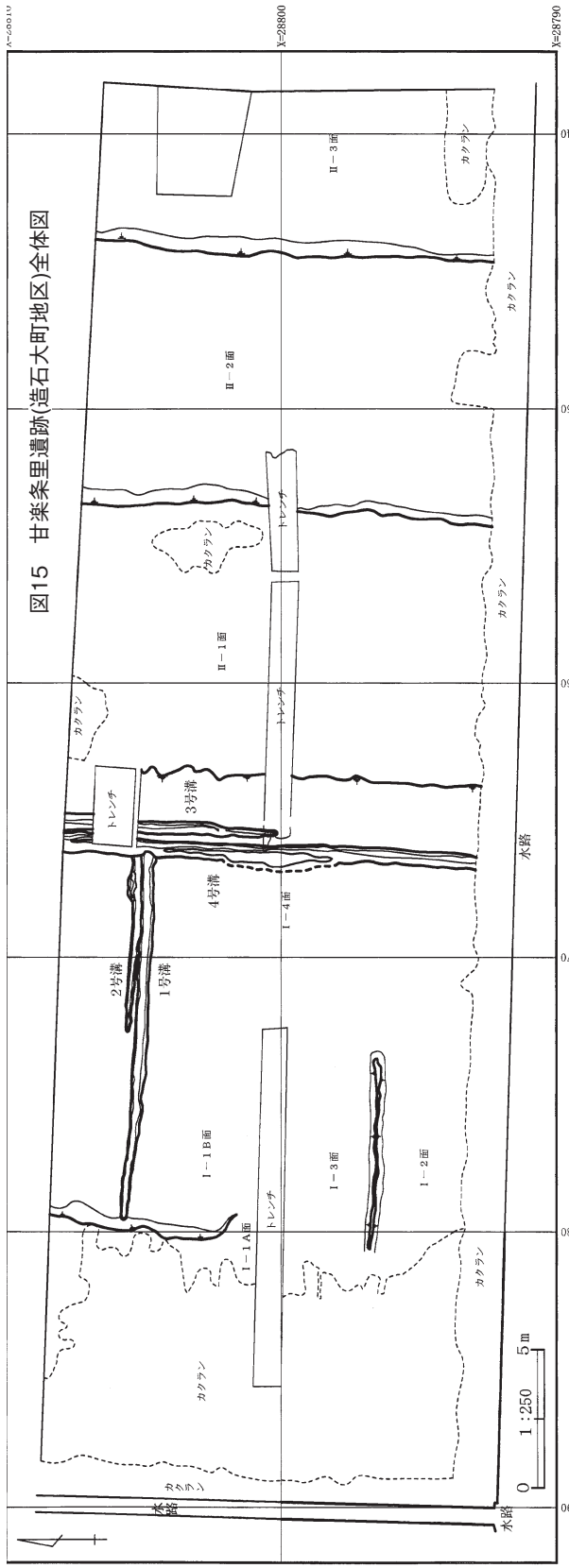


図15　甘楽条里遺跡(造石大町地区)全体図

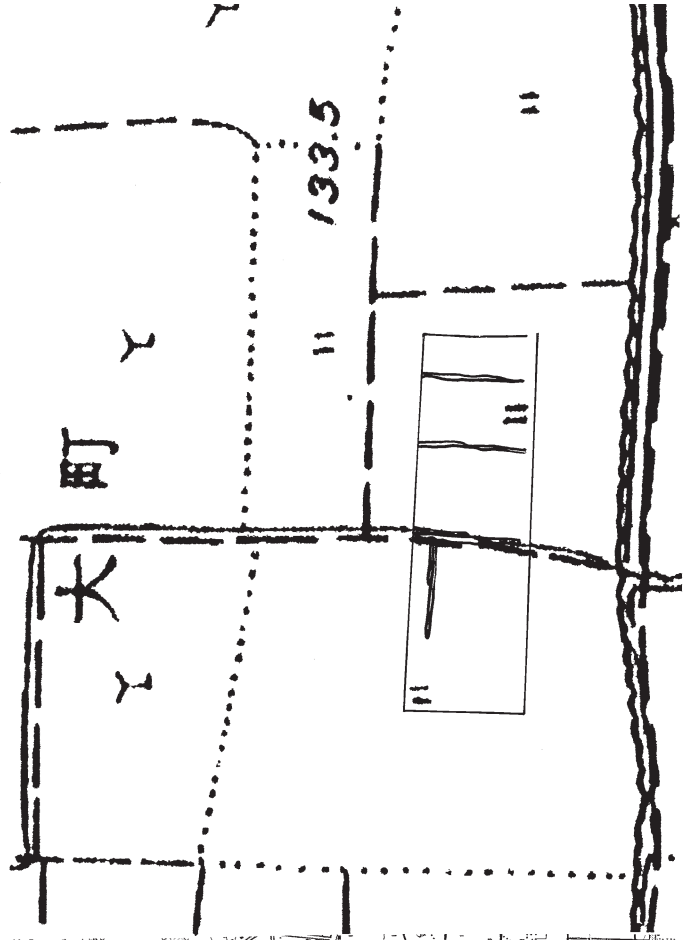


図17　甘楽条里遺跡(造石大町地区)位置図(S＝1：1,000，昭和49年甘楽町都市計画図)

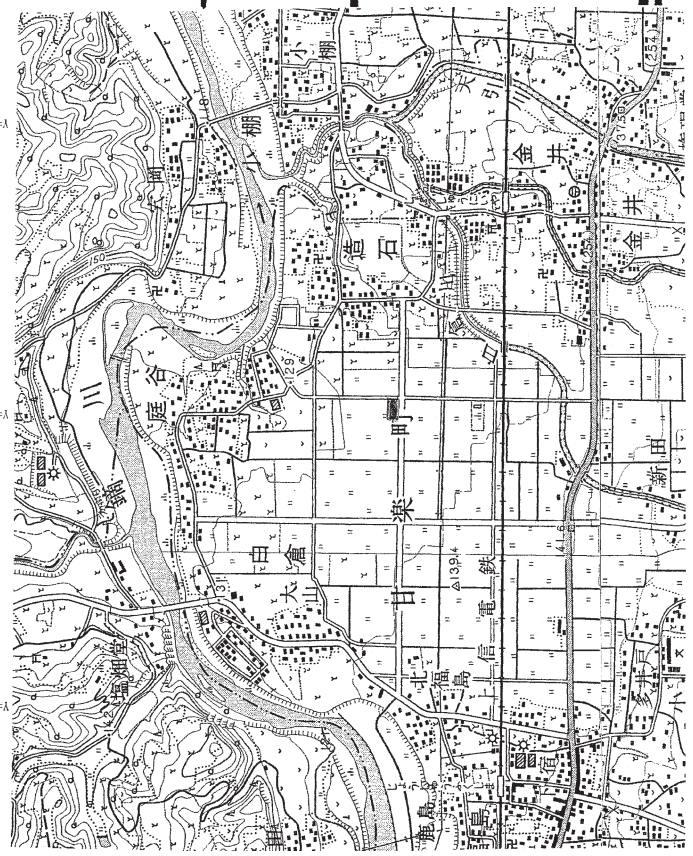


図16　甘楽条里遺跡(造石大町地区)位置図(S＝1：25,000)

Ⅲ　甘楽条里遺跡(造石大町地区)

この遺跡は、基本土層Ⅲ層(浅間Ｂ軽石を含む黒色土)の下面を調査面とした１面の調査である。

1　水　田

検出面　基本土層Ⅲ層(浅間Ｂ軽石を含む黒色土)の下面で検出。Ⅲ層は浅間Ｂ軽石(As-B)が耕作によって撹拌されて形成されたAs-B混土であることから、この水田面は旧地表面ではなく、Ⅲ層を耕作土とする水田の耕作土下面(基底面)。調査区域西端部は、Ⅲ層が削平されて基盤層が露出。**立地・地形**　西から東の方向への緩やかな下り勾配。基底面の標高は調査区の西側が133.45m、東側が135.10m、比高35cmで、勾配は約0.9％。**畦畔**　調査区域の南西部で東西方向の畦畔1条を検出。上幅10cm、下幅50cm、高さ1cmで、長さ7m、方位N-92°-E。As-B混土の下面で検出したことから、耕作痕型擬似畦畔と判断。また調査区域の東半部で、畦畔に直交し、西側から東側にかけて高さ数cmほど落ちる3条の段差を確認。これらの段差の間隔は約10mで、いずれも等高線に平行する形で南北に走行。棚田状に造成された水田区画の境と考えられ、広義の耕作痕型擬似畦畔と判断。**耕作土**　Ⅲ層の可能性が高い。**水口**　未確認。**用水路**　未確認。**取・配水構造**　地形的には南→北、西→東に配水する可能性が高い。**遺物**　無し。**重複**　水田面→１～４号溝の順で新しい。**年代**　詳細な年代は不明だが、浅間Ｂ軽石の降下年代である天仁元年(1108)以降で、この年代に比較的近い平安時代以降と推定。**所見**　この水田面はAs-B混土の下面で検出し、畦畔は同層を耕作土とする水田の耕作土下面の擬似畦畔。確認した南北方向の3条の段差は、東西方向に検出した畦畔と直交し、棚田状に造成された水田区画の境である可能性が高い。浅間Ｂ軽石降下以降の比較的近い年代である可能性があること、段差の走行が真北方向に近いことから、条里地割りの可能性も考えられるが一致しない。段差の走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における大畦と平行する(14頁図17参照)。

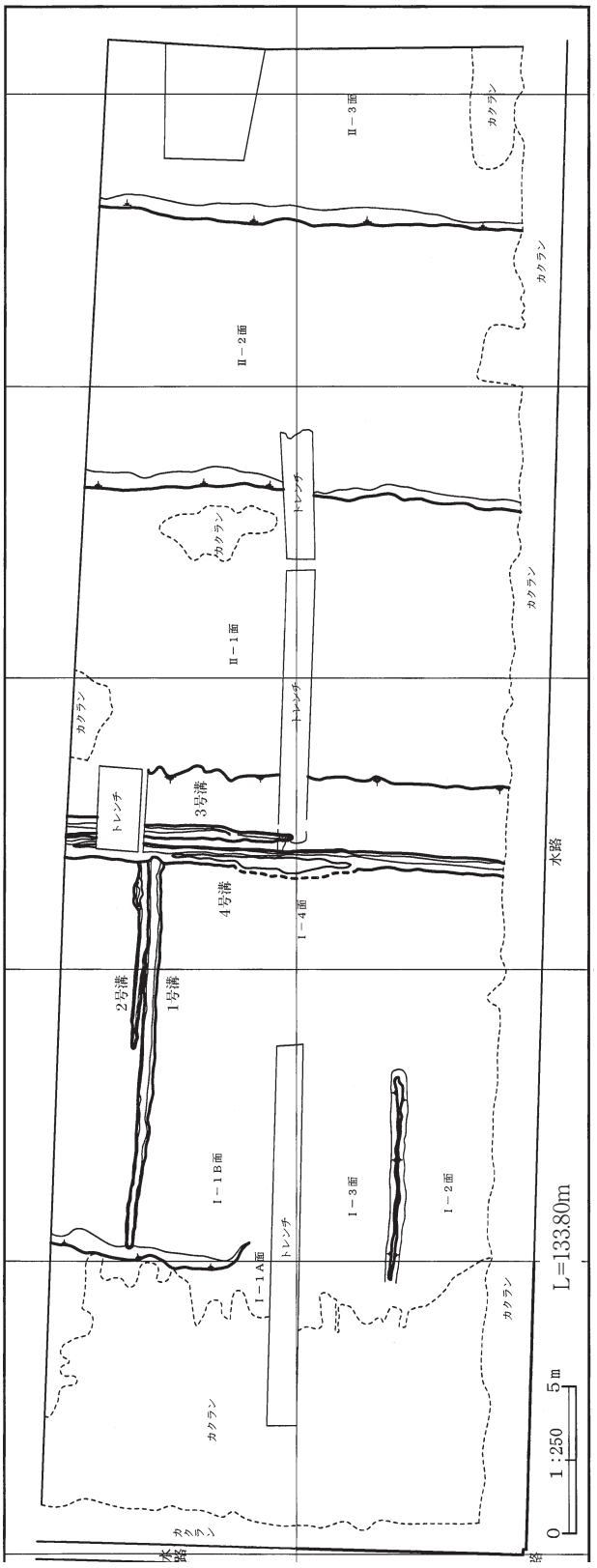


図18　甘楽条里遺跡(造石大町地区)水田全体図

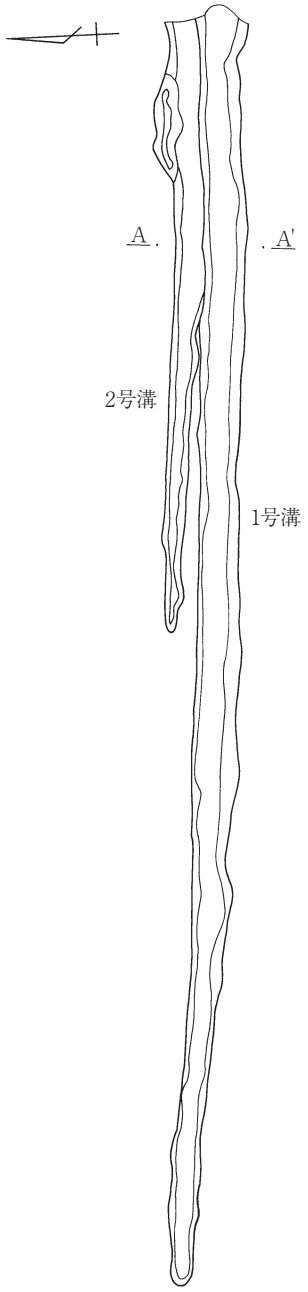
2　溝

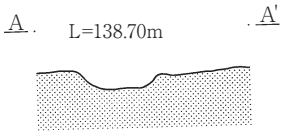
1号溝

規模・形状　上幅50cm、下幅20cm、深さ10cmで、底面はほぼ平坦な逆台形状。**走行**　西から東の方向に、等高線に直交する形で直線的に走行し、東端部は4号溝にほぼ直交する形で接続。方位N-92°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。西端部と東端部の比高は約5cmで、勾配は約0.4%。**遺物**　無し。**重複**　2号溝と重複するが、その走行は完全に平行。2溝→1溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、南北方向の用水路を結ぶ支線の用水路の可能性が高く、4号溝に合流することから、4号溝と同時存在した可能性が高い。

2号溝

規模・形状　上幅30cm、下幅15cm、深さ5cm、底面はほぼ平坦な逆台形状。**走行**　西から東の方向に、等高線に直交する形で直線的に走行し、東端部は4号溝にほぼ直交する形で接続。方位N-92°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。西端部と東端部の比高は約5cmで、勾配は約0.8%。**遺物**　無し。**重複**　1号溝と重複するが、その走行は完全に平行。2溝→1溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、南北方向の用水路を結ぶ支線の用水路の可能性が高く、4号溝に合流することから、4号溝と同時存在した可能性が高い。





0　1：40　1m

0　1：80　1m

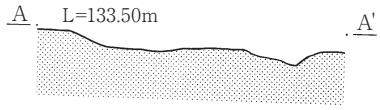
図19　1・2号溝

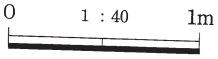
3号溝

規模・形状　上幅50cm、下幅15cm、深さ10cmの緩やかな船底状で、最下面は幅10cm、深さ5cmほどの深まりをもつ。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-2°-E。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約1.3％。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、その走行から用水路の可能性が高い。西側を平行して走行する４号溝とは、その距離が約30cmであることからおそらく時期が異なるものと考えられる。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における大畦とほぼ平行する(14頁図17参照)。

4号溝

規模・形状　上幅50cm、下幅20cm、深さ5cmで、底面はほぼ平坦な逆台形状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行し、１・２号溝が、ほぼ直交する形で接続。方位N-2°-E。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.7％。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代を判定する資料を欠くが、平安時代の可能性の高い水田を掘り込んでいることから、中世以降と推定。**所見**　詳細な年代は不明であるが、その走行から用水路の可能性が高い。接続する１・２号溝と同時存在したものと考えられる。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における大畦に極めて近い位置でほぼ平行する(14頁図17参照)。





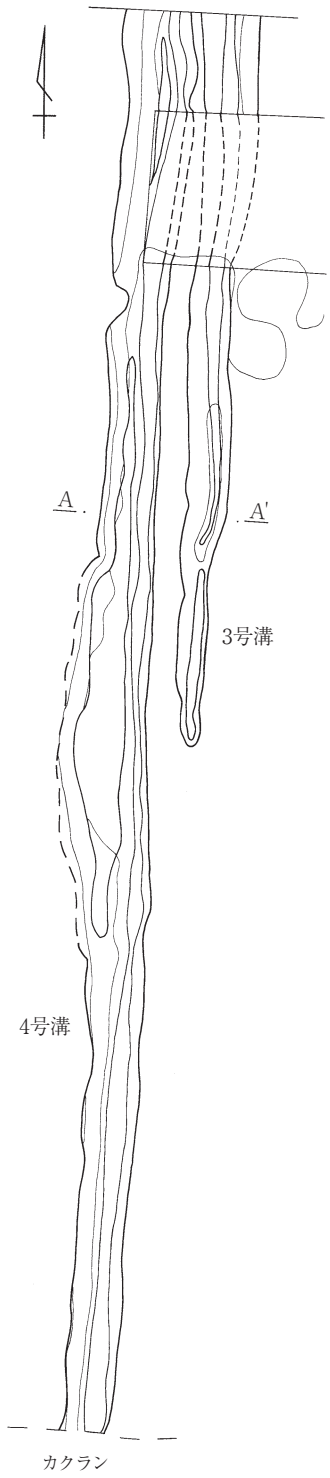


図20　３・４号溝

甘楽条里遺跡(造石大町地区)全景(東から)

Ⅳ　塚田遺跡

所在地：多野郡吉井町片山

遺跡遠景　(西から吉井町市街地方面を望む)

遺跡は鏑川の右岸段丘上で、白倉川左岸の微高地上に立地する。写真中央を斜めに横切る舗装道路の上側(東側)は、北東流する白倉川の低地部で、シートの部分が田島遺跡となる。

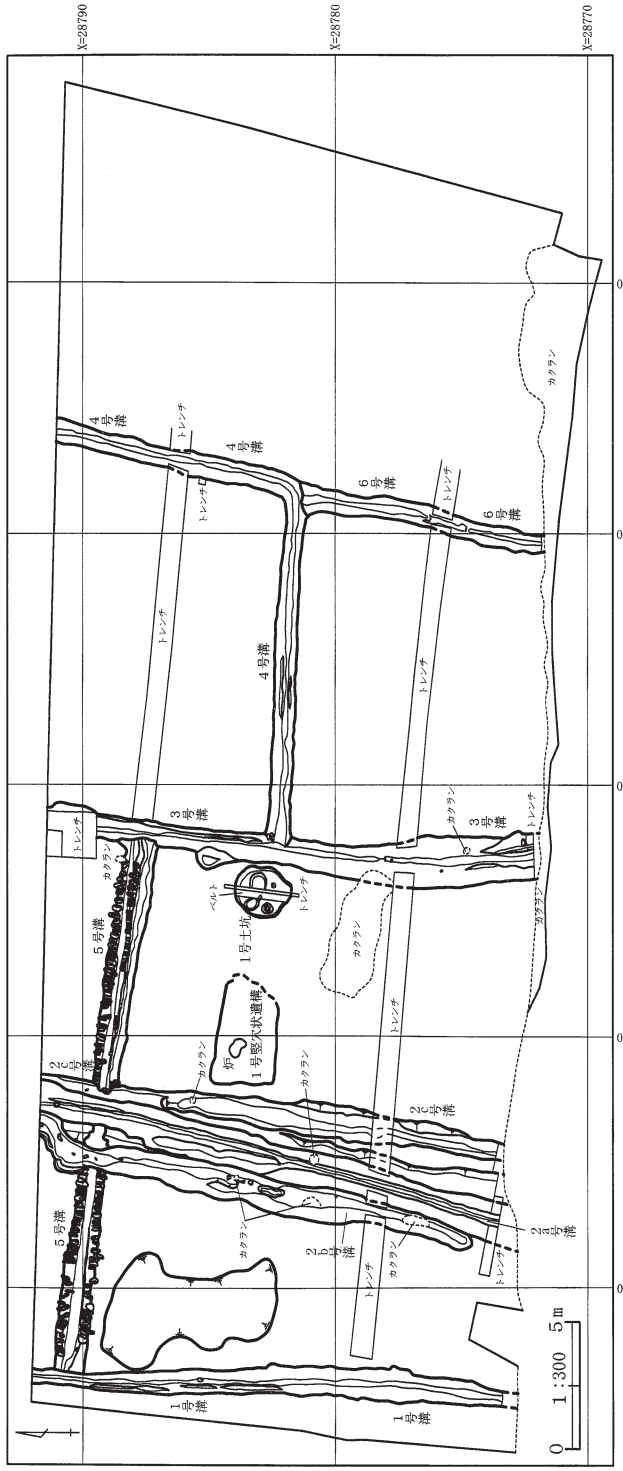


図21　塚田遺跡第１面全体図（S=1：300）

図22　塚田遺跡第２面全体図（S=1：300）

X=28790
X=28780
X=28770
Y=-78980
Y=-78970
Y=-78960
Y=-78950
Y=-78940
1号建物
2号掘立
3号掘立
4号掘立
5号掘立
6号掘立
7号掘立
8号掘立
9号掘立
10号掘立
11号掘立
12号掘立
13号掘立
1号溝
8号溝
9号溝
10号溝
11号溝
12号溝
13号溝
14号溝
15号溝
16号溝
17号溝
18号溝
トレンチ
風倒木
カクラン
1号井戸
0
1:150
5m

図23

Ⅳ　塚田遺跡

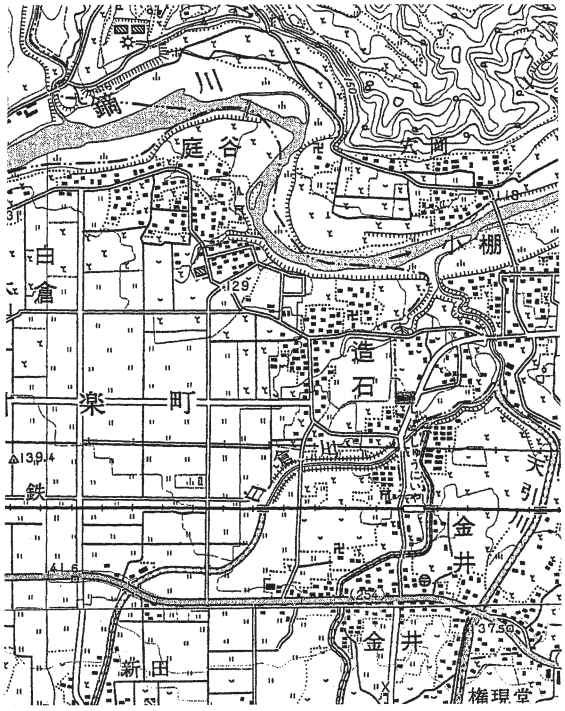


図24　塚田遺跡位置図(Ｓ＝1：25,000)

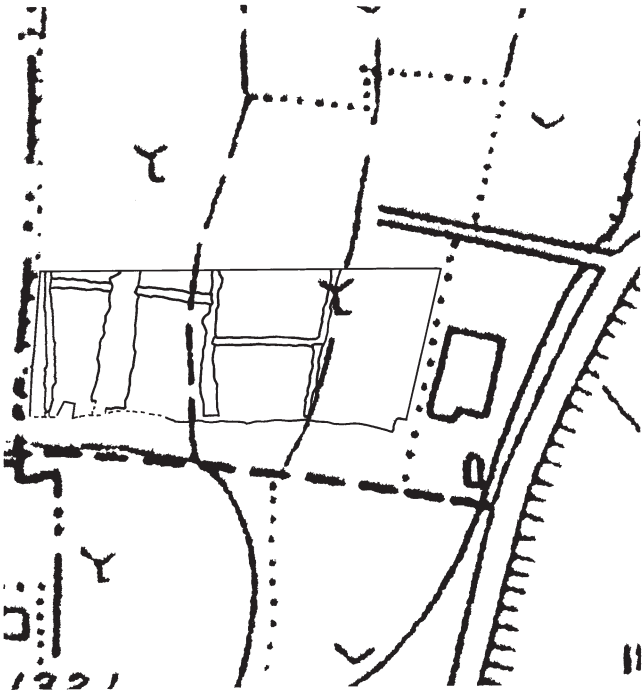


図25　塚田遺跡位置図(Ｓ＝1：1,000, 昭和49年甘楽町都市計画図)

1　第1面

第１面の調査は、基本土層Ⅱ層(灰暗褐色土)上面を調査面とした。

(1)竪穴状遺構

1号竪穴状遺構(写真PL.5)

規模・形状　遺構の東側は掘り込みが浅くなって確認できないため全形は不明だが、短軸2.4m、長軸4.4m以上で、東西に長軸をもつ長方形。**床面**　基盤層を5cm掘り込んで平坦な床面を造る。**柱穴**　無し。**炉**　遺構の北西部に短軸50cm、長軸80cm、深さ5cmの不整円形ピットがあり、この内部に焼土を検出。**貯蔵穴**　無し。**遺物**　無し。**重複**　無し。**長軸方位**　N-94°-E。**面積**　計測不可。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　平地式建物の可能性があるが、その性格は不明。

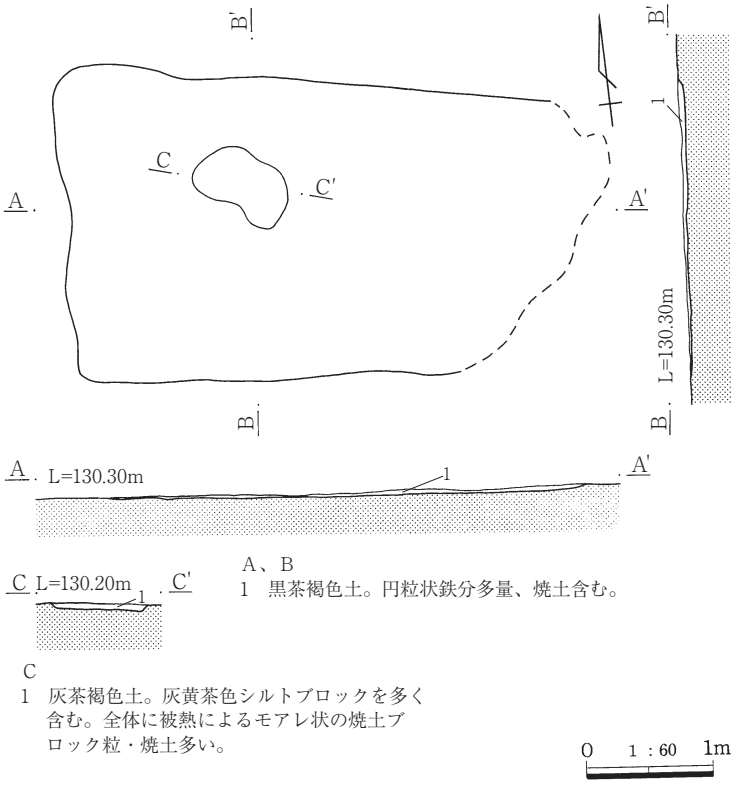


図26　1号竪穴状遺構

(2)土坑

1号土坑(写真PL.5)

規模・形状　短軸2.0m、長軸2.2m、深さ10cmで、南北にやや長い不整円形。内部に短軸60cm、長軸70cm以上、深さ10cmの楕円形状、短軸45cm、長軸55cm、深さ10cmの不整円形状、直径40cm、深さ10cmの円形ピットを検出。円形ピットは中央部に河原石が出土。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細は不明だが、中世と推定。

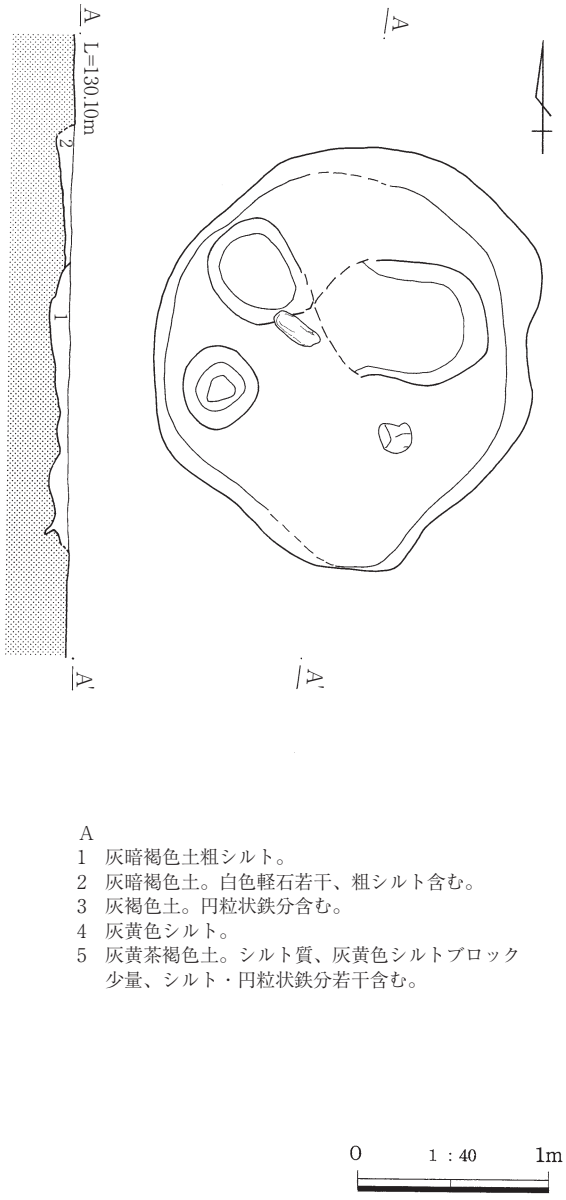


図27　1号土坑

(3)溝

1号溝(写真PL.6、遺物観察55頁)

規模・形状　上幅1.0m、下幅30cm、深さ20cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方

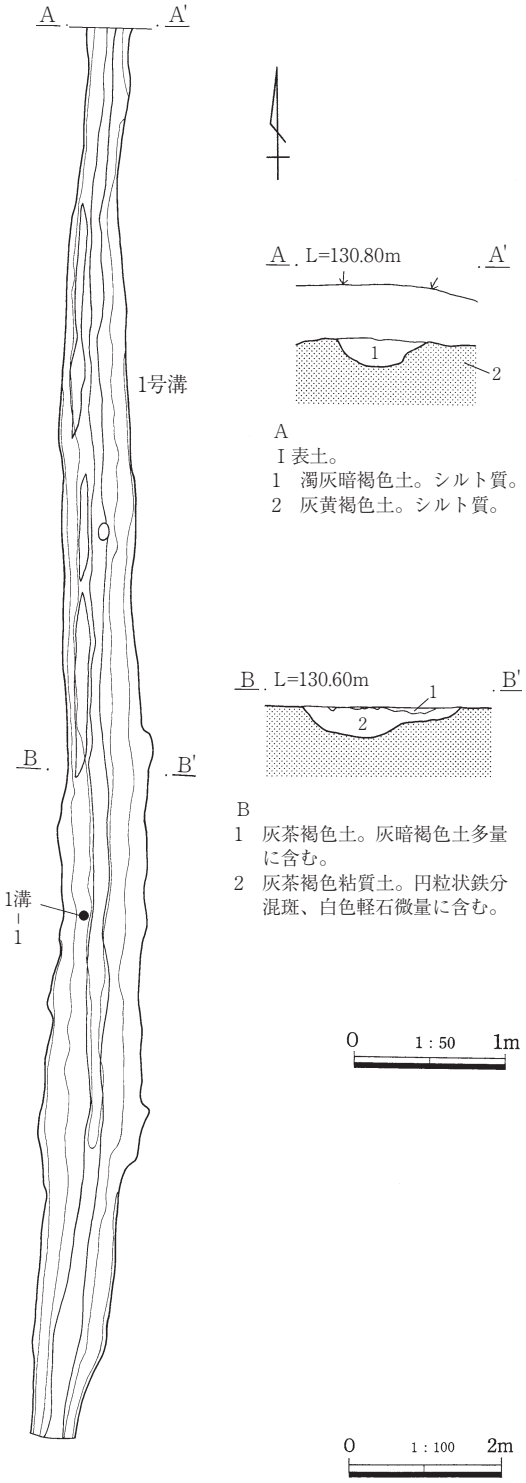


図28　1号溝

位N-2°-E。北端部で５号溝がほぼ直交する形でと接続して、東側に延びる。底面の標高は南側が高く北側が低い。調査区域の南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.6％。**遺物**　覆土内から軟質陶器内耳鍋の口縁部～胴部の破片が出土。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物から中世と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高く、５号溝に接続することから５号溝と同時存在した可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りとほぼ平行する(23頁図25参照)。

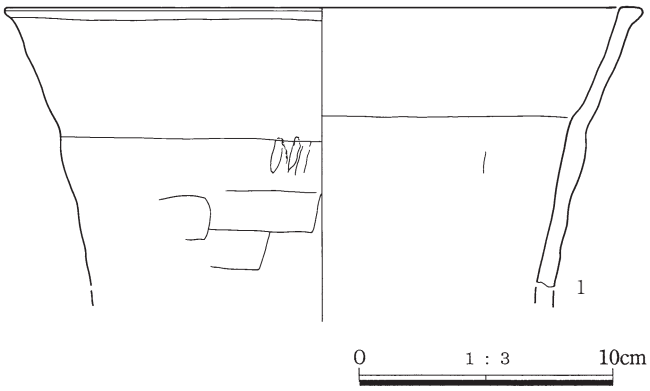


図29　1号溝出土遺物

２ａ号溝(写真PL.6)

規模・形状　上幅1.4m、下幅60cm、深さ50cmの逆台形状で、最下面は幅20cm、深さ10cmの緩やかな船底状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-14°-E。底面の標高は南側が高く北側が低い。南端部と北端部の比高は約5cmで、勾配は約0.3％。**遺物**　無し。**重複**　２ｂ・２ｃ号溝と重複するが、その走行はほぼ平行。２ｂ・２ｃ→２ａ溝の順で新しい。また、北端部で５号溝と重複。２ａ・２ｂ・２ｃ溝→５溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世以降と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りとほぼ平行する(23頁図25参照)。

２ｂ号溝(写真PL.6、遺物観察55頁)

規模・形状　上幅1.4m、下幅50cm、深さ30cmの逆台形状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-14°-E。底面の標高は南側が高く北側が低い。南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.6％。**遺物**　軟質陶器片口鉢が出土。**重複**　２ａ号溝と重複するが、その走行はほぼ平行。２ｂ溝→２ａ溝の順で新しい。また、北端部で５号溝と重複。２ｂ溝→５溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物から中世以降と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。昭和49年測図の甘楽町都市計画図の地割りとほぼ平行(23頁図25参照)。

２ｃ号溝(写真PL.6)

規模・形状　上幅1.3m、下幅30cm、深さ15cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-8°-E。底面の標高は南側が高く北側が低い。南端部と北端部の底面の比高は数cmでほぼ平坦。**遺物**　無し。**重複**　２ａ号溝と重複するが、その走行はほぼ平行。２ｃ溝→２ａ溝の順で新しい。また、北端部で５号溝と重複。２ｃ溝→５溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世以降と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高く、２ａ・２ｂ号溝は、一連の溝の掘り直しの可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りとほぼ平行する(23頁図25参照)。

２ａ･２ｂ･２ｃ号溝（西から）
（上から２ｃ・２ａ･２ｂ号溝）

図30　2a·2b·2c号溝・出土遺物

3号溝(写真PL.6、遺物観察55頁)

規模・形状　上幅1.1m、下幅20cm、深さ30cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　南から北の方向に、等高線を鋭角に横切る形で直線的に走行。方位N-7°-E。北端部で4・5・6号溝と接続接合。南端部と

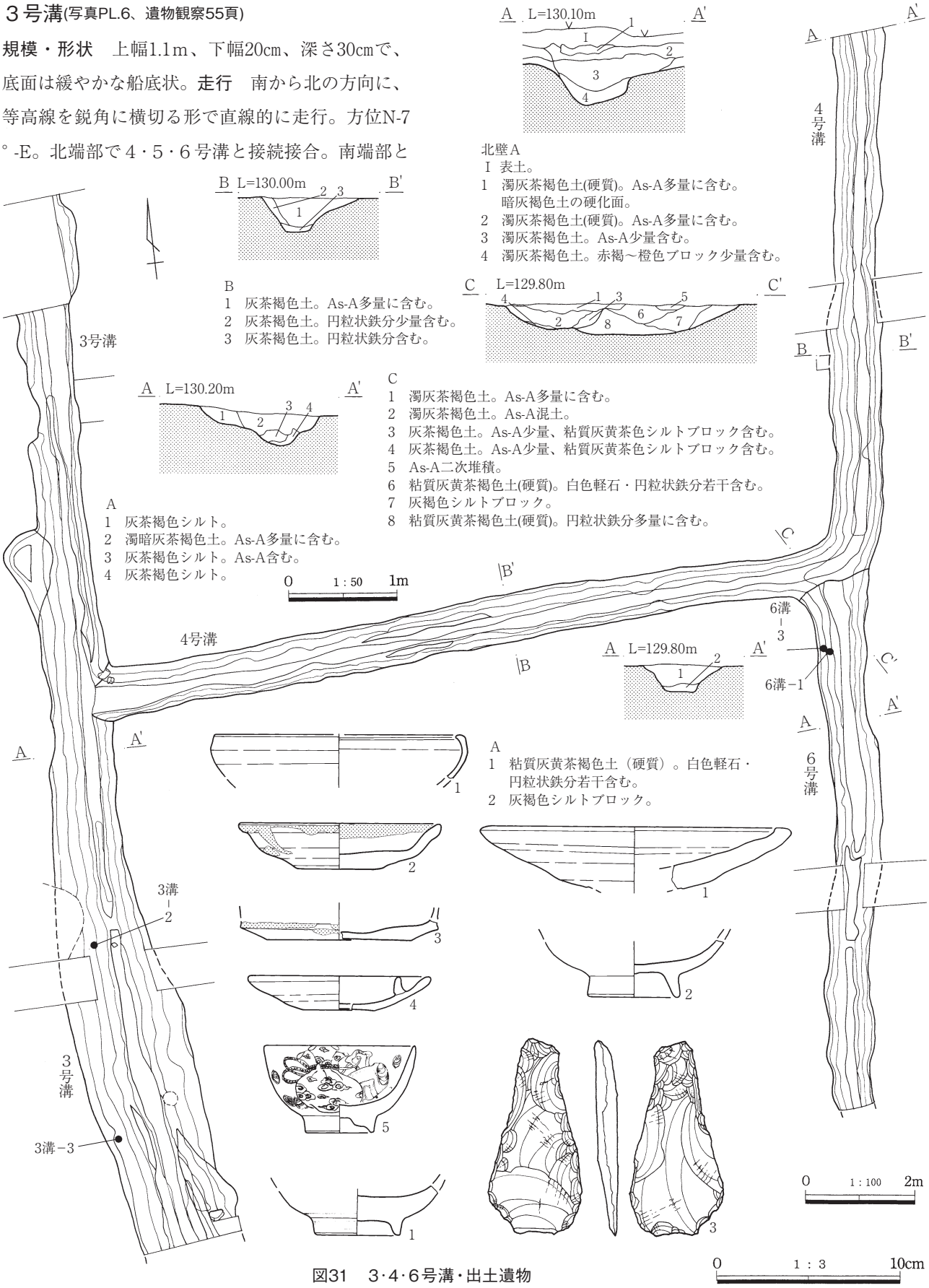


図31　3·4·6号溝・出土遺物

北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　陶磁器が出土。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物から江戸時代と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。４・５・６号溝に接続することからこれらと同時存在した可能性が高く、この溝間は水田であった可能性が高い。走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りとほぼ平行する(23頁図25参照)。

４号溝(写真PL.6、遺物観察55頁)

規模・形状　上幅1.0m、下幅25cm、深さ30cmで、底面は緩やかな船底状。**走行**　３号溝から分岐して東進し、約100°の角度で北側に折れる。西から東、南から北の方向に直線的に走行。方位は東西方向N-93°-E、南北方向N-15°-E。３号溝分岐部と北折部の比高は約10cmで、勾配は約0.8％、北折部と北端部の比高は約5cmで、勾配は約1.0％。**遺物**　磁器碗が出土。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物から江戸時代と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。３・６号溝に接続することからこれらと同時存在した可能性が高く、この溝間は水田であった可能性が高い。昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りにほぼ平行する(23頁図25参照)。

５号溝(写真PL.6)

規模・形状　上幅1.0m、下幅30cm、深さ15cmで、底面は緩やかな船底状。溝の法面部を中心に鋤状の工具による掘削痕が顕著。平均的な掘削痕は幅30cm、長さ15cm、深さ5cm。**走行**　１号溝から分岐して西から東の方向に直線的に走行し、３号溝に接続。それぞれの接続の角度はほぼ直交。方位N-96°-E。１号溝分岐部と３号溝接続部の比高は約20cmで、勾配は約1.0％。**遺物**　無し。**重複**　２a・２b・２c号溝と重複。２a・２b・２c号溝→５号溝の順で新しい。**年代**　覆土に天明３年(1873)の浅間Ａ軽石(As-A)が一次堆積していることから、江戸時代と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。１・３号溝に接続することからこれらと同時存在した可能性が高く、この溝間は水田であった可能性が高い。

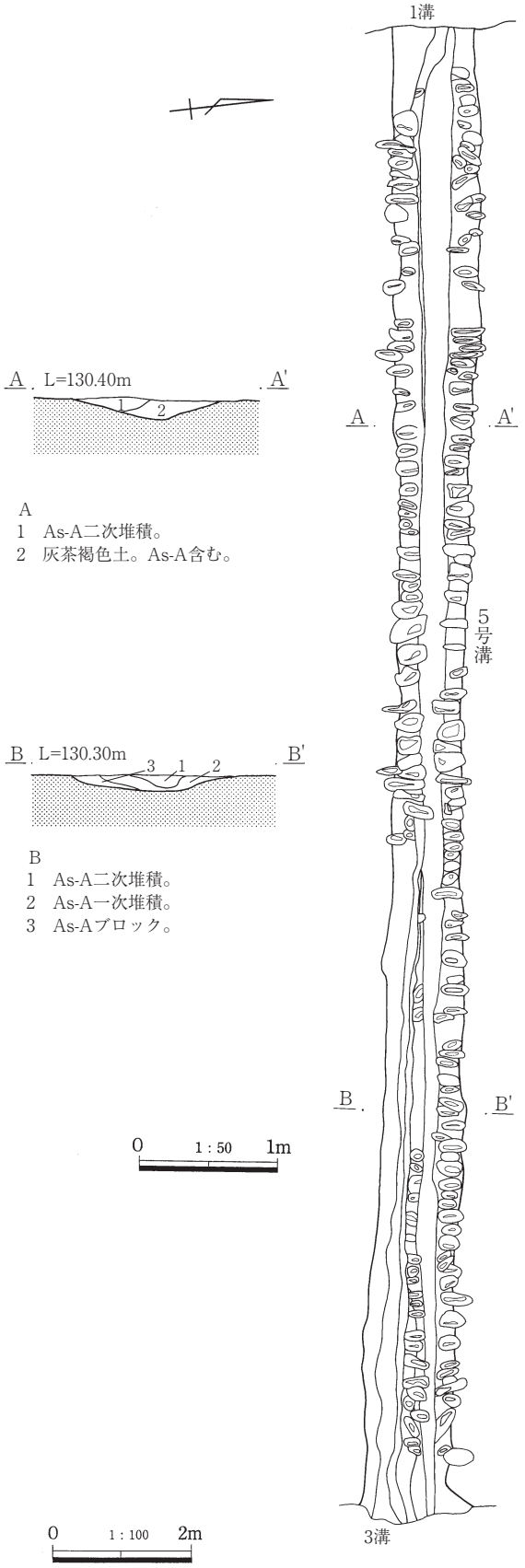


図32　５号溝

走行は、昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りにほぼ直交する(23頁図25参照)。

６号溝(写真PL.6、遺物観察55頁)

規模・形状　上幅90cm、下幅20cm、深さ25cmの逆台形状。**走行**　南から北の方向に直線的に走行し、４号溝と接続。方位N-15°-E。南端部と４号溝接続部の比高は約5cmで、勾配は約0.5％。**遺物**　陶器碗が出土。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物から江戸時代と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。３号溝から分岐した４号溝に接続することからこれらと同時存在した可能性が高く、この溝間は水田であった可能性が高い。昭和49年測図の甘楽町都市計画図における地割りとほぼ平行する(23頁図25参照)。

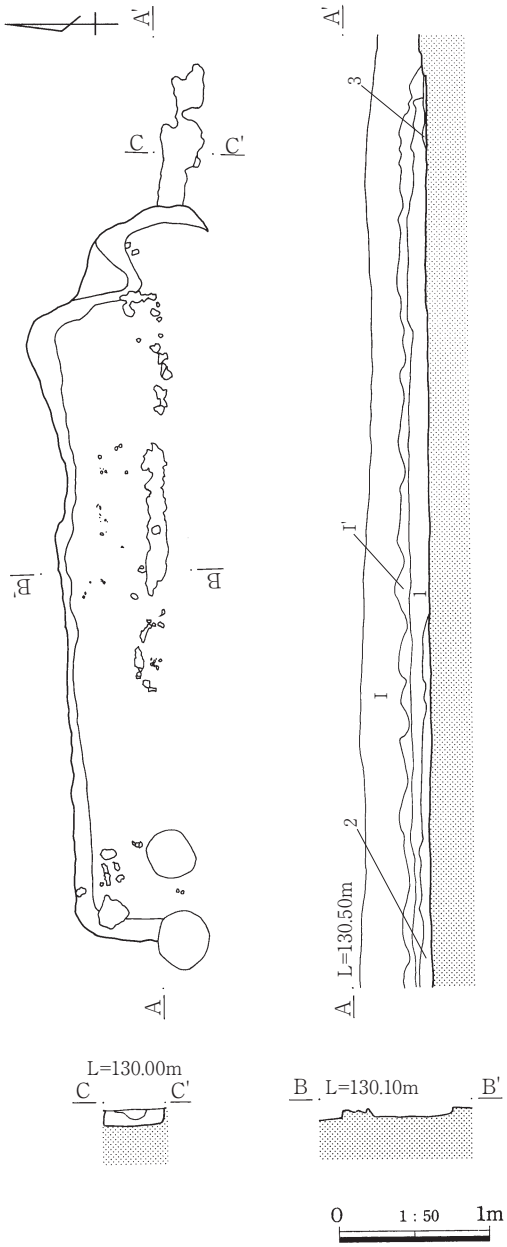
2　第２面

第２面の調査は、基本土層Ⅳ層(灰褐色シルト)上面を調査面とした。

(１)建物

１号建物(写真PL.7、遺物観察55頁)

規模・形状　遺構の北側が調査区域外で全形は不明だが、建物が消失した際に焼土化した土壁材の基部が、幅15cm、高さ5cm、長さ4mにわたって出土。**床面**　未確認。**柱穴**　未確認。**炉**　未確認。**貯蔵穴**　未確認。**遺物**　軟質陶器内耳鍋破片が出土。**重複**　無し。**長軸方位**　N-95°-E。**面積**　計測不可。**年代**　伴出遺物から中世と推定。**所見**　この遺構のものと考えられる焼土化した土壁材が、南側7mに位置する８号溝及び東側4mを走行する16号溝の南端部から出土し、特に16号溝からは集中的に出土していることから、これらはこの建物に近い年代で、関係する何らかの遺構であった可能性がある。



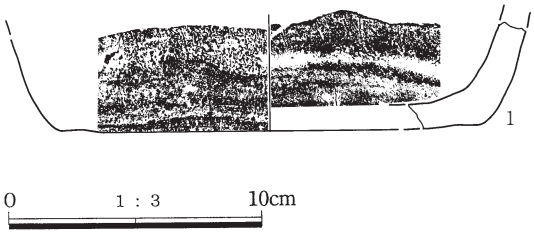
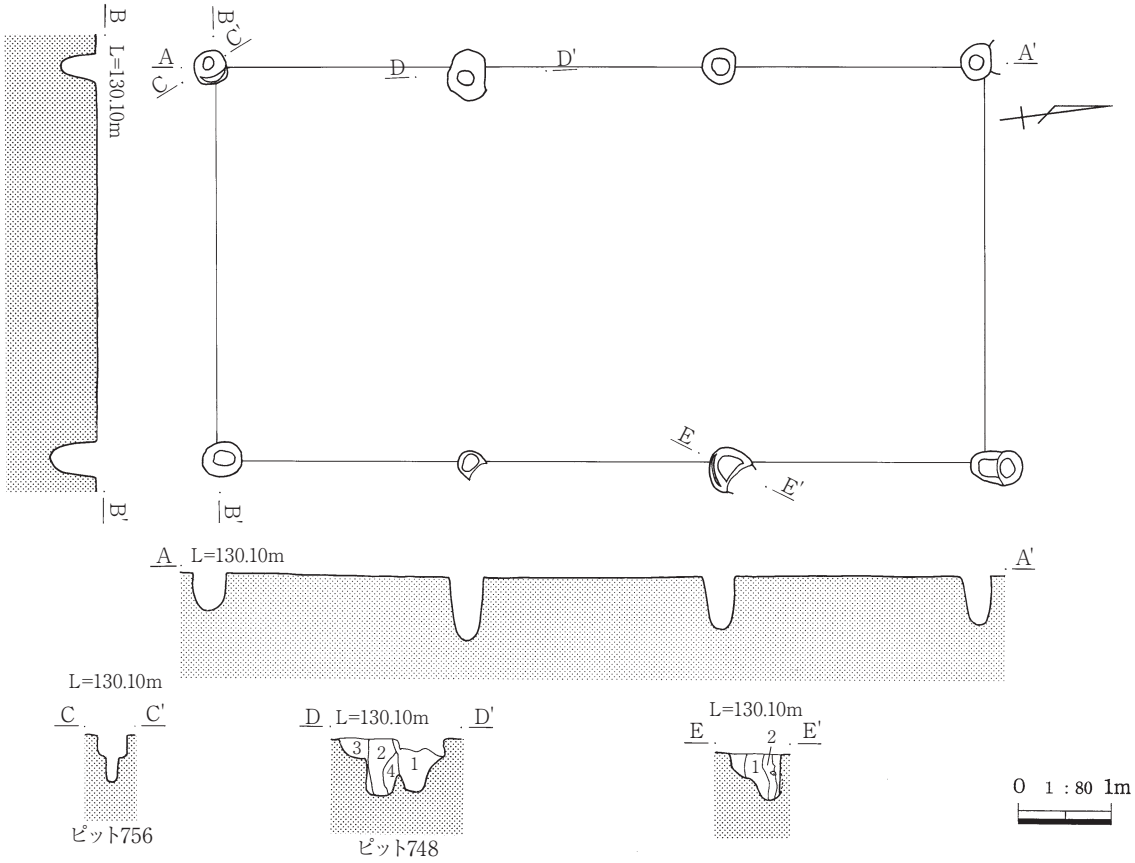


図33　１号建物・出土遺物

(２)掘立柱建物

１号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　1間×3間の側柱式。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.2m、長軸8.2mで、長軸を南北にもつ長方形。**柱穴**　直径20～50cm、深さ40～70cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　２・３・４号掘立柱建物と重複。１号掘立→２号掘立の順で新しい。３・４号掘立との新旧関係は不明。**長軸方位**　N-8°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　西群に位置する。重複する２号掘立柱建物とは規模・軸線の傾きが近似し、１号掘立→２号掘立の順で建て替えの関係にあると考えられる。



ピット747･748
D
1　灰暗褐色土。橙色土斑に含む。
2　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量に含む。
3　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
4　灰黄色シルト。

ピット769･770
E
1　灰暗褐色土。橙色土斑に含む。
2　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。

図34　1号掘立柱建物

２号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　1間×3間の側柱式。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.2m、長軸8.1mで、長軸を南北にもつ長方形。**柱穴**　直径30～50cm、深さ20～60cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　１・３・４号掘立柱建物と重複。１号掘立→２号掘立の順で新しい。３・４号掘立との新旧関係は不明。**長軸方位**　N-7°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　西群に位置する。重複する１号掘立柱建物とは規模・軸線の傾きが近似し、１号掘立→２号掘立の順で建て替えの関係にある。

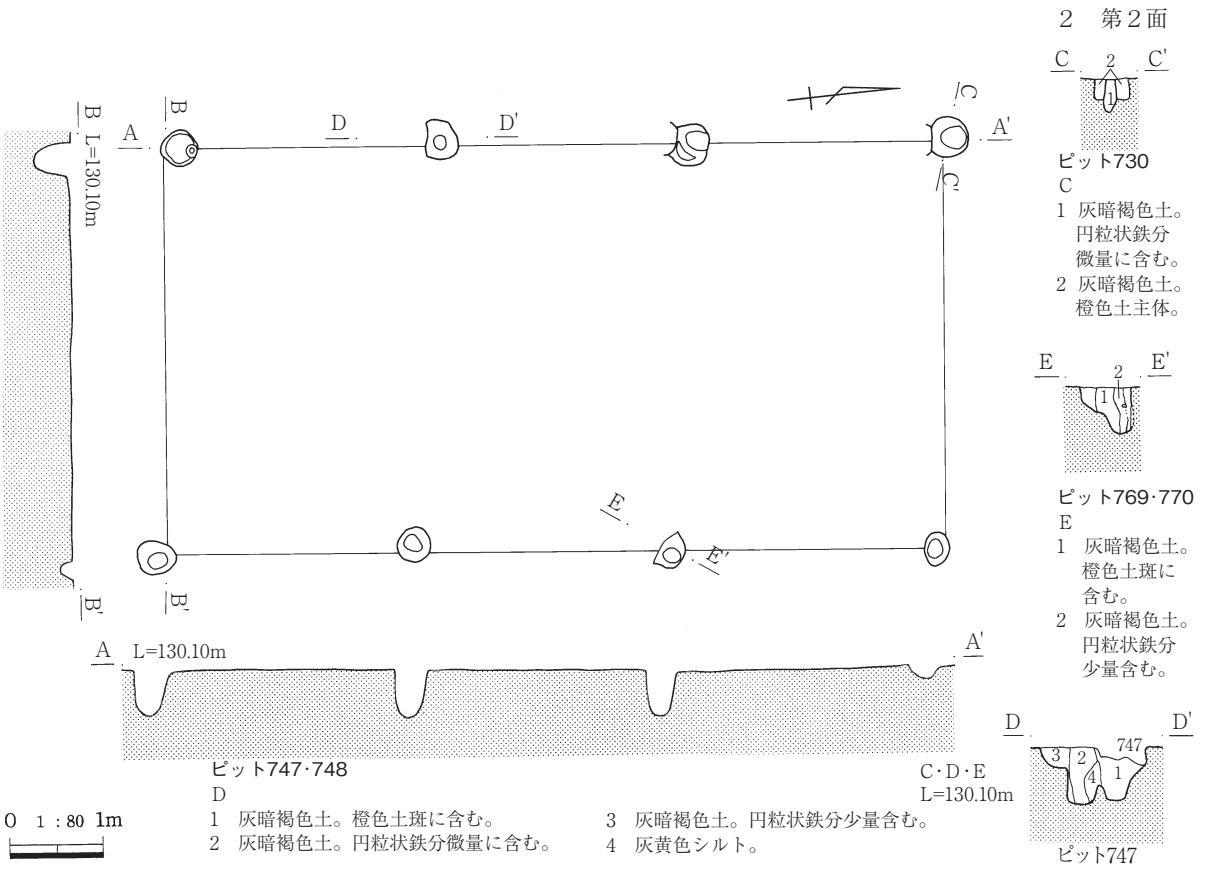


図35　2号掘立柱建物

3号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　1間×3間の側柱式。南東隅に位置する1個は不明で、確認漏れと判断。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸3.5m、長軸7.1mで、長軸を東西にもつ長方形。**柱穴**　直径40～60cm、深さ50

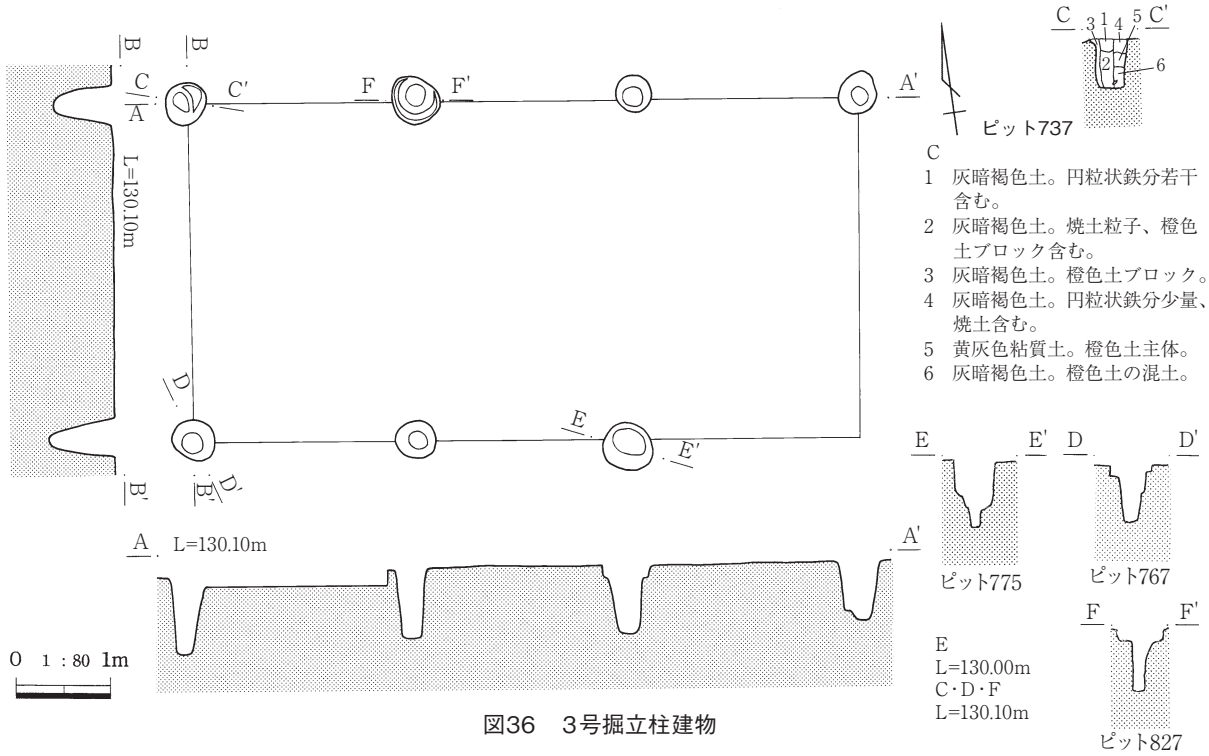


図36　3号掘立柱建物

～70cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　1・2号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-95°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　西群に位置する側柱式の建物。長軸の方向が重複する1・2号掘立とは直交し、南側に近接する4号掘立とほぼ平行する。

4号掘立柱建物(写真PL.8、遺物観察55頁)

柱間　1間×3間の側柱式。北面と西面に下屋が付く。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸3.8m、長軸7.2mで、長軸を東西にもつ長方形。下屋は北面・西面ともに柱穴間で長さ70cm。**柱穴**　直径30～50cm、深さ40～60cmの円形掘り方。**遺物**　覆土内から淳佑元寶が出土した他、柱穴の底面付近から柱根が出土。**重複**　1・2号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-99°-E。**年代**　覆土内から出土した淳佑元寶(1252年初鋳)から、中世と推定。**所見**　西群に位置する側柱式の建物。長軸の方向が重複する1・2号掘立とは直交し、近接する3号掘立とほぼ平行する。

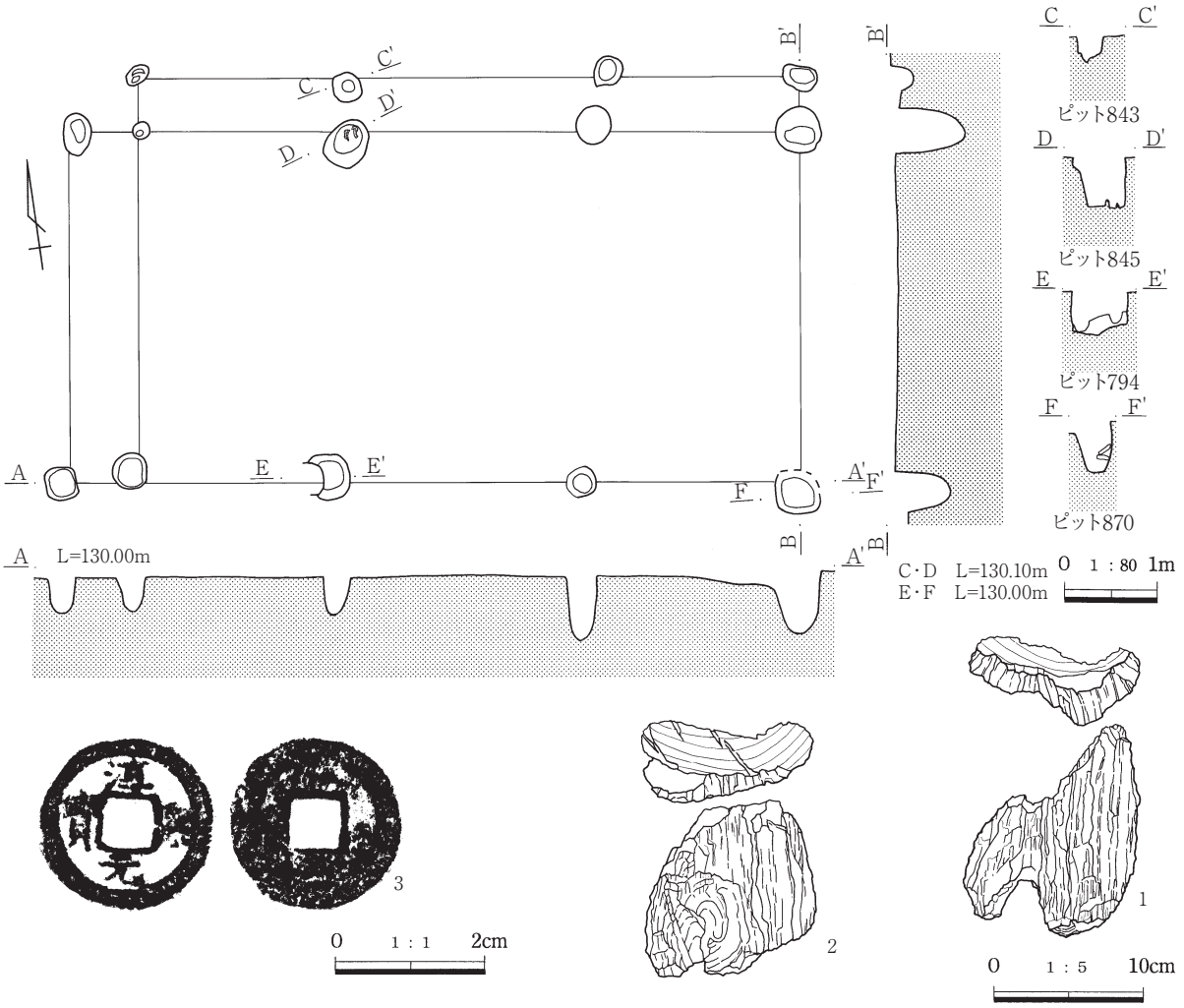


図37　4号掘立柱建物・出土遺物

5号掘立柱建物(写真PL.8、遺物観察55頁)

柱間　1間×1間の側柱式。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸2.4m、長軸4.3mで、南北に長軸をもつ長方形。**柱穴**　直径40～60cm、深さ50～70cmの円形掘り方。**遺物**　ピット880の底面から

柱根が出土。**重複**　無し。**長軸方位**　N-10°-E。**年代**　年代の判定が可能な伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　西群に位置する側柱式の建物。この遺跡で確認した掘立柱建物のなかで、最も規模が小さい。長軸の方向は、4号掘立を挟んで近接する1・2号掘立とほぼ平行する。

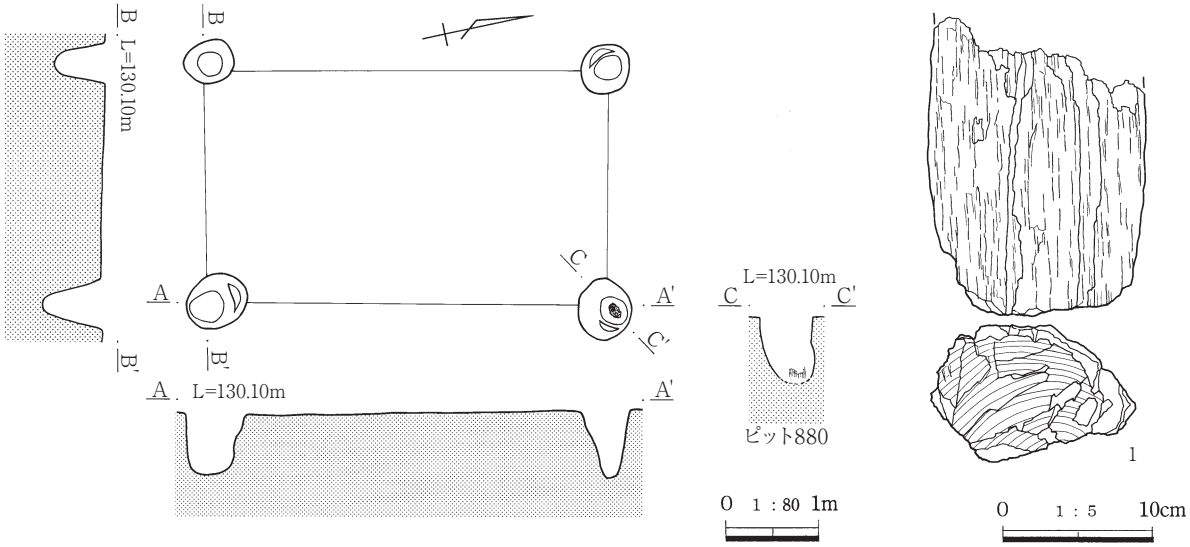


図38　5号掘立柱建物・出土遺物

6号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　遺構の北側が調査区域外で、全形は不明。3間×2間以上の側柱式と推定。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.5m、長軸4.5m以上で、南北に長軸をもつ長方形と推定。下屋は柱穴間で長さ2.1m。**柱穴**　直径20～40㎝、深さ20～60㎝の円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　7・8号掘立柱

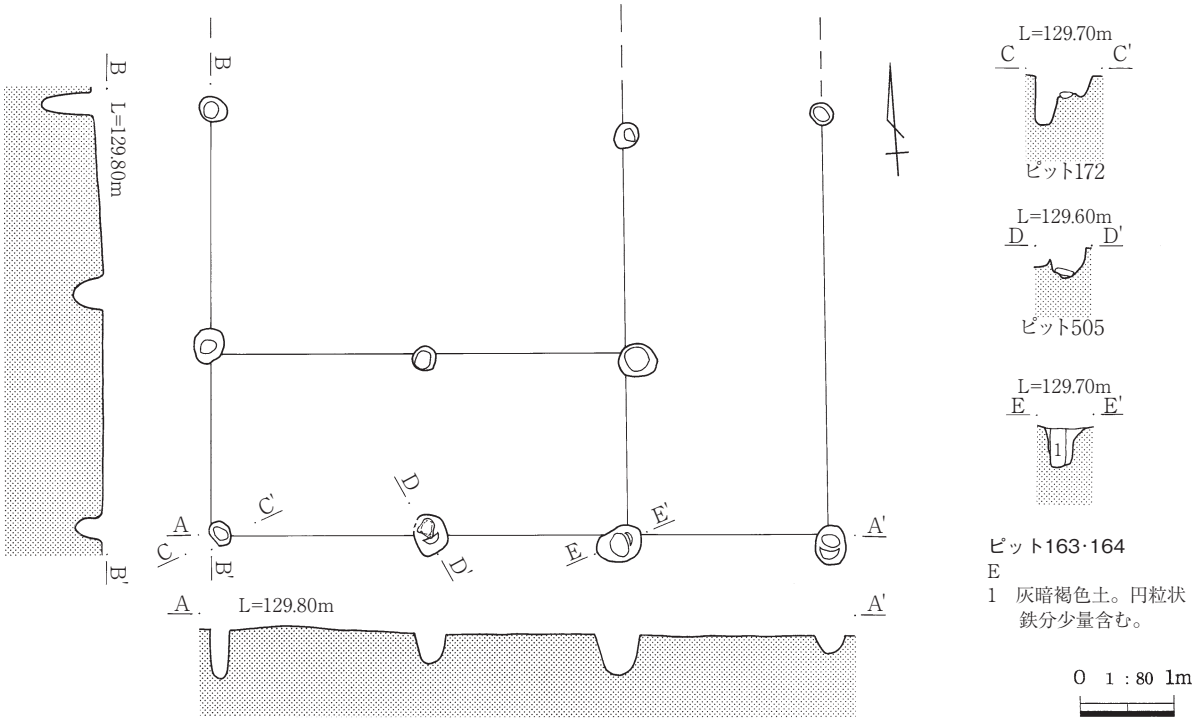


図39　6号掘立柱建物

建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-97°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する。重複する７・８号掘立とは、軸線の傾きがやや異なる。

７号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　2間×3間の側柱式。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.0m、長軸6.6mで、東西に長軸をもつ長方形。**柱穴**　直径20～40cm、深さ20～60cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　6・8・9・11号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-100°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する。重複する６号掘立とは、軸線の傾きがやや異なる。

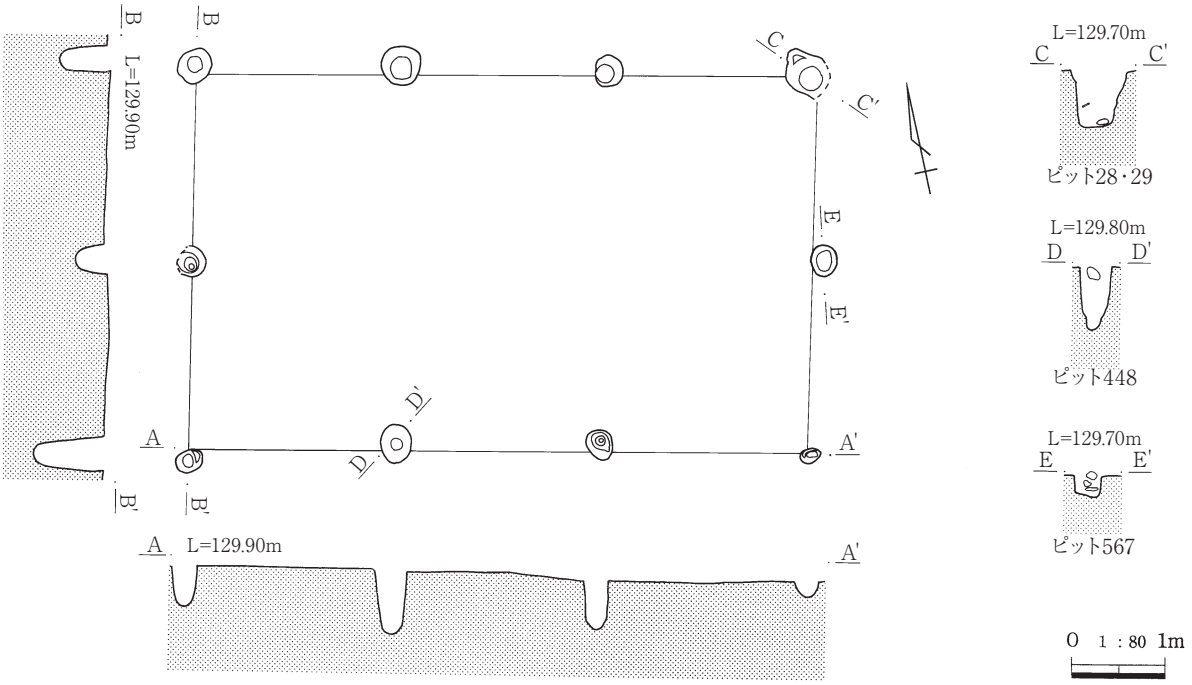
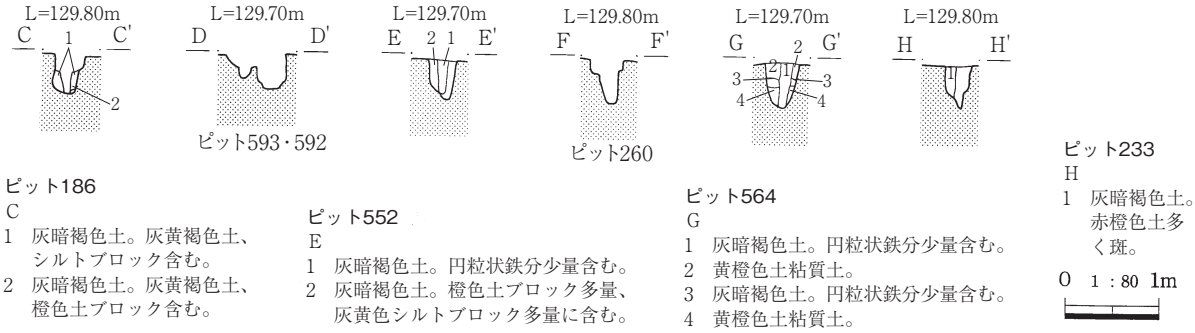


図40　7号掘立柱建物

８号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　3間×5間の総柱式。内部の柱を省略した部分がある。北西角の柱穴を欠くが、全体の状況から総柱式と判断。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸6.3m、長軸10.9mで、南北に長軸をもつ長方形。**柱穴**　直径30～50cm、深さ30～40cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　6・7・9・10・11・12号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-10°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する。重複する６号掘立とは、軸線の傾きがやや異なる。



ピット186
C
1　灰暗褐色土。灰黄褐色土、シルトブロック含む。
2　灰暗褐色土。灰黄褐色土、橙色土ブロック含む。

ピット552
E
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土ブロック多量、灰黄色シルトブロック多量に含む。

ピット564
G
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　黄橙色土粘質土。
3　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
4　黄橙色土粘質土。

ピット233
H
1　灰暗褐色土。赤橙色土多く斑。

図41　8号掘立柱建物

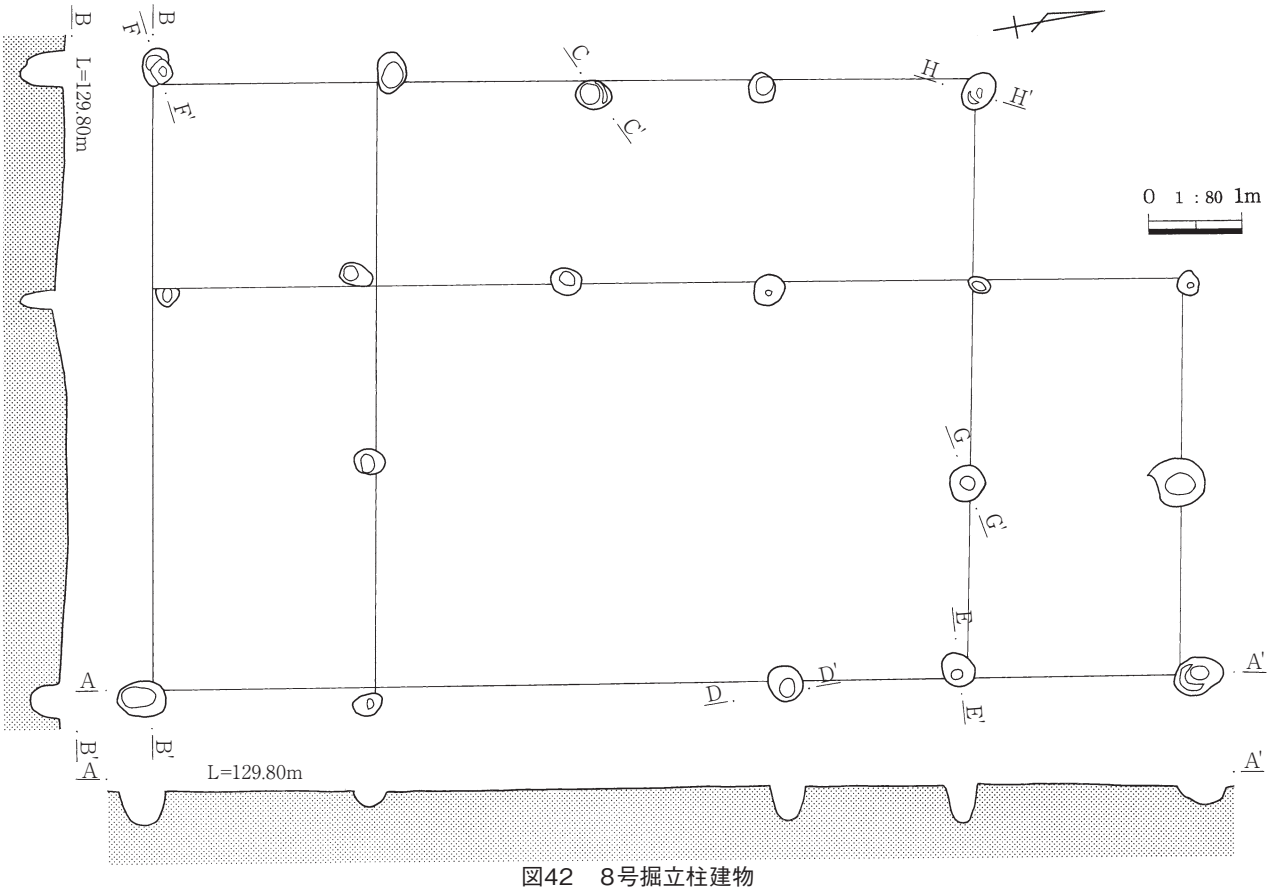


図42　8号掘立柱建物

9号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　1間×3間の側柱式。西面に下屋が付く。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸3.7m、長

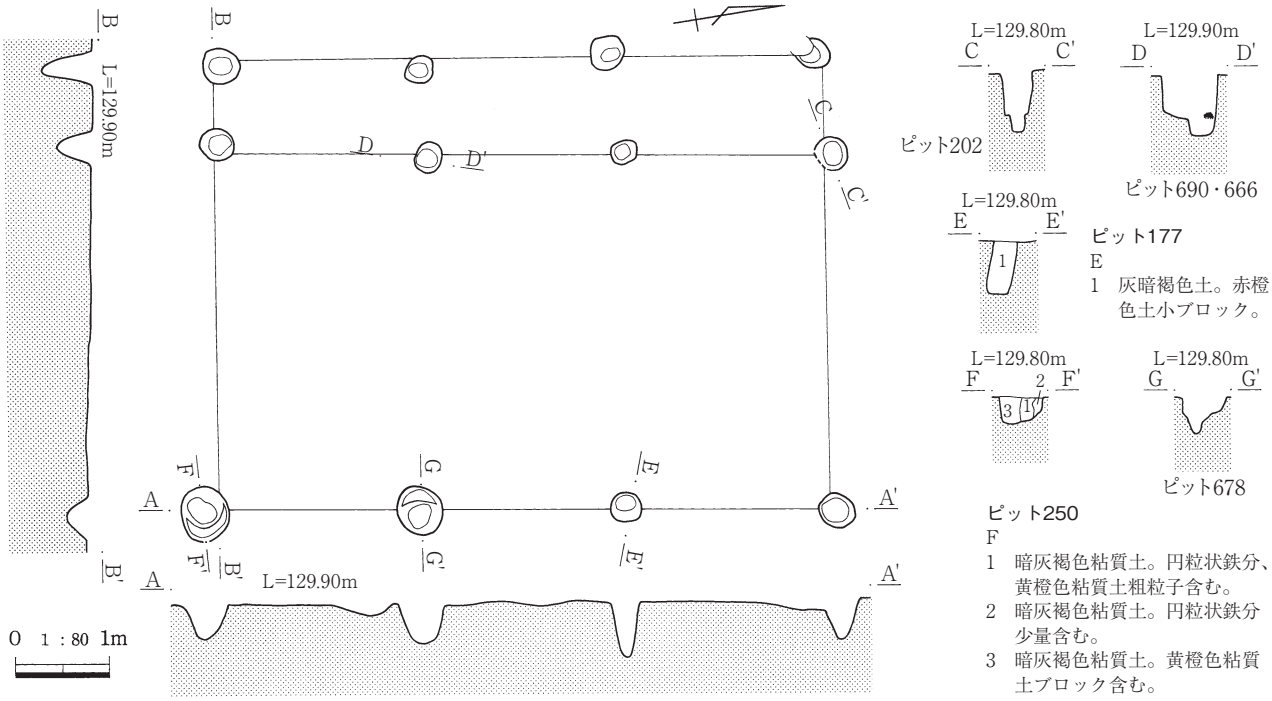


図43　9号掘立柱建物

軸6.5mで、南北に長軸をもつ長方形。下屋は柱穴間で長さ1.0m。**柱穴**　直径20～40cm、深さ40～60cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　7・8・10・11号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-10°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する側柱式の建物。重複する7・8・10・11号掘立と軸線の傾きが近似しているが、建物の構造が異なる。

10号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　3間×3間の総柱式。東面に下屋が付く。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は一辺約6.6mの整った正方形。下屋は柱穴間で長さ90cm。**柱穴**　直径20～50cm、深さ20～50cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　8・9・11・12号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-12°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する総柱式の建物。

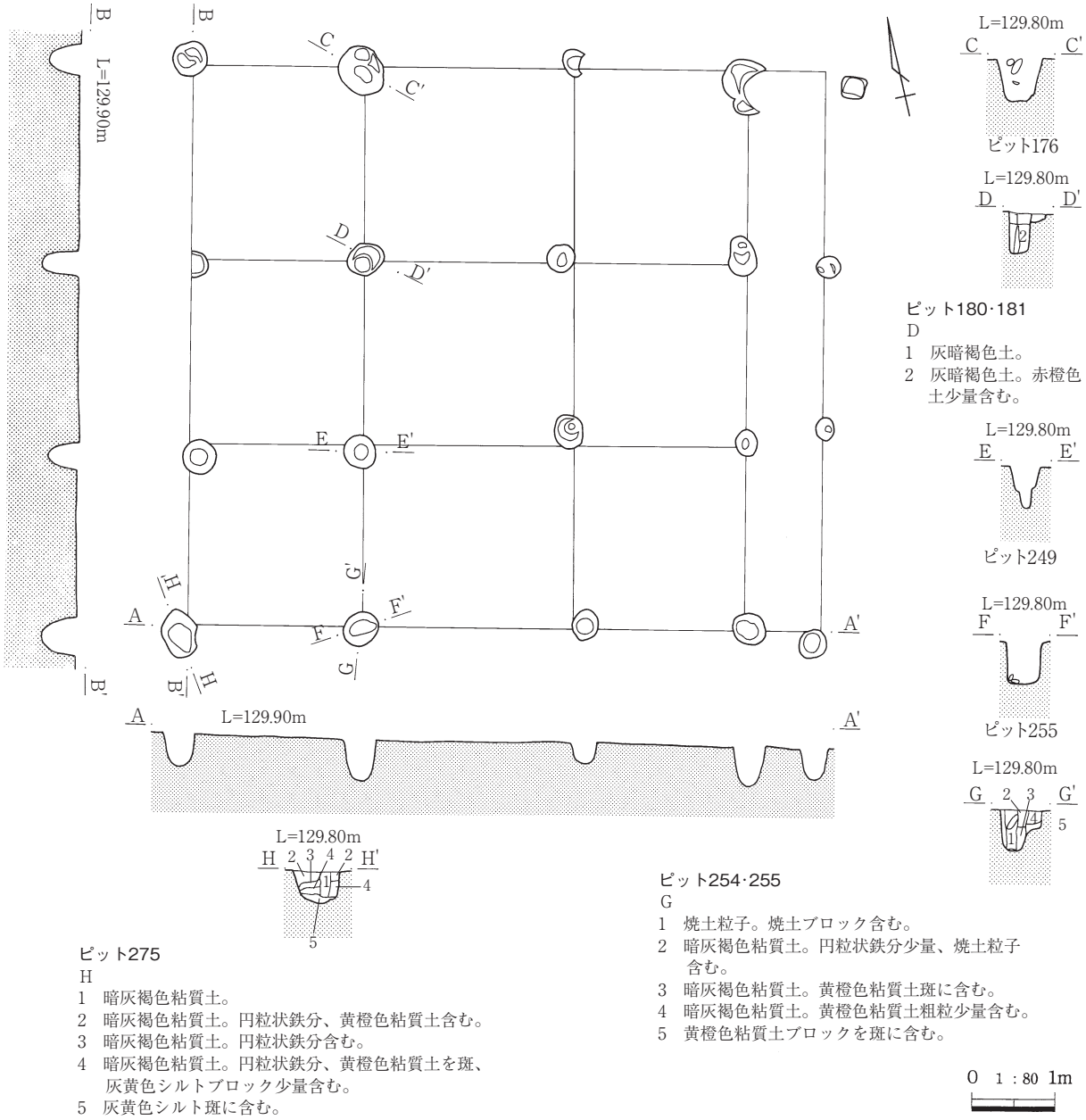
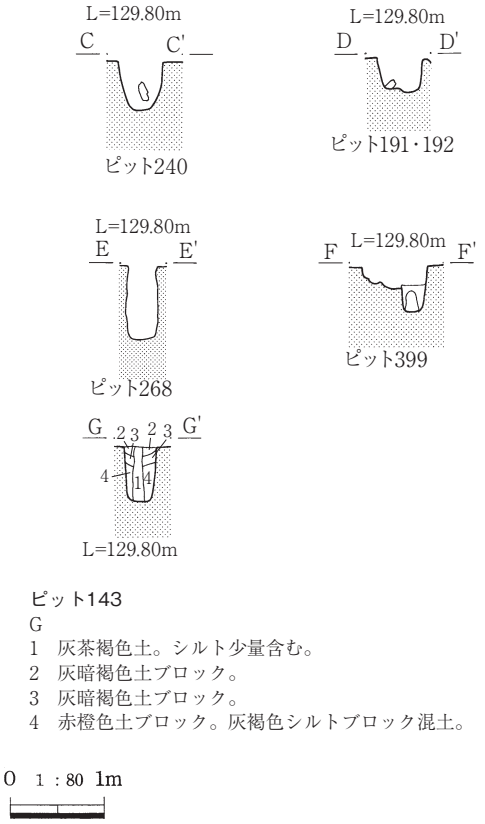


図44　10号掘立柱建物

11号掘立柱建物(写真PL.8)

柱間　2間×4間の総柱式。北面に下屋が付く。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.3m、長軸8.9mで、南北に長軸をもつ長方形。下屋は柱穴間で長さ2.0m。**柱穴**　直径20～50cm、深さ30～80cmの円形掘り方。**遺物**　無し。**重複**　7・8・9・10・12号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-13°-E。**年代**　伴出遺物は皆無だが、中世と推定。**所見**　東群に位置する総柱式の建物。重複する総柱式の10号掘立と軸線の傾きがほぼ同じだが、間取りが大きく異なる。



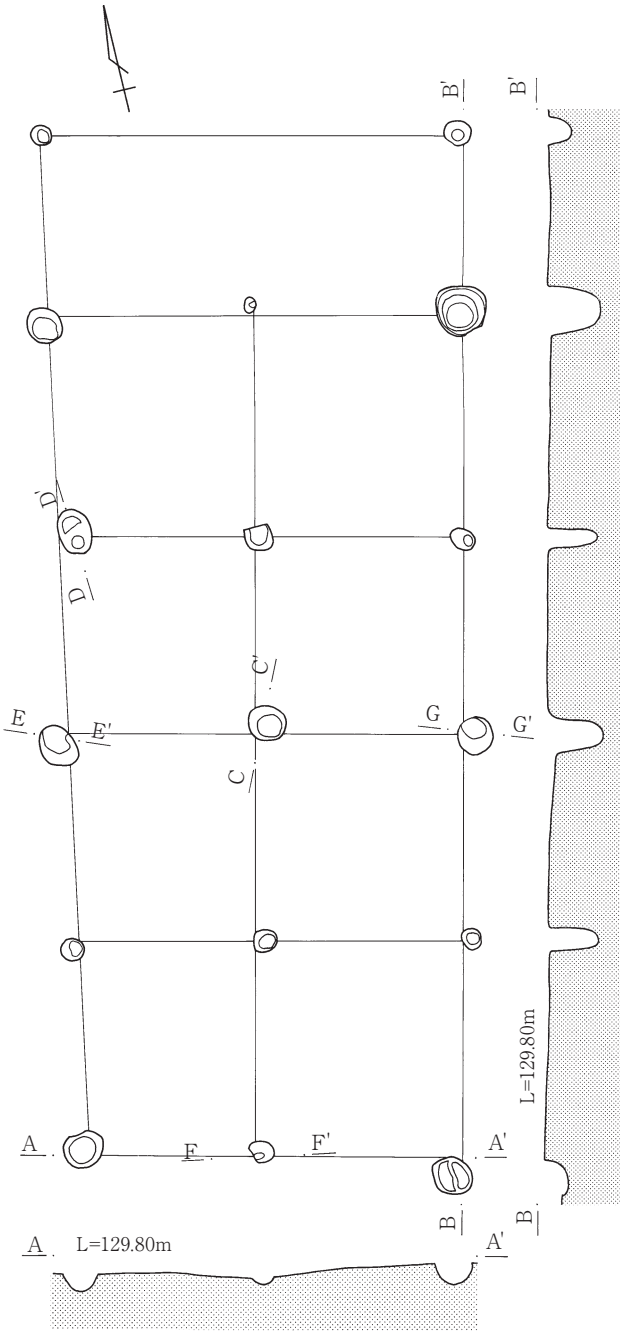


図45　11号掘立柱建物

12号掘立柱建物(写真PL.8、遺物観察55頁)

柱間　1間×7間の側柱式。北西隅に位置する1個は調査区域外。南辺の柱穴列が西側には延びないものと判断。南辺の東側に、母屋から連続した塀が付く。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は短軸4.8m、長軸12.9mで、東西に長軸をもつ長方形。塀は柱穴間で長さ1.9m。**柱穴**　直径30～60cm、深さ20～70cmの円形掘り方。**遺物**　ピット704から陶器が出土。**重複**　7・8・9・10・11号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-102°-E。**年代**　伴出遺物から中世と推定。**所見**　東群に位置する側柱式の建物。この遺跡で長軸長が最も長く、近接する建物と軸線の傾きが異なる。

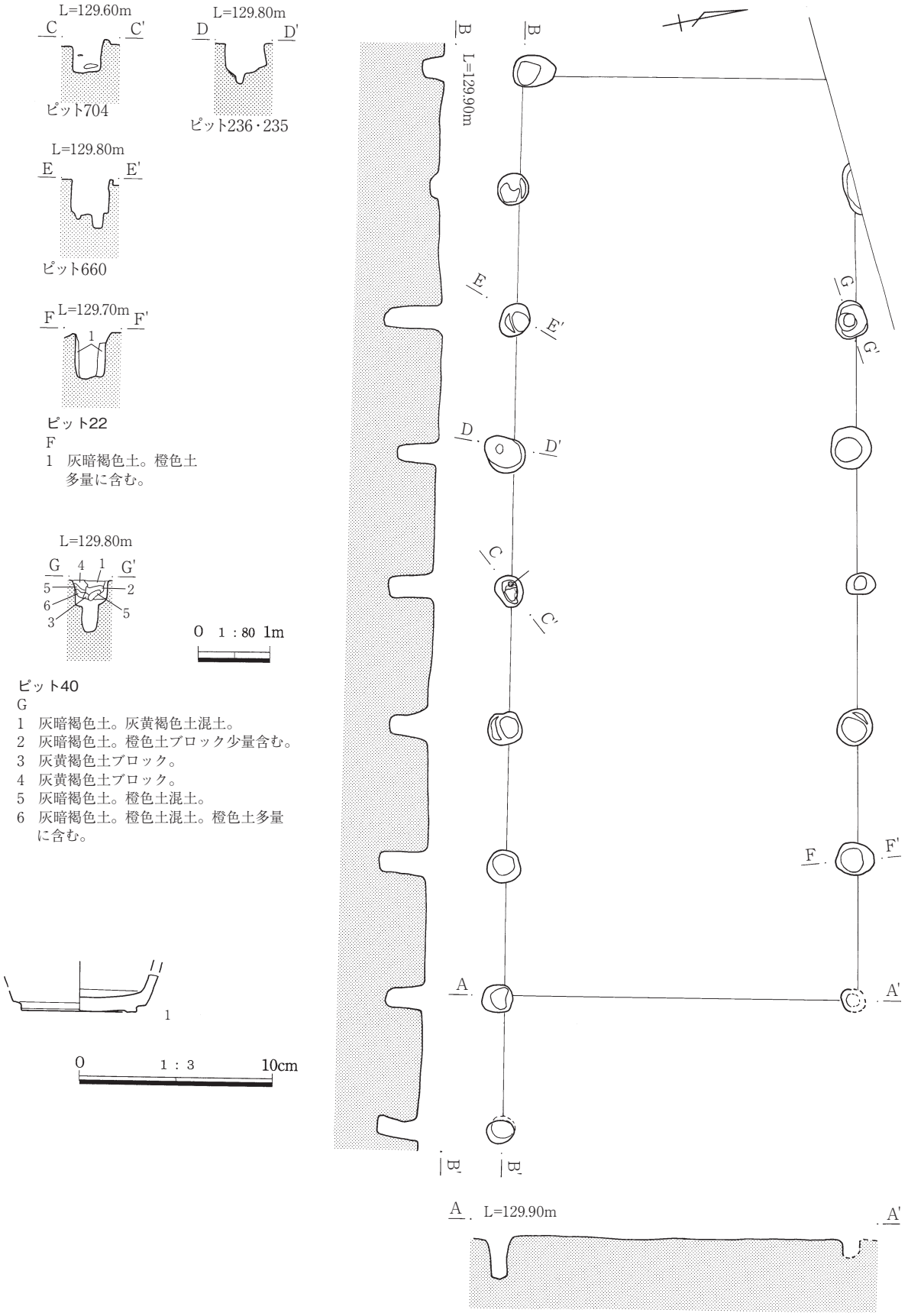


図46　12号掘立柱建物・出土遺物

13号掘立柱建物(写真PL.8、遺物観察55頁)

柱間　2間×3間の総柱式。南辺間柱はない。**規模・形状**　柱穴の芯々付近を結ぶ四角形は一辺3.7mの正方形。下屋は柱穴間で長さ2.0m。**柱穴**　直径20～40cm、深さ20～40cmの円形掘り方。**遺物**　ピット500の覆土内からかわらけが出土。**重複**　8・10・11号掘立柱建物と重複。新旧関係は不明。**長軸方位**　N-15°-E。**年代**　伴出遺物から、中世と推定。**所見**　東群に位置する総柱式の建物。

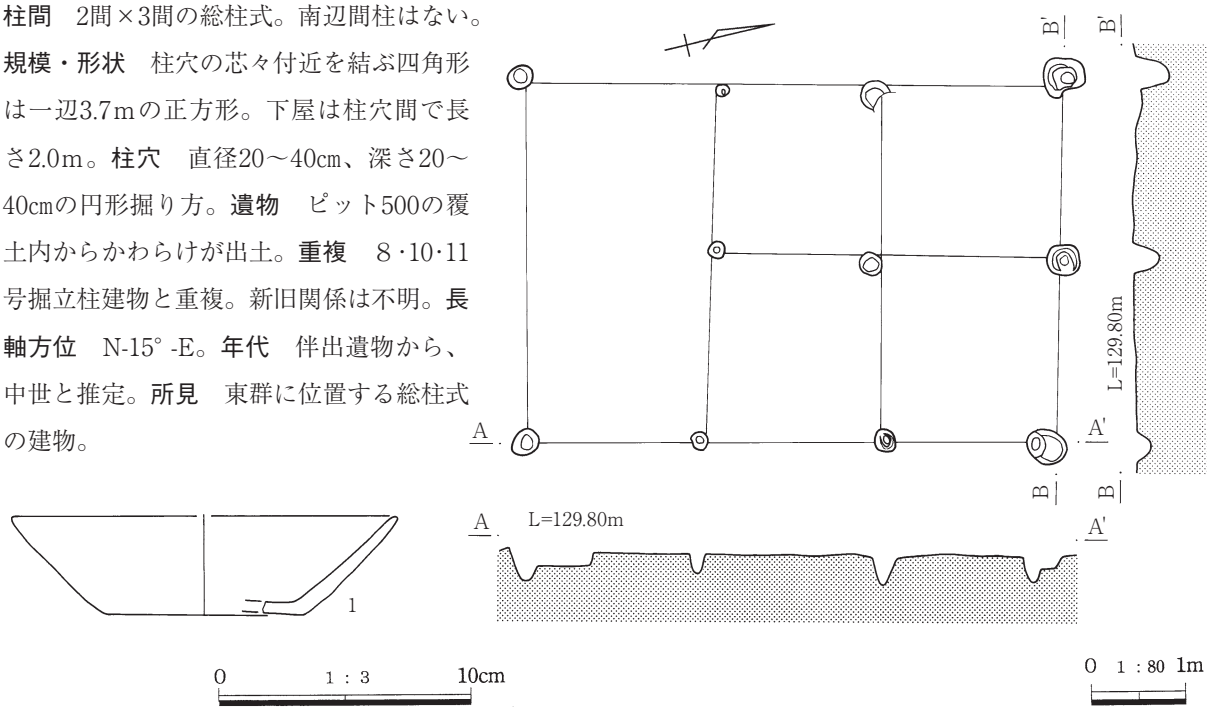


図47　13号掘立柱建物・出土遺物

(3)井戸

1号井戸(写真PL.9、遺物観察56頁)

規模・形状　南側が調査区域外のため、全形は確認できないが、短軸1.0m、長軸1.4m、深さ60cmの長方形状。**遺物**　石臼が出土した他、埋没過程の覆土内から多量の河原石が出土。**重複**　無し。**年代**　年代の判定が可能な伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。

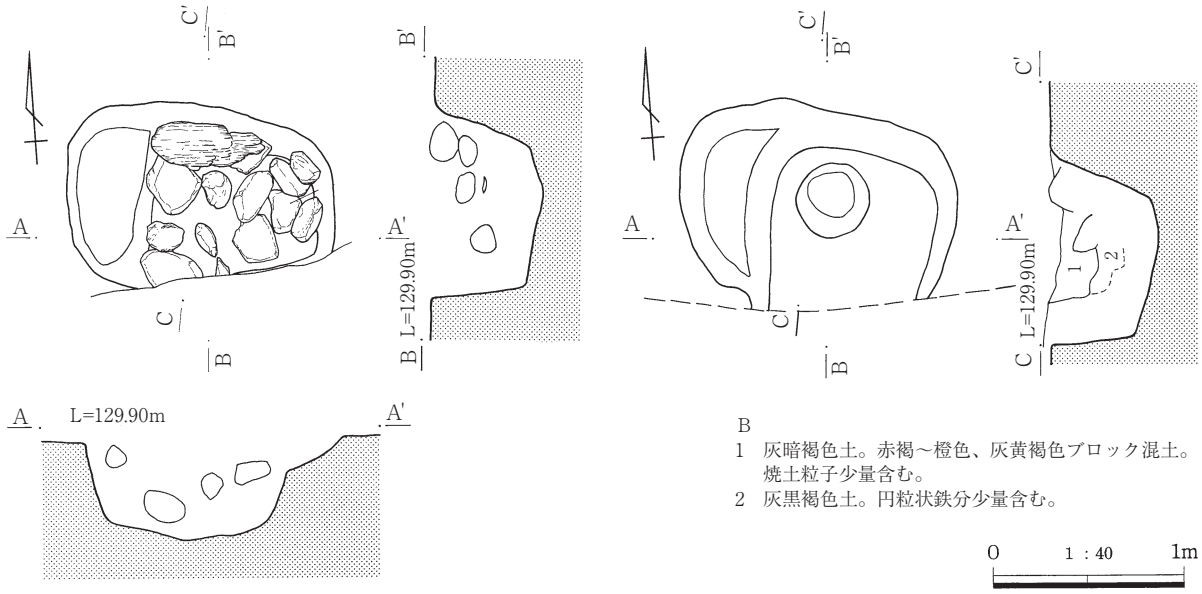


図48　1号井戸・出土遺物

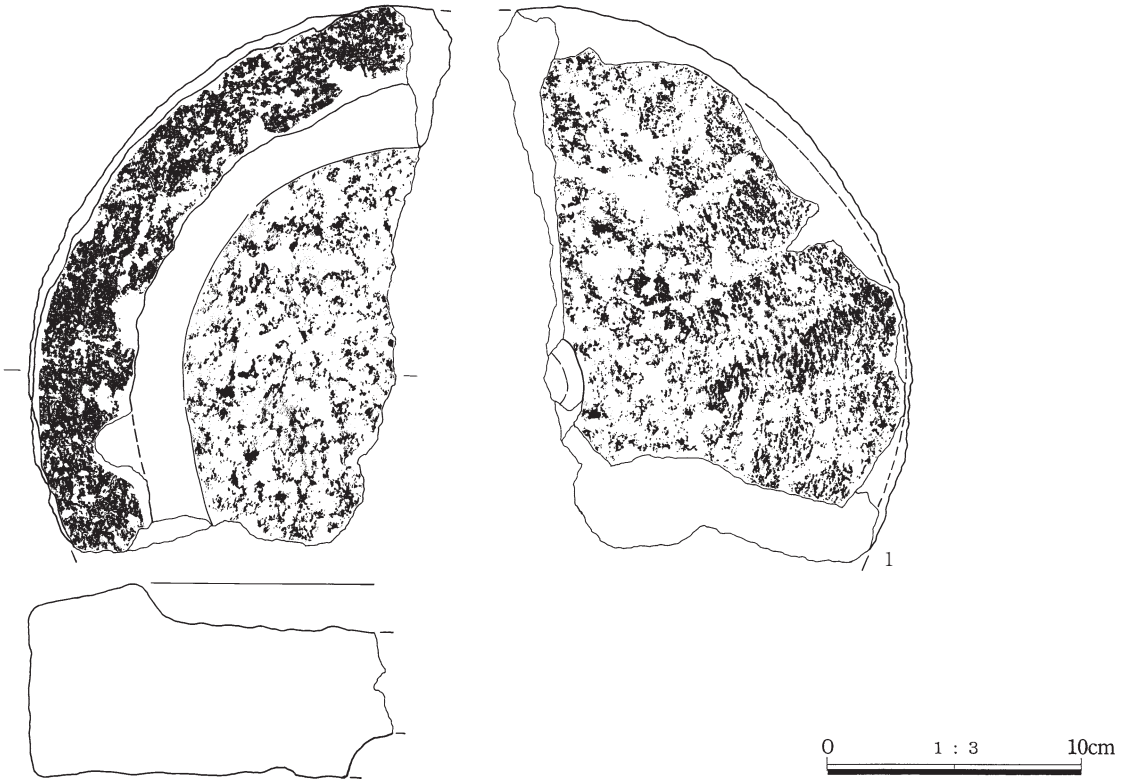
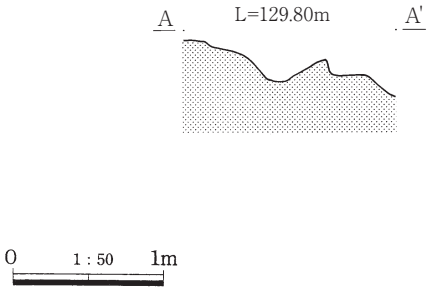


図49　1号井戸出土遺物

(4)溝

7号溝(写真PL.9)

規模・形状　上幅80cm、下幅25cm、深さ25cmの逆台形状。**走行**　南から北の方向に緩やかに蛇行して走行。方位N-15°-E。南端部と北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　溝の性格は不明だが、北側で直交する位置にある13号溝と一連の可能性がある。



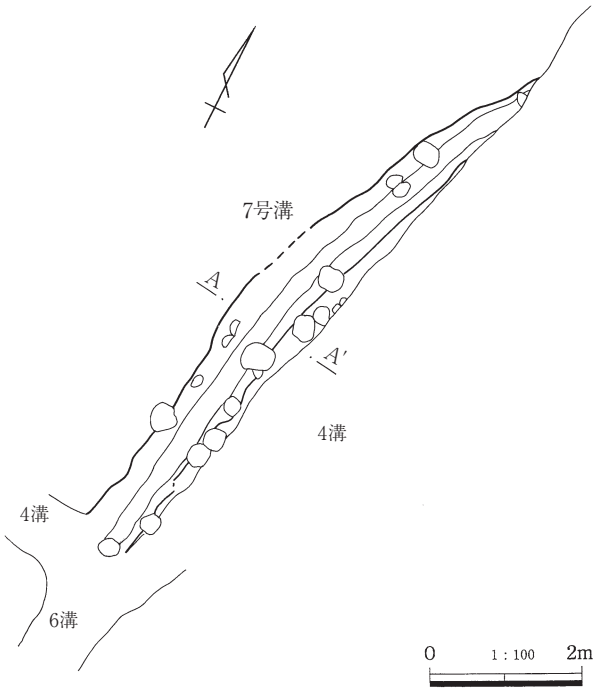


図50　7号溝

8号溝(写真PL.9、遺物観察56頁)

規模・形状　東端部で枝分かれした2条が、平行して西側に走行。上幅30～60cm、下幅10～50cm、深さ10cmの逆台形状。**走行**　西から東の方向に、平行して直線的に走行。方位N-96°-E。西端部と東端部の比高は数cmでほぼ平坦。**遺物**　1号建物のものと考えられる焼土化した土壁材が出土。**重複**　17号溝と重複。新旧関係は不明。**年代**　年代を特定できる伴出遺物が皆無だが、1号建物の年代に近い中世と推定。**所見**　溝の性格は不明だが、その形状から用水路というより、北側7mの1号建物のものと考えられる焼土化した土壁材が出土したことから、関連する何らかの遺構の可能性が考えられる。

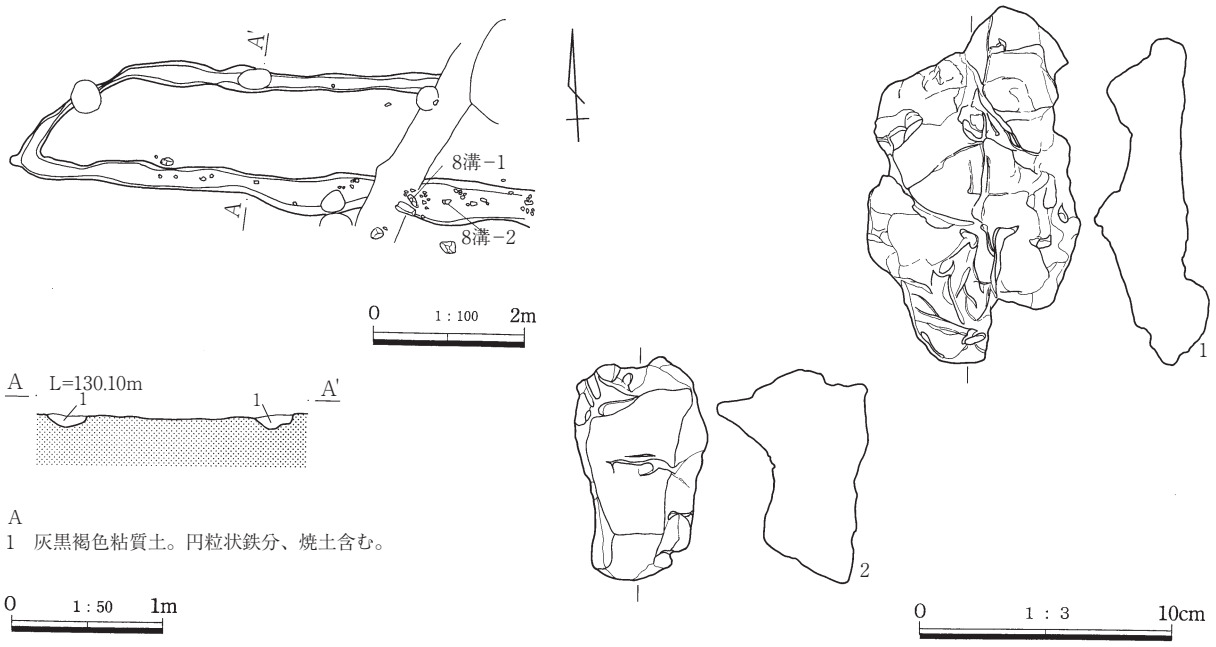


図51　8号溝・出土遺物

9号溝

規模・形状　西側が調査区域外で、全形は不明。深さ15cmの逆台形状と推定。**走行**　南から北の方向に直線的に走行。南端部と北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　溝の性格は不明だが、方向としては東側約25mに位置する16号溝に近似する。

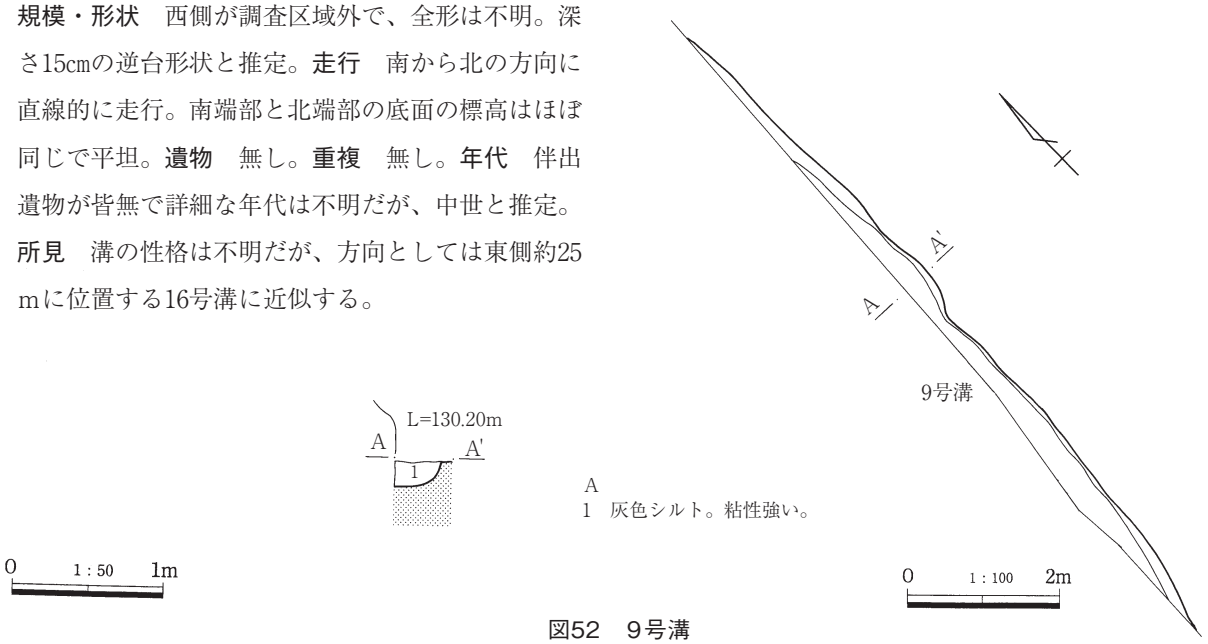


図52　9号溝

10号溝

規模・形状　上幅15cm、下幅5cm、深さ5cmの逆台形状。**走行**　南から北の方向に直線的に走行。方位N-6° -E。南端部と北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　無し。**重複**　12号溝と重複かあるいは分岐。新旧関係は不明。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　溝の性格は不明だが、西側1mに位置する11号溝に平行する。

11号溝

規模・形状　上幅20cm、下幅10cm、深さ5cmの逆台形状。**走行**　南から北の方向に直線的に走行するが、南端部は蛇行。方位N-3° -E。底面の標高は南側が高く北側が低い。南端部と北端部の比高は数cm。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　東側約14mの位置に平行する16号溝と近接した年代の可能性がある。

12号溝

規模・形状　上幅10cm、下幅5cm、深さ5cmで、底面はほぼ平坦。**走行**　2条が南西から北東の方向に緩やかに蛇行して走行。方位N-47° -E。底面の標高は南西側が高く北東側が低い。南西端部と北東端部の比高は約10cmで、勾配は約0.5%。**遺物**　無し。**重複**　10号溝と重複かあるいは分岐。新旧関係は不明。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　東側約5mの位置に平行する18号溝と一連の可能性があり、この間は水田であった可能性も考えられる。

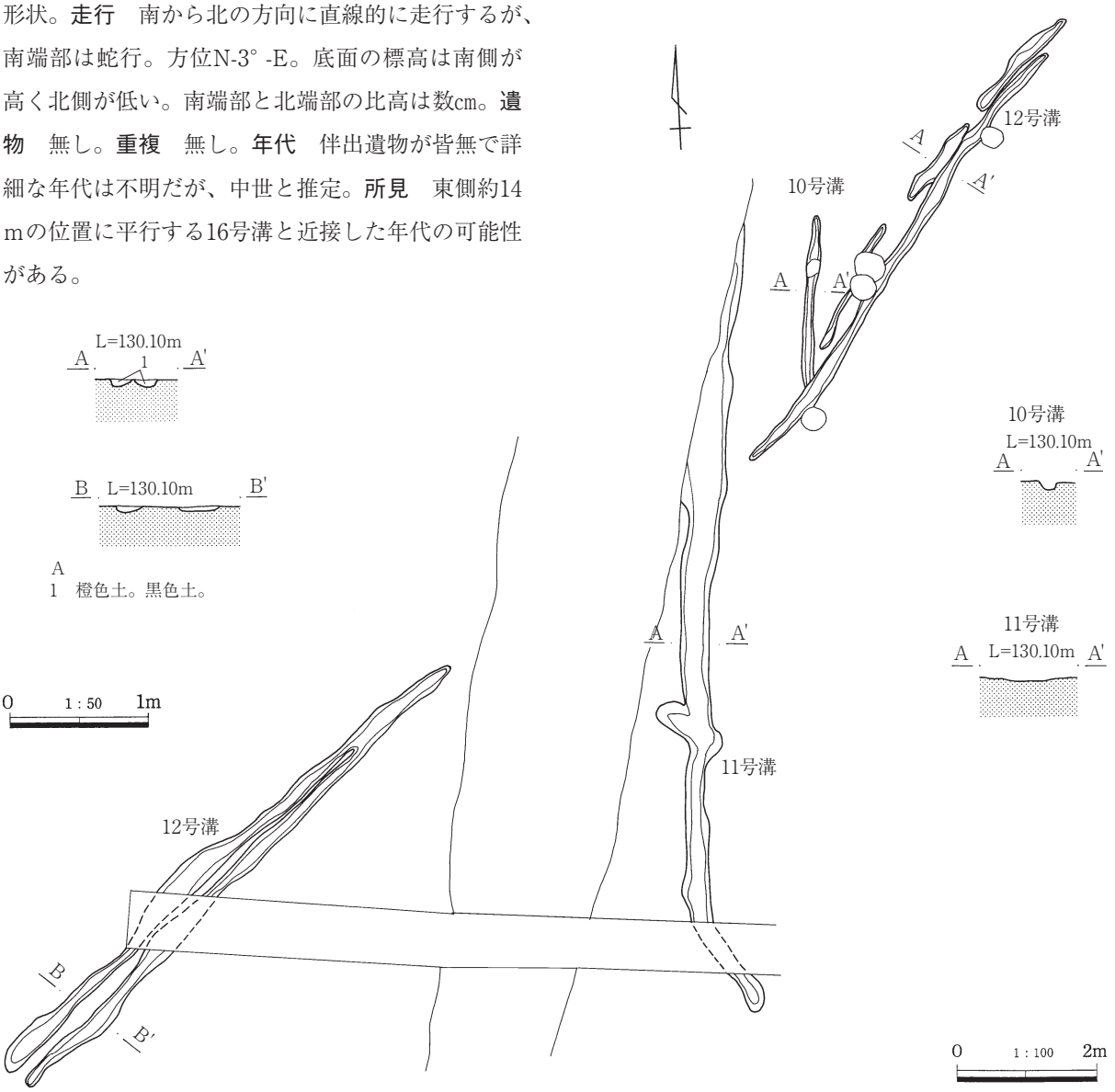


図53　10・11・12号溝

13号溝(写真PL.9)

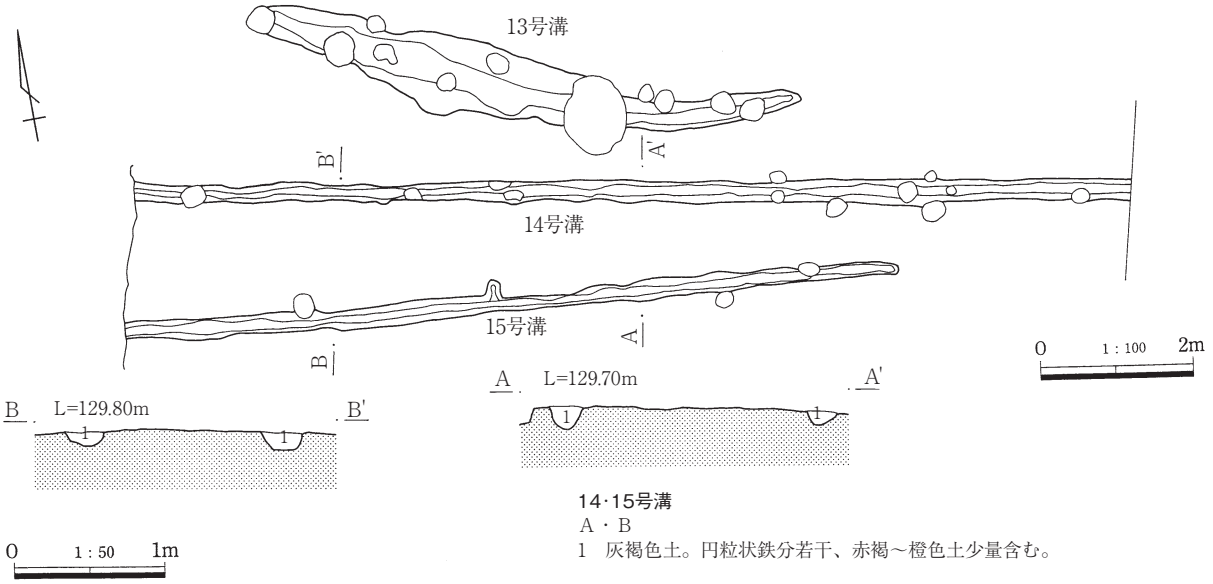
規模・形状　上幅90cm、下幅30cm、深さ10cmで、溝の東西両端は漸移的に細くなる。**走行**　西から東の方向に緩やかに蛇行して走行。方位N-110°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。西端部と東端部の比高は約10cmで、勾配は約1.4%。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物は皆無だが中世以降と推定。**所見**　南側で直交する位置にある7号溝と一連の可能性がある。

14号溝(写真PL.9)

規模・形状　上幅30cm、下幅15cm、深さ10cmの逆台形状。**走行**　西から東の方向に直線的に走行。方位N-102°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。西端部と東端部の比高は約15cmで、勾配は約1.2%。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　年代、性格ともに不明。南側にほぼ平行する15号溝に、形状と走行が近似する。

15号溝(写真PL.9)

規模・形状　上幅30cm、下幅15cm、深さ10cmの逆台形状。**走行**　西から東の方向に直線的に走行。方位N-96°-E。底面の標高は西側が高く東側が低い。西端部と東端部の比高は約10cmで、勾配は約1.0%。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　年代、性格ともに不明。北側にほぼ平行する14号溝に、形状と走行が近似する。



14・15号溝
A・B
1　灰褐色土。円粒状鉄分若干、赤褐～橙色土少量含む。

図54　13・14・15号溝

16号溝(写真PL.10、遺物観察56頁)

規模・形状　上幅2.3m、下幅60cm、深さ20cmで、底面はゆるやかな船底状。**走行**　南から北の方向にほぼ直線的に走行。方位N-8°-E。溝の上端は北側が広くなるが、下端は南側、北側ともにほぼ同じ。底面の標高は南側が高く北側が低い。南端部と北端部の比高は約10cmで、勾配は約0.8%。**遺物**　南半部の底面直上から1号建物のものと考えられる焼土化した土壁材、軟質陶器内耳鍋が集中的に出土。**重複**　17号溝と重複。17号溝→16号溝の順で新しい。**年代**　伴出遺物から中世と推定。**所見**　溝の性格は不明だが、近接する1号建物のものと考えられる焼土化した土壁材が出土したことから、関連する何らかの遺構の可能性が考えられる。

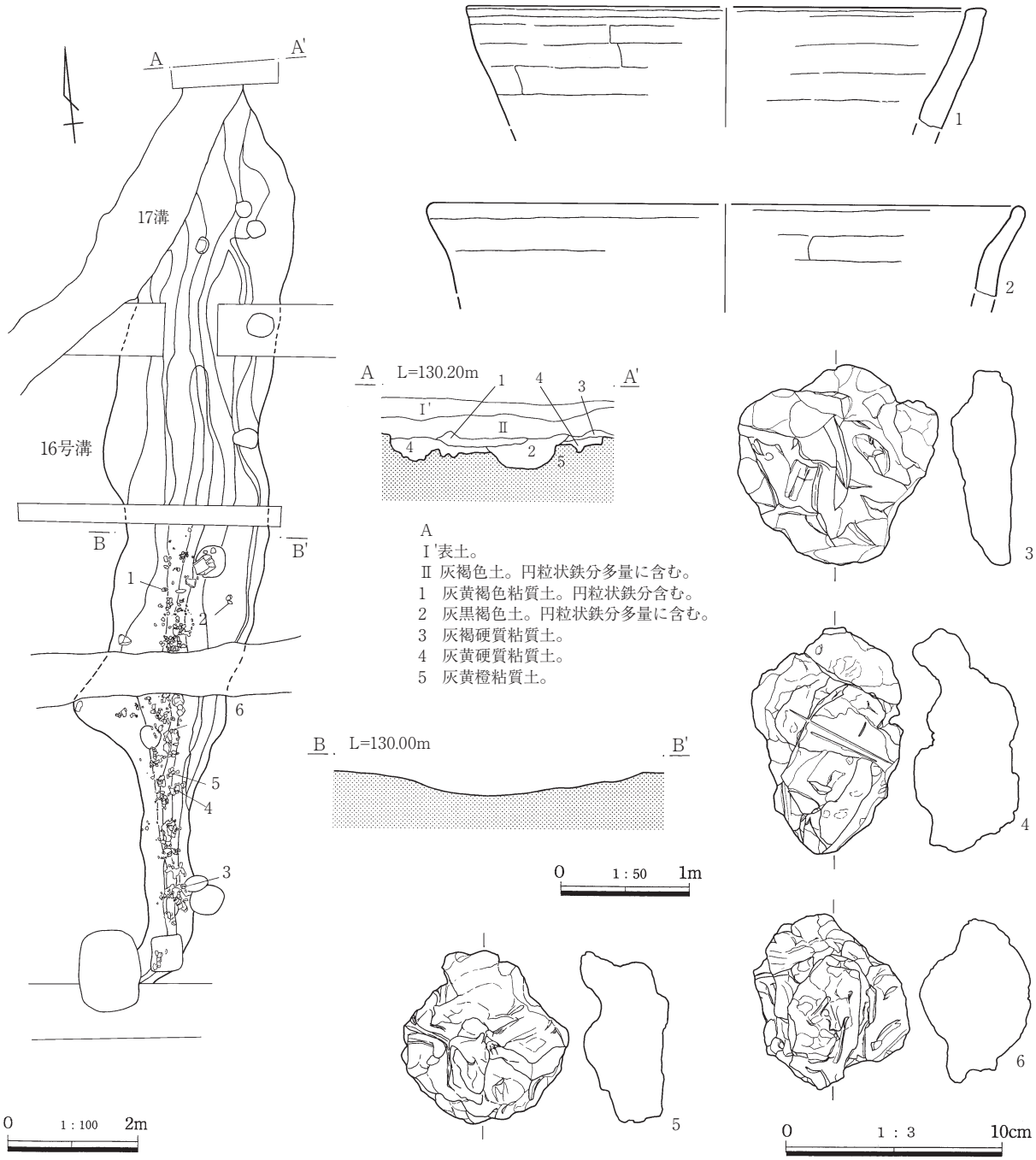


図55　16号溝・出土遺物

17号溝(写真PL.10)

規模・形状　上幅50cm、下幅30cm、深さ25cmの台形状。**走行**　南西から北東の方向に緩やかに蛇行して走行。方位N-40°-E。南側で枝分かれした部分は、分岐部の可能性が高い。底面の標高は南西側が高く北東側が低い。南西部と北東部の比高は約15cmで、勾配は約0.7％。**遺物**　無し。**重複**　8･16号溝と重複。17号溝→16号溝の順で新しい。8号溝との完形は不明。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。西側で平行する12号溝と一連の可能性があり、この間は水田であった可能性も考えられる。

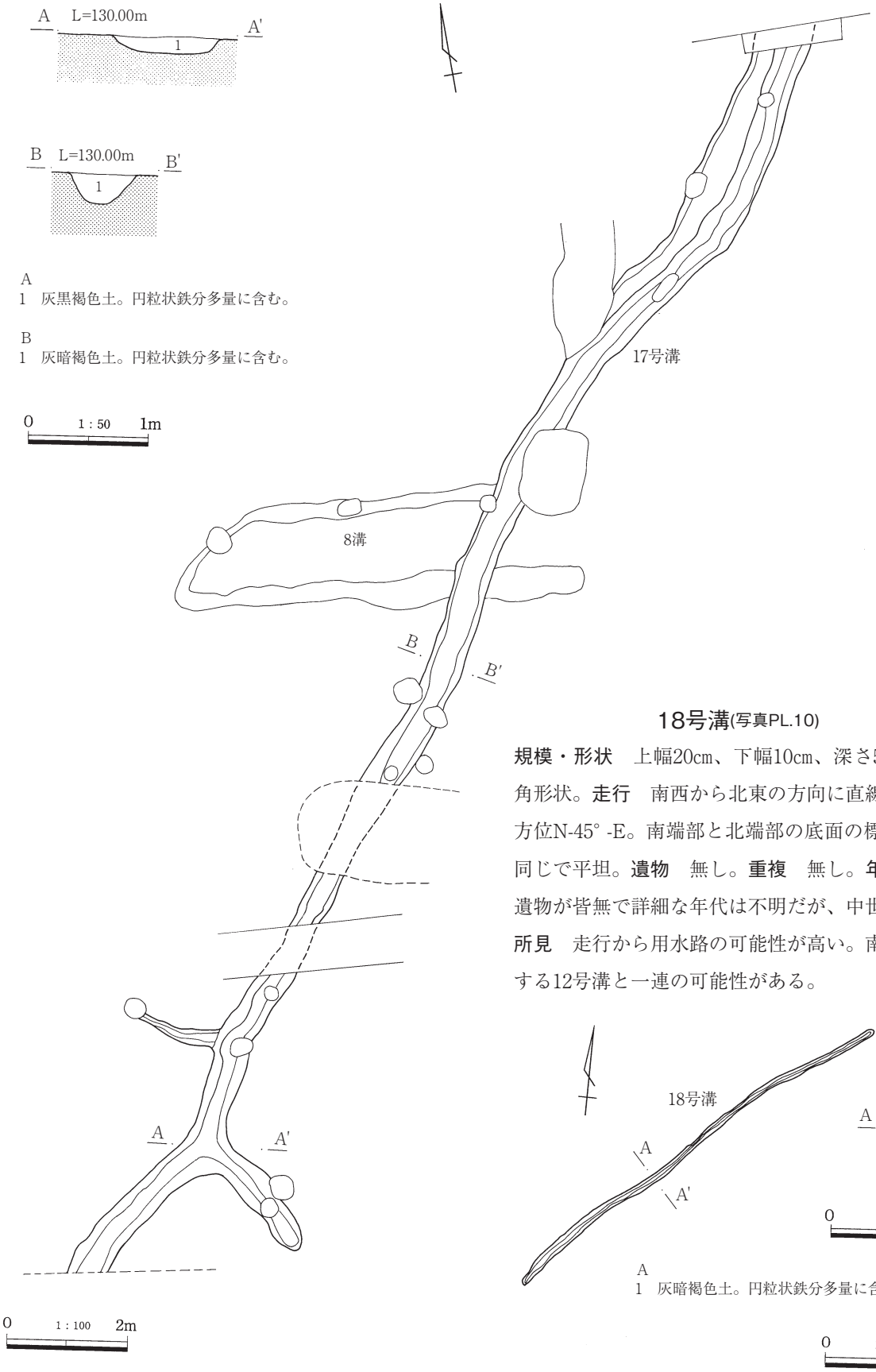


図56　17号溝

18号溝(写真PL.10)

規模・形状　上幅20cm、下幅10cm、深さ5cmの逆三角形状。**走行**　南西から北東の方向に直線的に走行。方位N-45°-E。南端部と北端部の底面の標高はほぼ同じで平坦。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、中世と推定。**所見**　走行から用水路の可能性が高い。南側で平行する12号溝と一連の可能性がある。

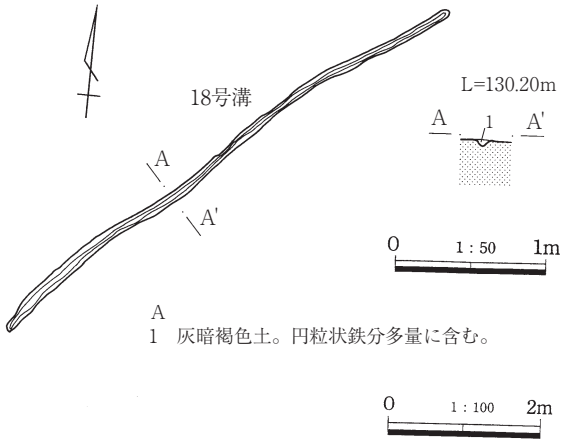


図57　18号溝

(5)ピット群

この遺跡では、約960基のピットを確認した。土層断面の観察からは柱痕を明確に遺すものが多く、一部には柱根の基部が遺存したものも存在する(ピット54･456･845･880･888)。したがって、これらの大半は掘立柱建物、或いは柵列を構成する柱穴と考えられ、その多くは中世に属す可能性が高い。

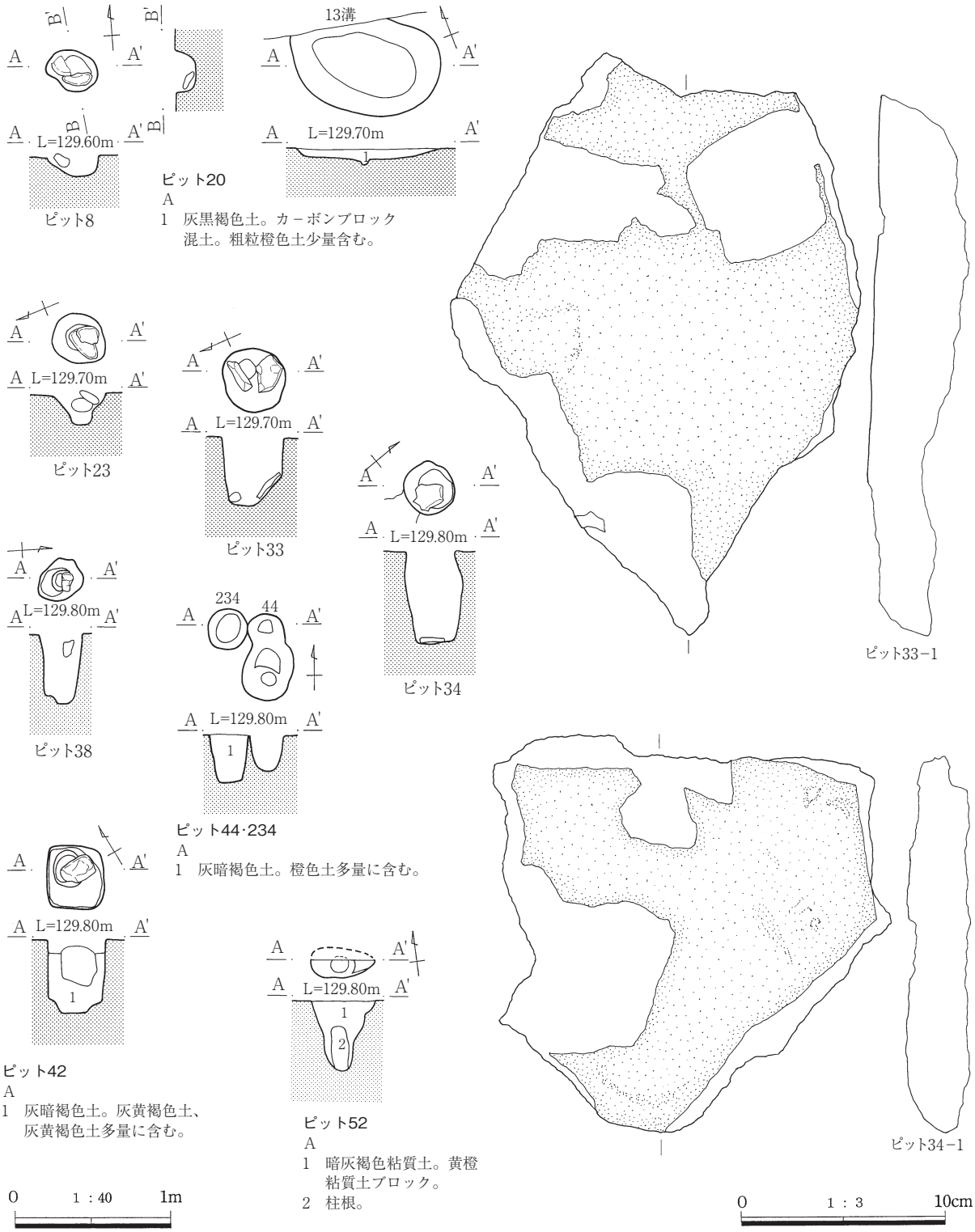


図58　ピット・出土遺物(1)

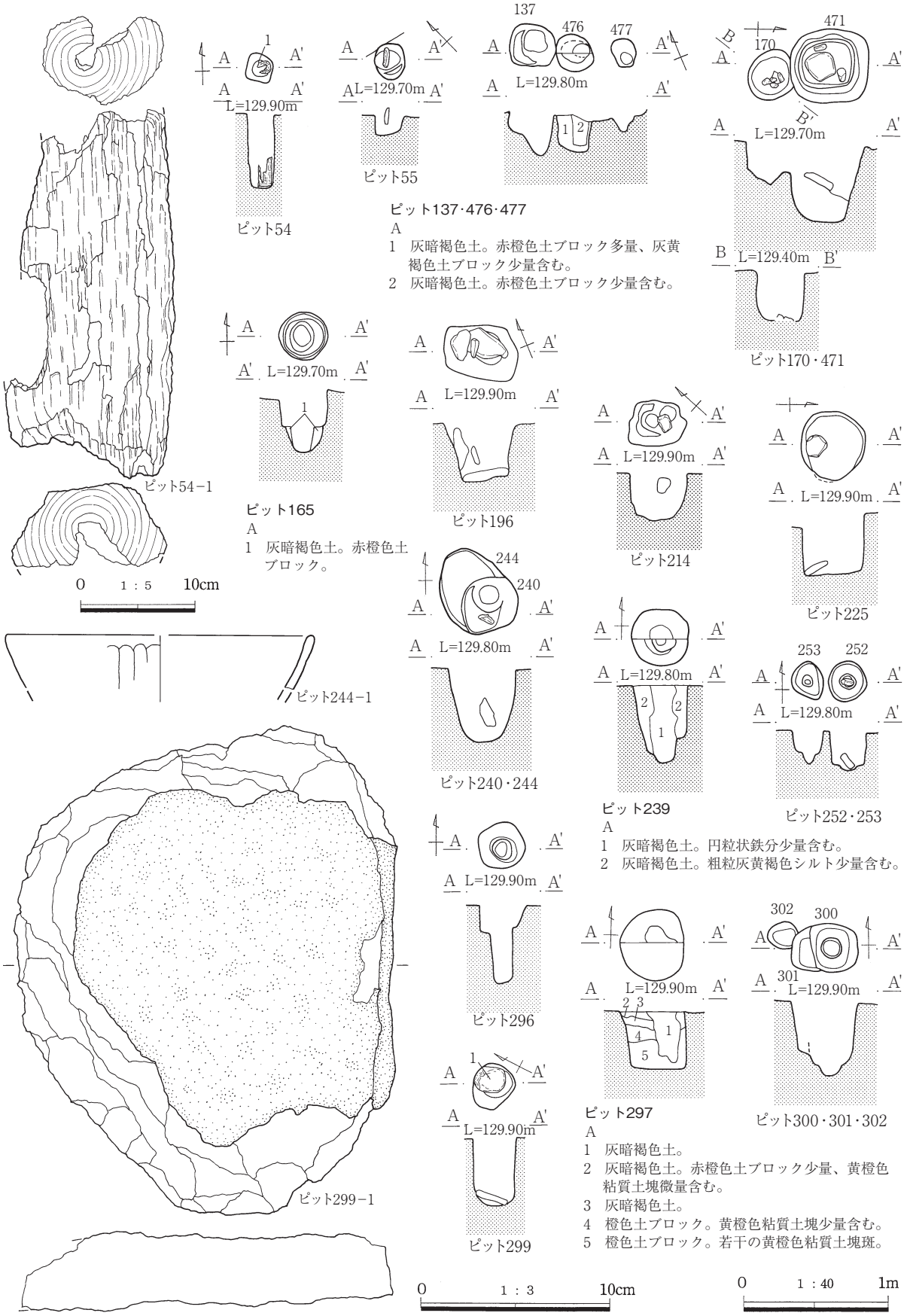


図59　ピット・出土遺物(2)

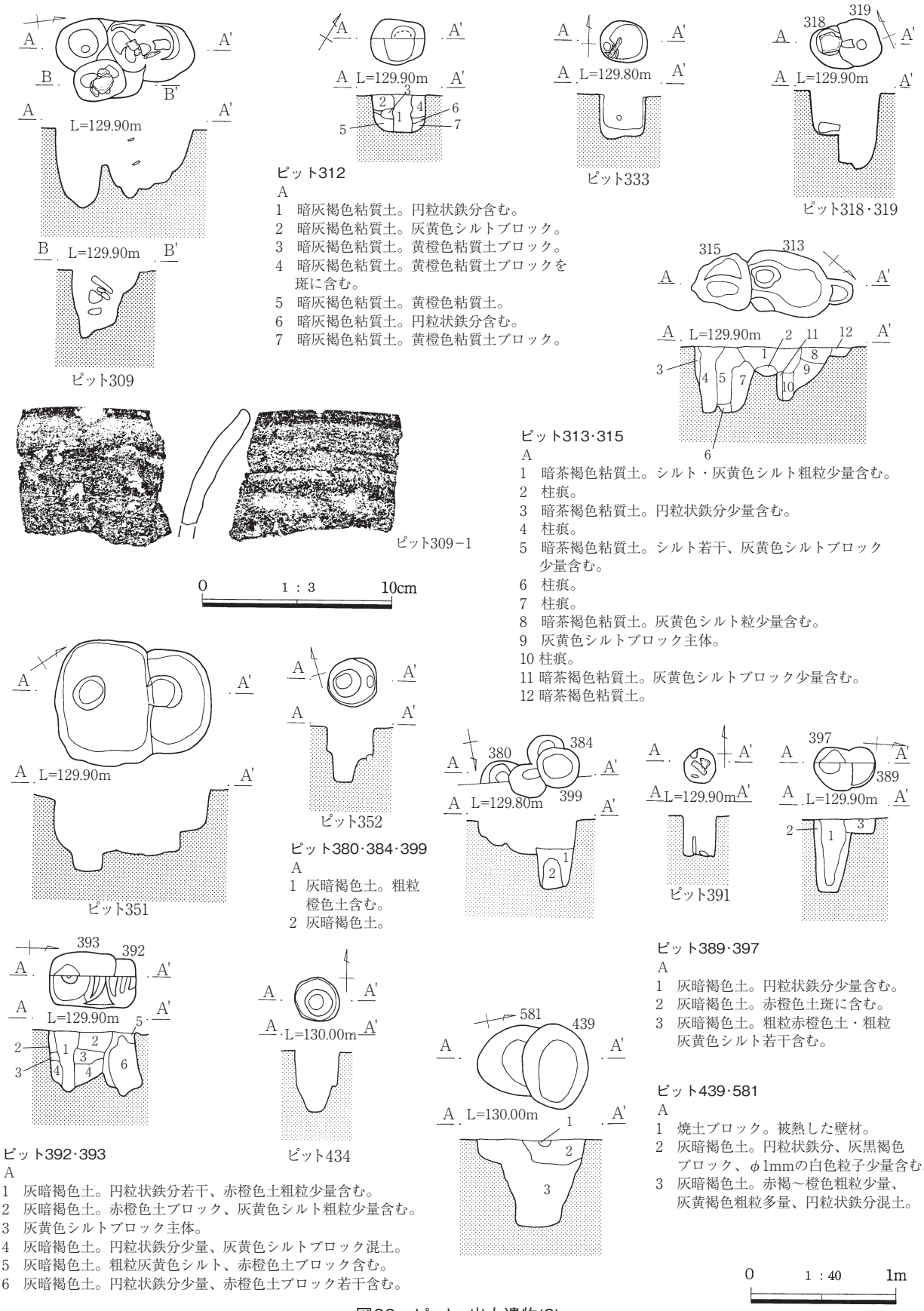
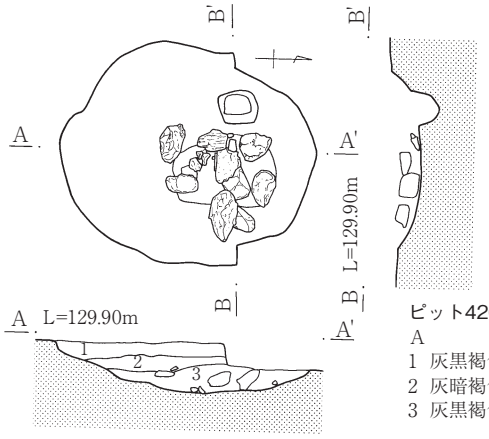
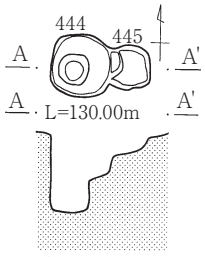


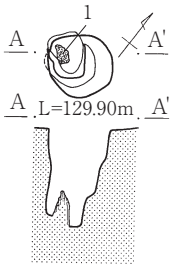
図60　ピット・出土遺物(3)



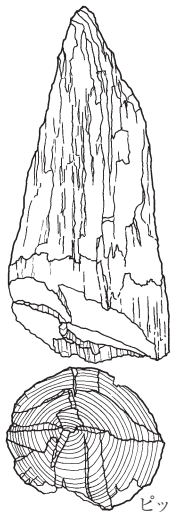
ピット426
A
1 灰黒褐色土。円粒状鉄分含む。
2 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
3 灰黒褐色土。円粒状鉄分含む。



ピット444・445

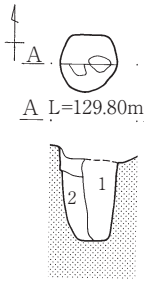


ピット456

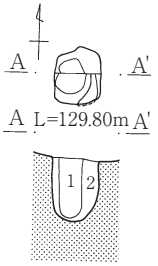


ピット456−1

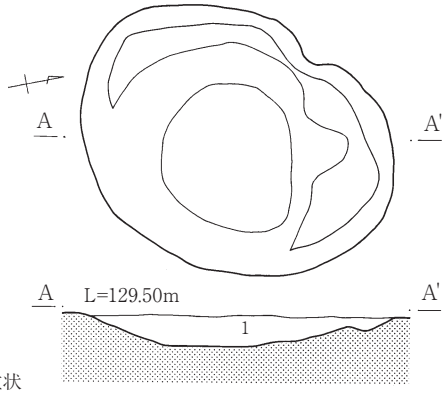
0　1：5　10cm



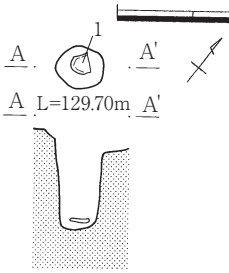
ピット474
A
1 灰暗褐色土。橙色土若干含む。
2 灰暗褐色土。橙色土、灰黄色シルト混土。



ピット485
A
1 灰黒褐色土。円粒状鉄分若干含む。
2 灰暗褐色土。橙色土ブロック混土。



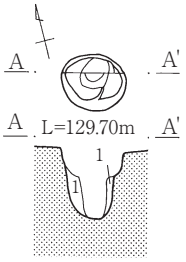
ピット516
A
1 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。



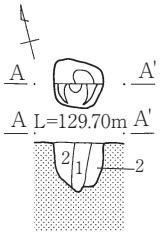
ピット555

ピット555−1

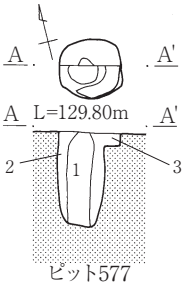
0　1：3　5 cm



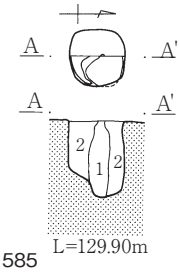
ピット565
A
1 灰暗褐色土。橙色土含む。



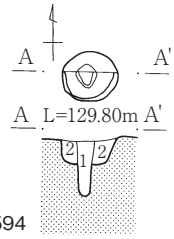
ピット571
A
1 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2 灰暗褐色土。橙色土ブロック多量に含む。



ピット577

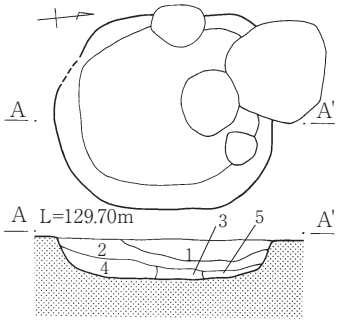


ピット585
A
1 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2 灰暗褐色土。橙色土・灰黄色シルト少量含む。



ピット594
A
1 灰暗褐色土。橙色土少量含む。
2 灰暗褐色土。橙色土多量に含む。

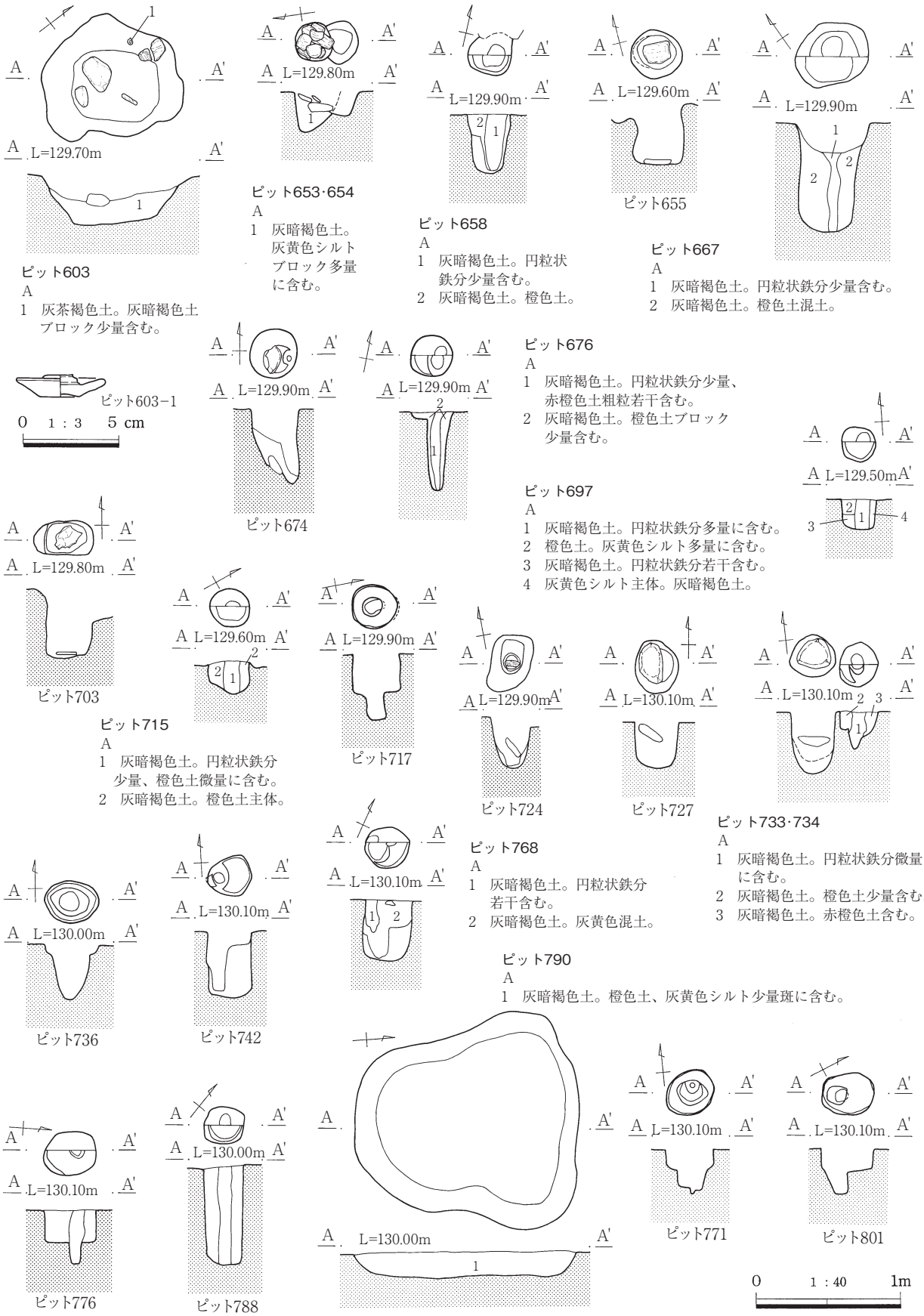
ピット577
A
1 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量、橙色土ブロック・灰黄色シルトブロック若干含む。
2 灰暗褐色土主体。灰黄色シルトブロック少量含む。
3 灰暗褐色土。橙色土ブロック多量、灰黄色シルトブロック少量含む。



ピット601
A
1 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量、灰黄色シルトブロック多量に含む。
2 灰暗褐色土。円粒状鉄分・橙色土・灰黄色シルト少量含む。
3 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量、橙色土、灰黄色シルト含む。
4 灰暗褐色土。橙色土ブロック主体。円粒状鉄分少量含む。
5 灰暗褐色土。円粒状鉄分少量小ブロック、橙色土ブロック、灰黄色シルトブロック含む。

0　1：40　1m

図61　ピット・出土遺物(4)



ピット603
A
1　灰茶褐色土。灰暗褐色土ブロック少量含む。

ピット653·654
A
1　灰暗褐色土。灰黄色シルトブロック多量に含む。

ピット658
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土。

ピット667
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土混土。

ピット676
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量、赤橙色土粗粒若干含む。
2　灰暗褐色土。橙色土ブロック少量含む。

ピット697
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分多量に含む。
2　橙色土。灰黄色シルト多量に含む。
3　灰暗褐色土。円粒状鉄分若干含む。
4　灰黄色シルト主体。灰暗褐色土。

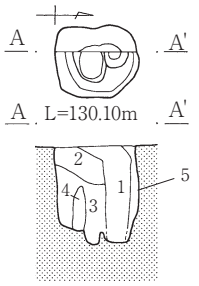
ピット715
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量、橙色土微量に含む。
2　灰暗褐色土。橙色土主体。

ピット733·734
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量に含む。
2　灰暗褐色土。橙色土少量含む。
3　灰暗褐色土。赤橙色土含む。

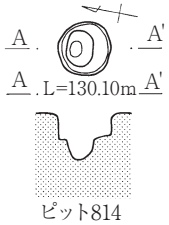
ピット768
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分若干含む。
2　灰暗褐色土。灰黄色混土。

ピット790
A
1　灰暗褐色土。橙色土、灰黄色シルト少量斑に含む。

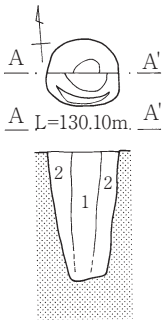
図62　ピット・出土遺物(5)

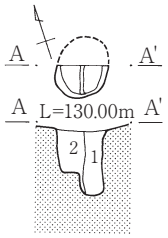


ピット813
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土若干含む。
3　灰暗褐色土。橙色土主体。
4　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
5　灰暗褐色土。橙色土若干含む。

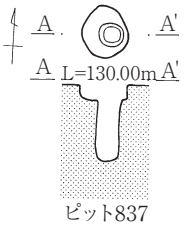


ピット814



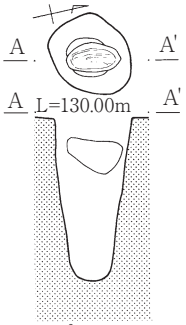


ピット830
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量に含む。
2　灰暗褐色土。橙色土主体。

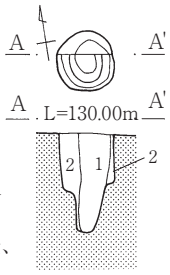


ピット837

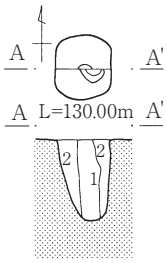
ピット815
A
1　灰暗褐色土。灰黄色シルト含む。
2　灰暗褐色土。灰黄色シルト斑に含む。



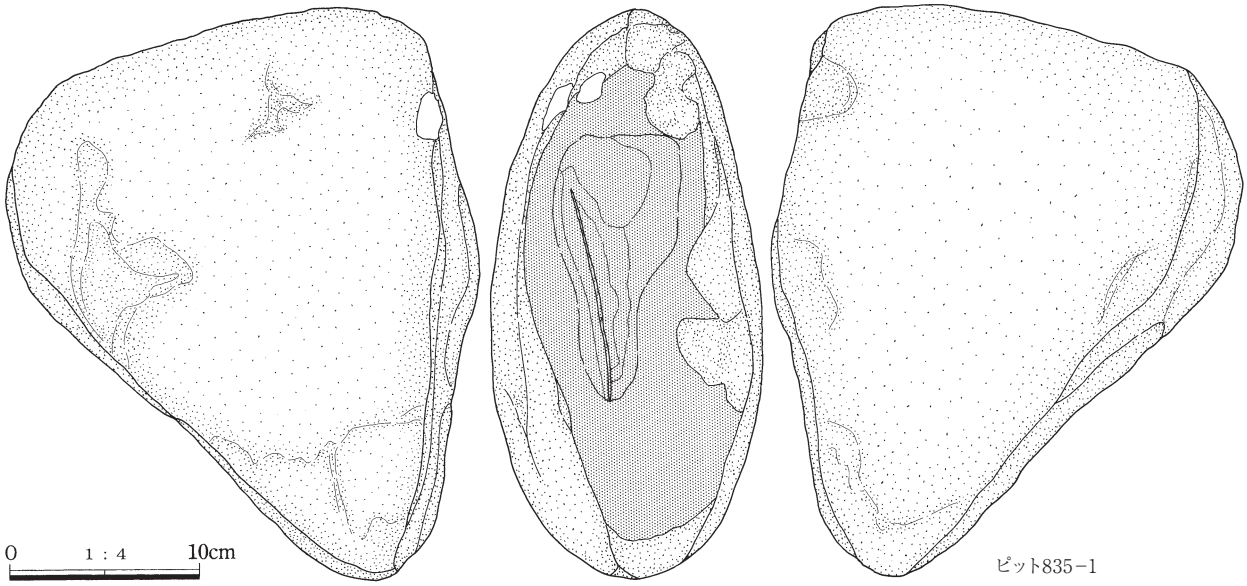
ピット835



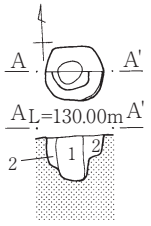
ピット850
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分若干、橙色土少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土多量、灰黄色シルト少量含む。



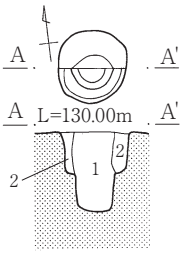
ピット853
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量、橙色土少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土・灰黄色シルト混土。



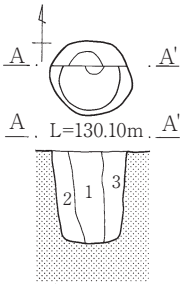
ピット835−1



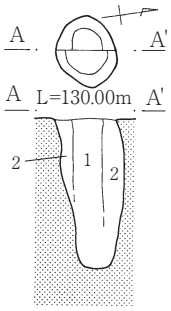
ピット863
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分少量含む。
2　灰暗褐色土。橙色土多く含む。



ピット864
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量、橙色土若干含む。
2　灰暗褐色土。灰黄色シルト多量に含む。



ピット876
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量に含む。
2　灰暗褐色土。灰黄色シルト多量に含む。
3　灰暗褐色土。灰黄色シルト含む。



ピット887
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分・灰黄色シルト少量含む。
2　灰暗褐色土。灰黄色シルト極多量に含む。

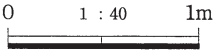
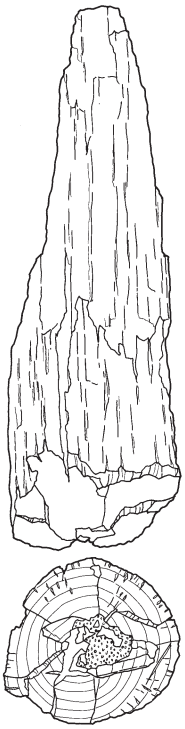
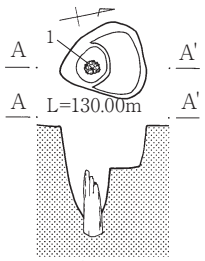
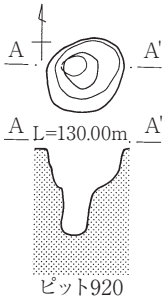
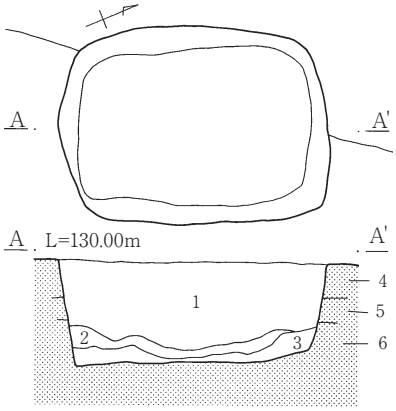


図63　ピット・出土遺物(6)

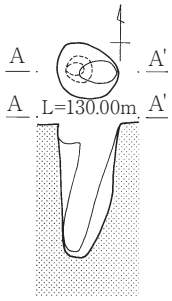


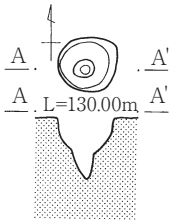


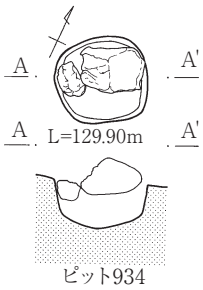


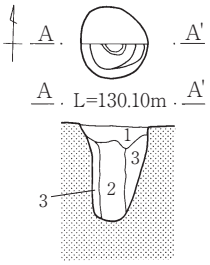


ピット891
A
1　灰暗褐色土。灰黄褐色粘質土ブロック、橙色土ブロックを斑状に含む。
2　灰暗褐色土。円粒状鉄分極多量に含む。
3　灰褐色粘質土。
4　灰黒褐色土。
5　橙色土。
6　灰黄褐色粘質土。

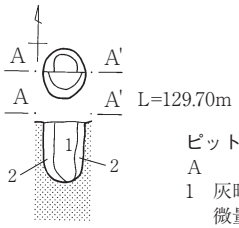








ピット925
A
1　灰暗褐色土。灰黄色シルトが全体に混入。
2　灰暗褐色土。橙色土、灰黄色シルト。
3　橙色土。灰黄色シルト主体。



ピット929
A
1　灰暗褐色土。円粒状鉄分微量に含む。
2　灰暗褐色土。橙色土、灰黄色土、シルト斑に含む。

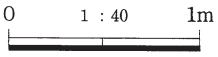
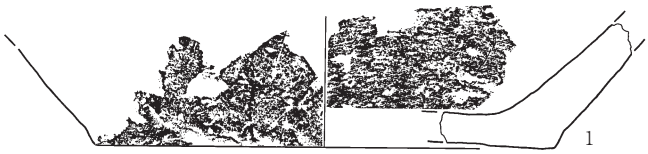
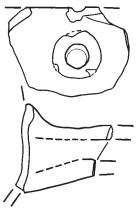
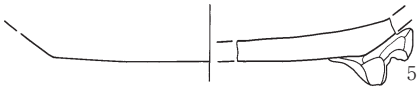
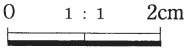


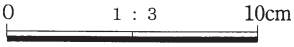
図64　ピット・出土遺物(7)











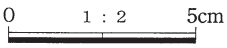


図65　遺構外出土遺物

V　田島遺跡

所在地：多野郡吉井町片山

遺跡遠景　(南から)

遺跡は、鏑川の右岸段丘上で、北東流する白倉川の低地縁辺部に立地する。写真左上方の舗装道路の左側(西側)は、隣接する塚田遺跡となる。

Ⅴ　田島遺跡

田島遺跡は表土層の直下が、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)Ⅲ層に相当する浅間Ｂ軽石(As-B)を含む黒色土(As-B混土)で、調査区域西側の一部はこの層の下位まで土地改良による撹乱が及んでいた。

図66　田島遺跡位置図(S＝1：25,000)

確認した遺構はAs-B混土層の下面で確認した水田のみである。この水田を除いて遺構・遺物はまったく出土していない。

1　水　田

検出面　浅間Ｂ軽石を含む黒色土の下面で検出。この層は浅間Ｂ軽石(As-B)が耕作によって撹拌されて形成されたAs-B混土であることから、この水田面は旧地表面ではなく、Ｂ混土を耕作土とする水田の耕作土下面(基底面)。**立地・地形**　北西から南東の方向への緩やかな下り勾配。基底面の標高は調査区の西側が127.55m、東側が127.30、比高25cmで、勾配は約1.2％。**畦畔**　未確認。**耕作土**　As-B混土の可能性が高い。**水口**　未確認。**用水路**　未確認。**取・配水構造**　地形的には北→南、西→東に配水する可能性が高い。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　詳細な年代は不明だが、浅間Ｂ軽石の降下年代である天仁元年(1108)以降で、この年代に比較的近い平安時代以降の可能性が高い。**所見**　この水田域は平安時代以降に開田され、西側に隣接する塚田遺跡の生産域であった可能性が考えられる。

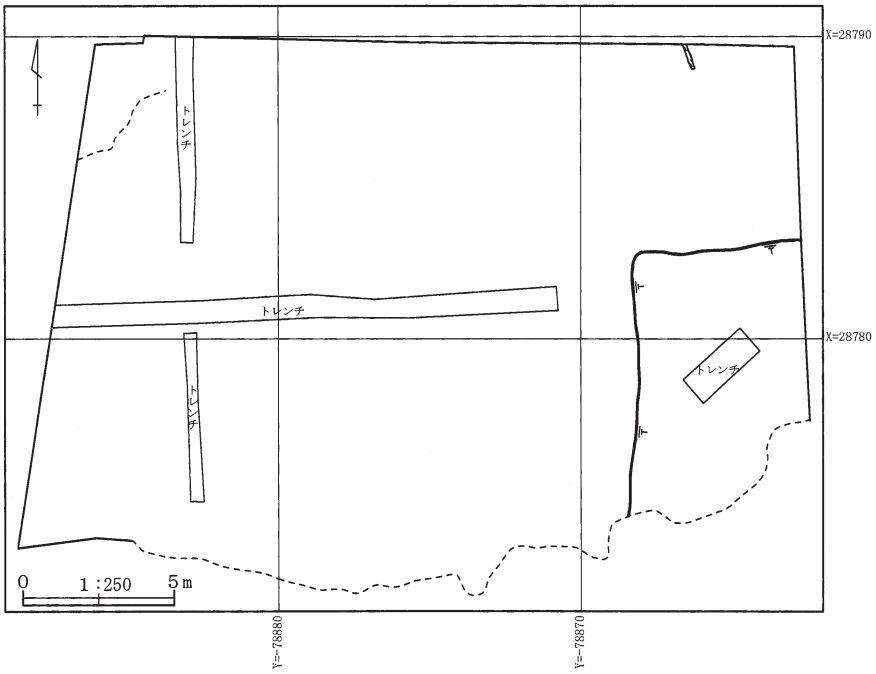


図67　田島遺跡全体図

Ⅵ　遺物観察表

甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)
遺構外出土遺物

番号	種類 器種	出土 レベル	法量 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 鉢	−	口(17.3) 底−　高−	①普通　②鈍い黄橙色 ③白･褐色細砂粒	外面　口縁部〜体部撫で。 内面　口縁部〜体部撫で。	口縁部〜体部1/3
2	土師器 甕	−	口−　底6.2 高−	①普通　②鈍い黄橙色 ③白･黒･褐色細砂粒	外面　胴部縦位篦削り。 内面　胴部撫で。内外面摩滅。	胴部下位〜底部
3	磁器 碗	−	口−　底4.5 高−	型紙摺。焼成不良。		底部破片、近現代
4	磁器 碗蓋	−	口7.4　摘み3.0 高2.2	人造呉須による染付。		底部破片、瀬戸･美濃、近現代
5	陶器 擂鉢	−	口(31.2) 底−　高−	口縁端部やや平坦。柿釉。		口縁部破片、益子･笠間系、近現代

塚田遺跡第1面
1号溝

1	軟質陶器 内耳鍋	+15	口25.0　底− 高−	口縁部内面段をなし、端部には平坦面を作る。端部外面は張り出す。	口縁部破片、中世

2ｂ号溝

1	軟質陶器 片口鉢	±0	口28.5　底− 高−	口縁部横撫で。片口部残る。	口縁部破片、中世
2	軟質陶器 片口鉢	±0	口−　底− 高−	底部内面周縁から体部下端、すりこぎ状工具にる使用によりドーナツ状に窪む。底部外面左回転糸切り無調整。	底部、中世
3	古銭	覆土	径2.30　孔径0.60　厚さ0.10　重さ2.0ｇ　寛永通宝		完形
4	石	±0	長さ<27.0>　幅<12.0>　厚さ6.2　重さ3,150ｇ		1/2

3号溝

1	在地系? 不詳	覆土	口13.8　底− 高−	口縁部横撫で。体部外面回転篦削りか篦撫で。	口縁部破片
2	緑釉 皿	+22	口11.1 底4.8 高2.5	口縁部内面から口縁端部外面灰釉。底部外面右回転糸切り無調整。	1/3、古瀬戸、15世紀か
3	陶器 香炉	+27	口−　底8.0 高−	体部外面、灰釉もしくは飴釉。体部外面丸鑿状工具による文様。	底部破片、瀬戸･美濃、江戸時代
4	陶器 灯明受け皿	覆土	口10.0 底4.0 高1.8	錆釉施釉後、底部の釉を拭い取る。体部外面中位重ね焼痕。	1/5、瀬戸･美濃、江戸時代
5	磁器 碗	覆土	口8.3　底3.8 高4.8	外面銅版による寶尽くし文。	3/4、瀬戸･美濃、近現代

4号溝

1	肥前磁器 碗	覆土	口−　底4.7 高−	見込み五弁花コンニャク印判。	底部破片、波佐見系、江戸時代

6号溝

1	軟質陶器 片口鉢	+30	口−　底− 高−	還元炎焼成。	口縁部破片、中世
2	肥前磁器 碗	覆土	口−　底5.0 高−	呉器手。	体部破片、江戸時代
3	打製石斧	+27	長さ10.7　幅5.2　厚さ1.4　重さ65.0ｇ		完形

塚田遺跡第2面
1号建物

1	軟質陶器 内耳鍋	覆土	口− 底(8.3) 高−	平底。還元炎焼成。	底部、中世

4号掘立柱建物(ピット845･923)

1	木製品(柱)	底面	径<17.0>　長さ<14.5>　幅<11.5>　柱根基部。	破片
2	木製品(柱)	底面	径<17.0>　長さ<11.5>　幅<11.5>　柱根基部。	破片
3	古銭	覆土	径2.30　孔径0.65　厚さ0.10　重さ2.7ｇ　淳佑元寶	完形

5号掘立柱建物(ピット880)

1	木製品(柱)	底面	径<18.0>　長さ<19.2>　幅<14.2>　芯材　柱根基部。	破片

12号掘立柱建物(ピット704)

1	陶器 不詳	+25	口− 底(5.9) 高−	内外面体部下端まで灰釉、外面高台脇以下は部分的に薄くかかる。削り出し高台。内外面に油と思われる黒色物多く付着。	底部破片、製作地不詳

13号掘立柱建物(ピット500)

1	在地系土器 かわらけ	覆土	口(15.2) 底 (8.0)　高3.9	体部直線的に開く。摩滅により底部切り離し不明。	1/7、中世

Ⅵ　遺物観察表

塚田遺跡第２面

1号井戸

番号	種類 器種	出土 レベル	法量 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	石臼	+30	長さ<21.5>　幅<14.5>　厚さ7.6　重さ3,190g			1/4

8号溝

1	壁材	±0	長さ13.4　幅8.4　厚さ3.7　重さ247.0g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片
2	壁材	±0	長さ8.5　幅5.3　厚さ5.9　重さ156.3g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片

16号溝

1	軟質陶器 内耳鍋	+6	口24.0　底－ 高－	口縁部僅かに内湾。端部には平坦面を作る。		口縁部破片、中世
2	軟質陶器 内耳鍋	+8	口27.5　底－ 高－	口縁部短く、内湾する。		口縁部破片、中世
3	壁材	+13	長さ9.3　幅9.2　厚さ2.9　重さ161.7g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片
4	壁材	+11	長さ10.4　幅6.9　厚さ4.8　重さ203.4g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片
5	壁材	+8	長さ8.0　幅7.7　厚さ9.7　重さ141.7g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片
6	壁材	+2	長さ8.1　幅6.7　厚さ5.1　重さ144.6g　細･中礫、スサ含み、焼土化。			破片

33号ピット

1	石	±0	長さ<28.5>　幅<20.0>　厚さ4.5　重さ1,800g			破片

34号ピット

1	石	±0	長さ<19.5>　幅<18.0>　厚さ3.0　重さ1,170g			破片

54号ピット

1	木製品(柱)	底面	径<16.0>　長さ<32.5>　幅<14.6>　芯材　柱根基部。			破片

244号ピット

1	青磁 碗	覆土	口16.2　底－ 高－	外面に丸彫りによる細い連弁文。横地城分類Ｂ４類。		口縁部破片、龍泉窯系、中世

299号ピット

1	石	±0	長さ<25.8>　幅<19.4>　厚さ4.0　重さ2,950g			完形

309号ピット

1	軟質陶器 内耳鍋	+40	口－　底－ 高－	器壁厚く、口縁部内湾する。端部丸味を帯びる。		口縁部破片、中世

456号ピット

1	木製品(柱)	底面	径<12.0>　長さ<23.8>　幅<10.7>　芯材　柱根基部。			破片

555号ピット

1	在地系土器 かわらけ？	覆土	口12.0　底－ 高－	口縁部横撫で。		口縁部破片

603号ピット

1	陶器 蓋	+25	口4.7　底2.1 高1.2	落とし蓋。上面の一部、下面前面灰釉。		3/4、古瀬戸？

835号ピット

1	石	覆土	長さ34.5　幅24.5　厚さ14.5　重さ13,300g			完形

888号ピット

1	木製品(柱)	底面	径<11.5>　長さ<35.0>　幅<11.5>　芯材　柱根基部。			破片

塚田遺跡遺構外出土遺物

1	陶器 片口鉢	－	口－ 底(18.2) 高－	酸化炎焼成で整形や調整は甕に近い。底部外面砂付着。体部外面下端篦による調整。内面すり目ないが、底部と体部の境を除き、すり鉢としての使用により器表摩滅。		底部破片、中世
2	在地系土器 不詳	－	孔径0.8	皿状の本体に取っ手を貼り付ける。体部と取っ手の外面下位は被熱によると思われる黒変がある。現在のゴマを煎る道具と同様なものであろう。		
3	古銭	－	径2.10　孔径0.75　厚さ0.08　重さ1.5g　景佑元寳			ほぼ完形
4	灰釉陶器 椀	－	口－ 底(6.4) 高－	①普通　②灰黄色　③白色細砂粒	内外面　轆轤整形。施釉不明。	底部破片
5	陶器 深皿か大皿	－	口－底(12.2) 高－	内面の一部に灰釉かかる。外面脚を貼り付ける。		底部破片、古瀬戸後期
6	銅製品	－	長さ9.5　幅0.8　厚さ0.2　重さ4.7g			完形

Ⅶ　調 査 の 成 果

現存する条里地割りと確認した遺構の位置関係について

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　坂　口　　一

1．はじめに

甘楽郡甘楽町の北部に位置する福島から新屋にかけての地域には、230haにも及ぶ条里制に基づいた地割りの水田区画が遺存し、この範囲は「甘楽条里」と呼ばれている。昭和55年度以降の圃場整備事業で一部に区画の改変が行われたが、現在でも主要な区画は残存している。

本報告書で掲載した４遺跡のうち、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)及び甘楽条里遺跡(造石大町地区)は、この「甘楽条里」の範囲内に位置している。これらの遺跡で確認した遺構には、現存する条里地割りに近い位置か、あるいは平行するものが存在し、ここではこれらについて、現存する条里地割りとの位置関係について検討してみたい。

なお、現存する条里地割りについては、圃場整備の施工以前である昭和49年測図の甘楽町都市計画図を基にして検討し、これらは既に発掘調査された周辺遺跡の成果も含めて、付図「甘楽条里遺跡周辺地形図」に示した。

2．甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)

この遺跡は「甘楽条里」の中央西側に位置し、調査区域が坪境と重なる部分がないことから、条里地割りに一致する遺構はない(図1)。しかし、いずれも用水路と考えられる１ａ・１ｂ・２・３・４ａ・４ｂ号

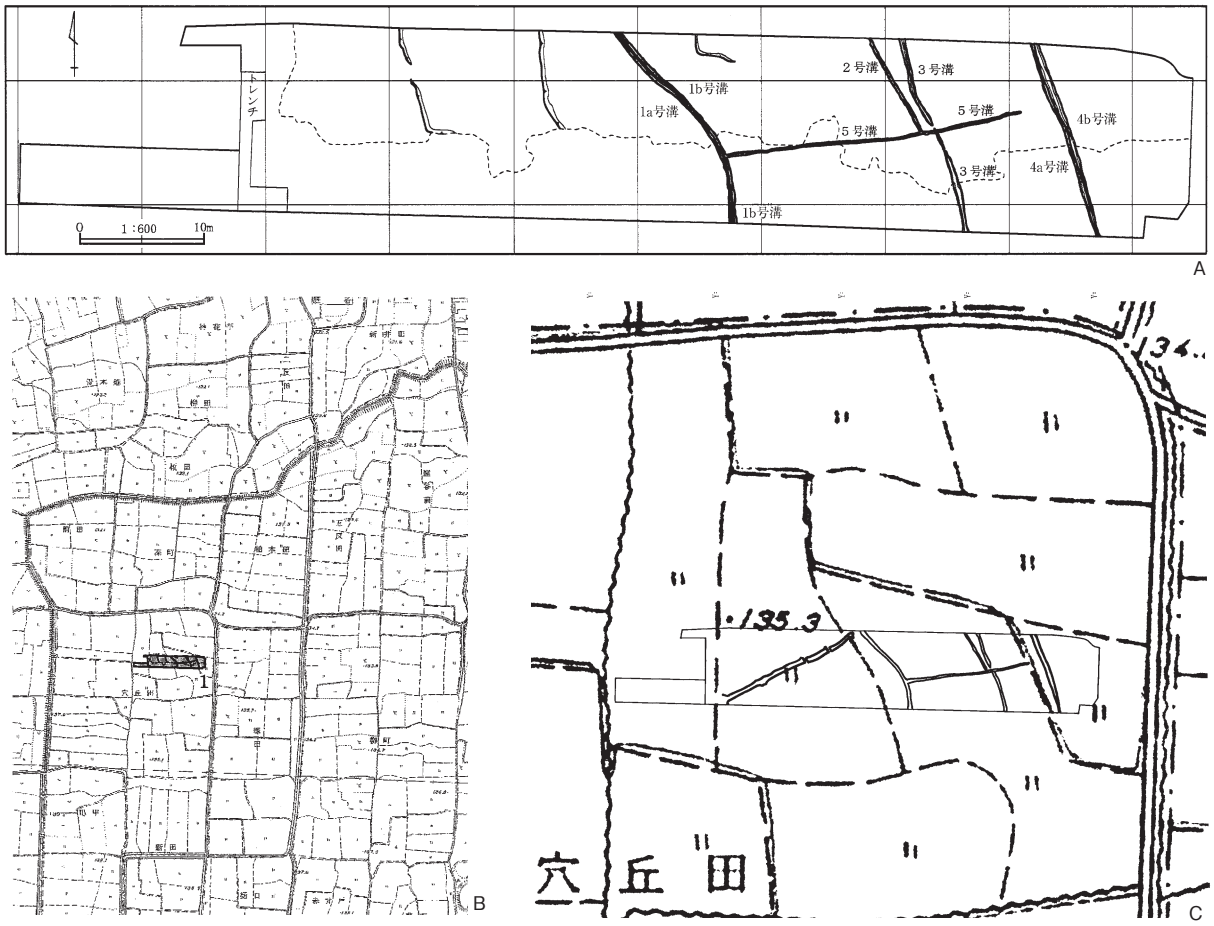


図68　甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)　A:全体図(S＝1：600), B:位置図(S＝1：8,000), C:地割り図(S＝1：1,500)

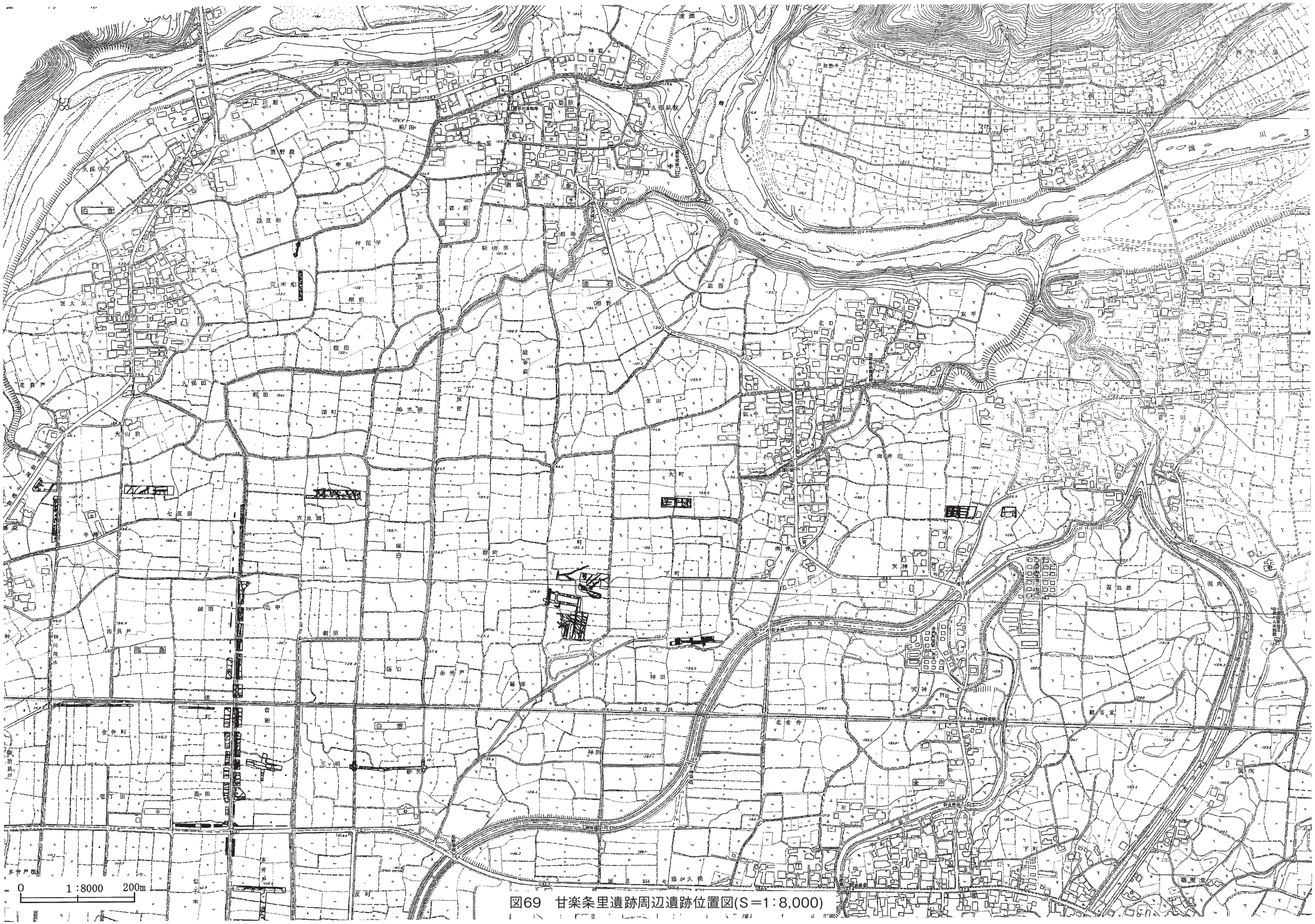


図69　甘楽条里遺跡周辺遺跡位置図(S＝1：8,000)

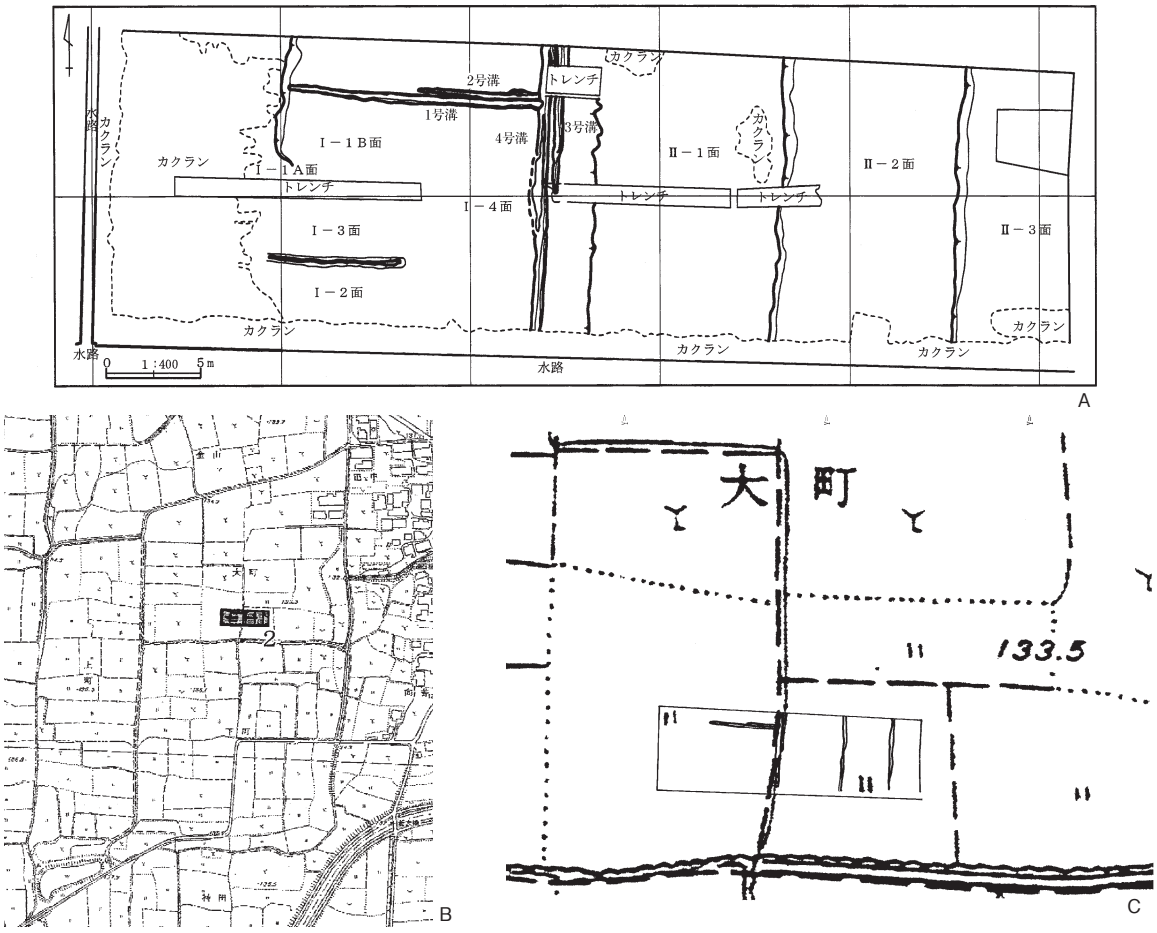


図70　甘楽条里遺跡(造石大町地区)　A:全体図(S＝1:400), B:位置図(S＝1:8,000), C:地割り図(S＝1:1,500)

溝の走行は、現存する坪内を区画する水田の南北方向の小畦の走行に平行し、特に調査区域の東側に位置する４ａ・４ｂ号溝は、その位置が現存する小畦の位置に極めて近似している。

これらの溝は、いずれも伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、遺構外から出土した遺物がいずれも近世以降のものであることから近世以降の可能性が考えられ、現存する小畦の区画は少なくとも近世まで遡る可能性がある。

次に、水田面で確認した広義の耕作痕型擬似畦畔と考えられる段差であるが、これらは浅間Ｂ軽石降下以降の比較的近い年代である可能性があること、方向が真北に近いこと、段差間の間隔が11～12mであることなどから、条里地割りに一致する可能性も考えられる。しかし、確認した長さが短いことからその方向性などに確実性を欠き、可能性に留めざるを得ないと考えられる。

３．甘楽条里遺跡(造石大町地区)

この遺跡は「甘楽条里」の範囲の中央東側に位置し、調査区域が坪境を跨ぐ形で位置している(図2)。確認した4条の溝のうち、用水路と考えられる４号溝はその位置が現存する南北方向の坪境の水田区画に極めて近い位置にあり、方位がN-2°-Eの走行もほぼ平行している。

但し、現存する坪境の水田区画は、南端部の約20ｍほどが僅かに西側にずれることから、完全に平行していはいない。しかし、南側の坪境の交点とそのひとつ西側の坪境までの距離が約105ｍ前後であることを考慮すると、むしろ４号溝の走行が本来の条里地割りに近いものと考えられる。

なお、４号溝は伴出遺物が皆無で詳細な年代は不明だが、遺構外から出土した土器片から江戸時代以降と考えられ、現存する坪境の畦の区画は、少なくとも江戸時代以降まで遡る可能性がある。

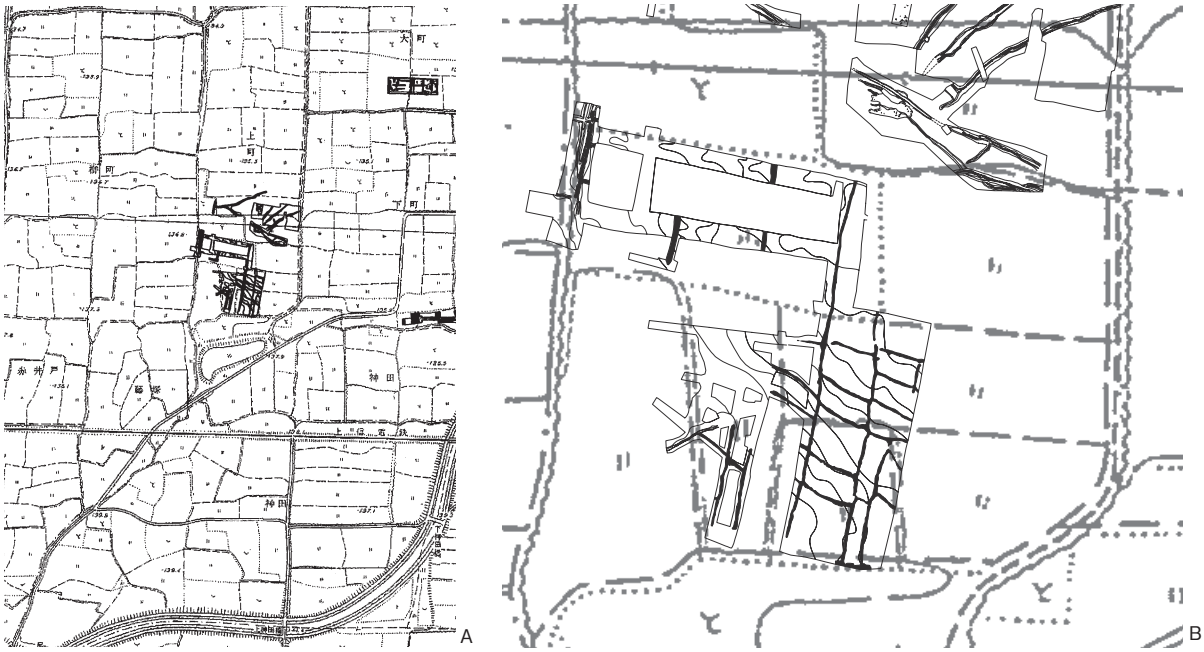


図71　甘楽条里遺跡(第４調査地点)　A:位置図(S＝1：8,000), B:地割り図(S＝1：1,500)

次に、この遺跡の水田面で確認した広義の耕作痕型擬似畦畔と考えられる2条の段差であるが、これらは浅間Ｂ軽石降下以降の比較的近い年代である可能性が高く、その方向も真北方向に近い。しかし、段差間の間隔は約10mで、現存する坪境を基軸として、109mを10等分した長地型の分割線上には一致しない。

４．周辺の遺跡

「甘楽条里」の範囲では、いくつかの発掘調査が行われている(3頁図3参照)。なかでも本遺跡群に近接した甘楽町教育委員会が発掘調査した甘楽条里遺跡(第４調査地点，甘楽町教育委員会1984)では、天仁元年(1108)に降下した浅間Ｂ軽石直下の水田や用水路が検出されている。

この遺跡では、調査区域の西端部に位置する畦と用水路が、現存する条里地割りの南北方向の坪境にほぼ一致して出土している(図3)。また、検出された小畦の縦畦(南北方向)の一部には、その間隔が11m前後で、長地型の地割りである可能性も考えられるものも存在する。

但し、小畦の横畦(東西方向)は、真北を基準とした東西方向から30°ほど南側に傾き、条里地割りと一致した方向を示してはいない。これは、この「甘楽条里」の範囲が、大きくは南西から北東の方向に傾斜した地形面に立地していることから、小畦の横畦はこの地形に沿った造成がされているためと考えられよう。

５．まとめ

以上のことから、甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)及び甘楽条里遺跡(造石大町地区)は、現存する「甘楽条里」の範囲ではあるが、確実に古代まで遡る条里地割りに一致した遺構は確認できなかった。

一方、甘楽条里遺跡(第４調査地点)では、条里地割りに一致する水田の畦畔と用水路が検出されており、これは浅間Ｂ軽石の降下年代である天仁元年(1108)まで遡るものである。

さて、この地域では、今のところ水田が検出されるのは天仁元年(1108)の浅間Ｂ軽石直下のみである。したがって、今後は浅間Ｂ軽石直下の水田及びAs-B混土下面の擬似畦畔の検出とその分析が、この地域における条里地割りを考える重要な資料のひとつになるものと考えられよう。

引用・参考文献

『甘楽条里遺跡(昭和58年度県営圃場整備事業甘楽北部地区)』甘楽町教育委員会　1984

『甘楽条里遺跡(大山前遺跡)・福島椿森遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　2000

写真図版

甘楽条里遺跡（庭谷深町地区）

遺跡近景 (南西から)

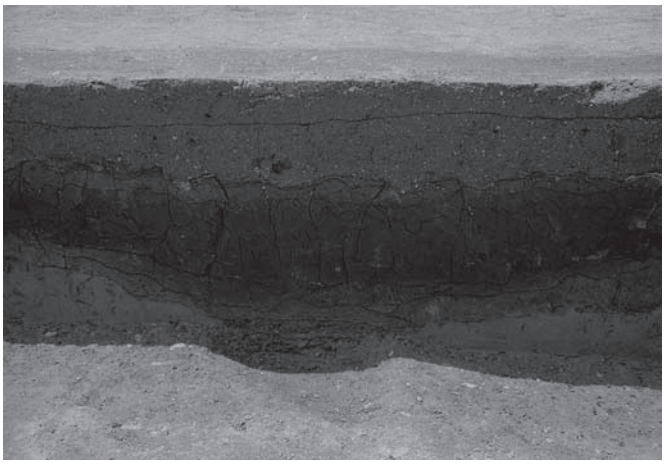
試掘坑西壁土層断面 (北東から)

2 号試掘坑南壁土層断面 (北から)

2 号試掘坑南壁土層断面 (北から)

遺跡遠景 (東から)

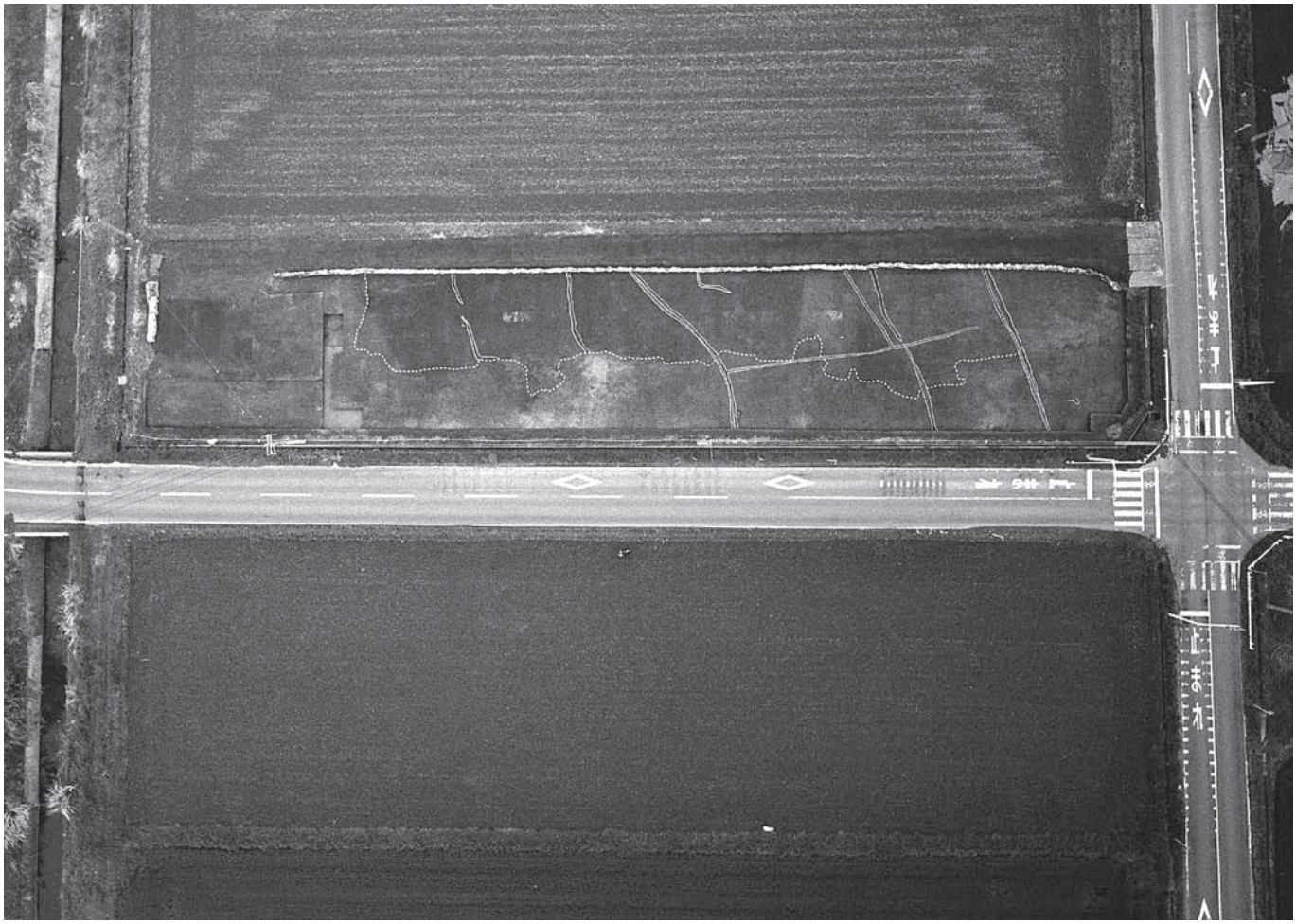
２号試掘坑西壁土層断面 (東から)



２号試掘坑西壁土層断面 (北東から)

第２面　６号溝全景 (北東から)

工事完了後風景 (東から)



遺跡全景 (上が北)

甘楽条里遺跡（造石大町地区）

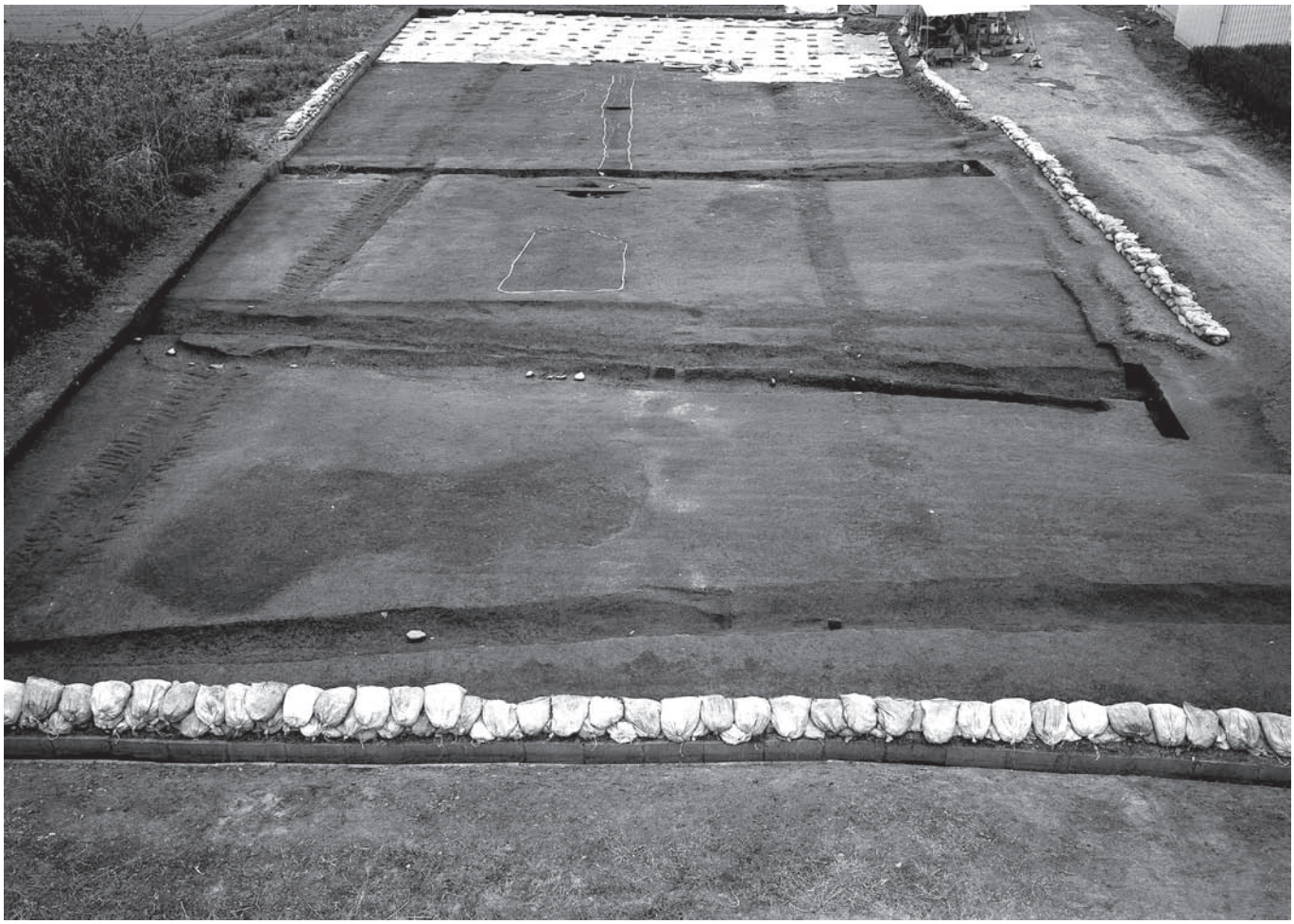
試掘坑全景 (西から)

試掘坑南壁土層断面 (北から)

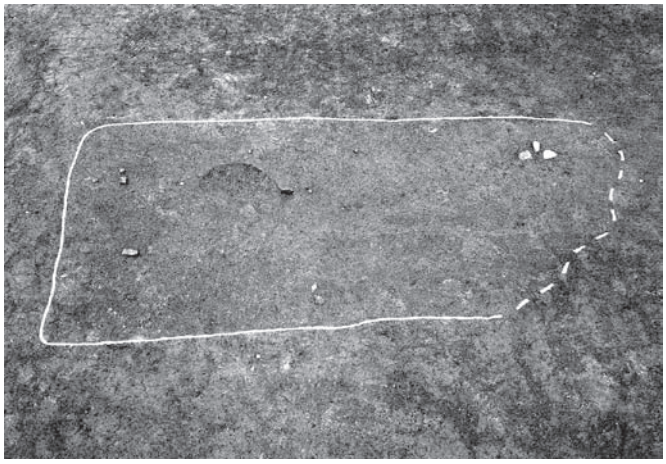
遺跡遠景 (南から)

工事完了後風景 (西から)

遺跡遠景 (東から)



第１面全景 (西から)

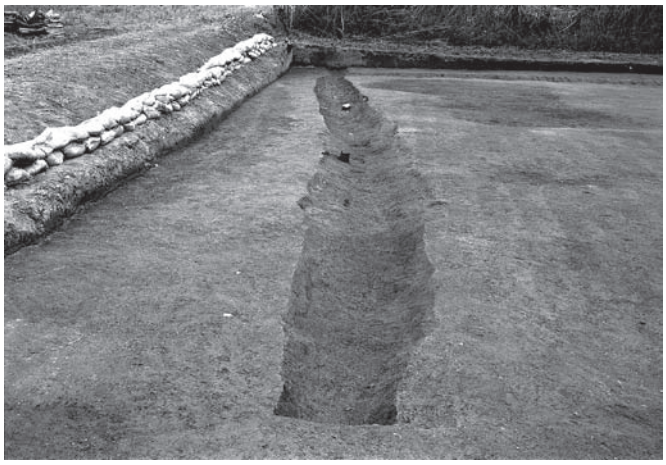


１号竪穴状遺構全景 (南から)

１号竪穴状遺構　炉 (南から)

１号土坑全景 (西から)

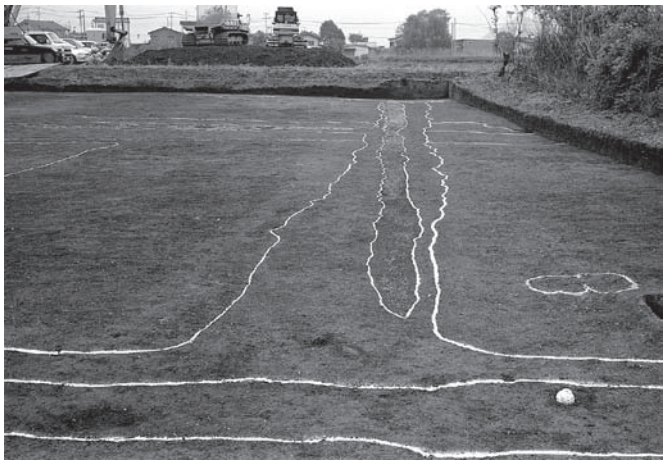
北壁土層断面 (南から)



1号溝全景 (南から)

3号溝全景 (南から)

4・6号溝全景 (南から)



5号溝検出状況 (東から)

2a・2b・2c号溝全景 (南から)

5号溝全景 (東から)

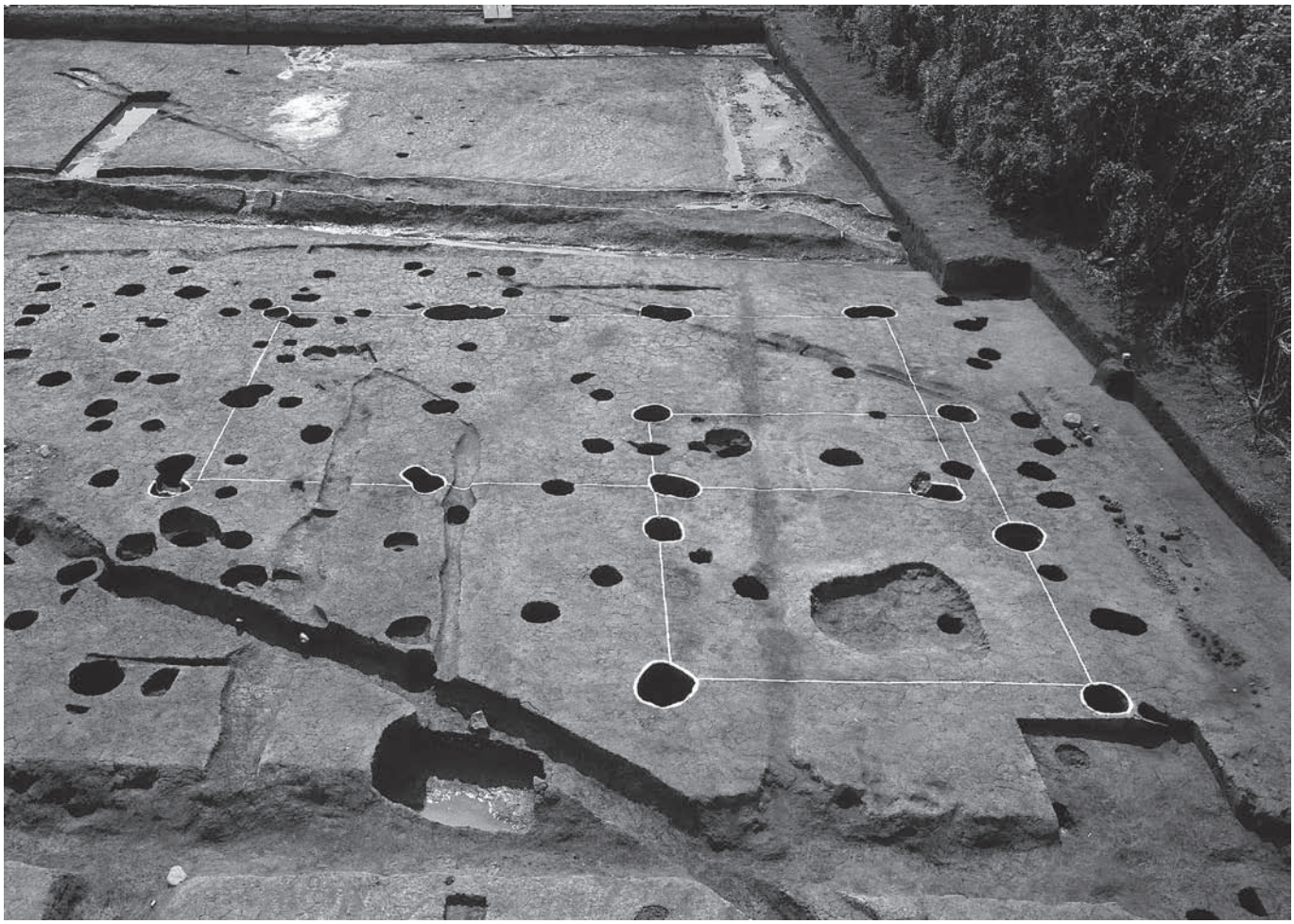
第２面全景 (西から)

１号建物全景 (東から)

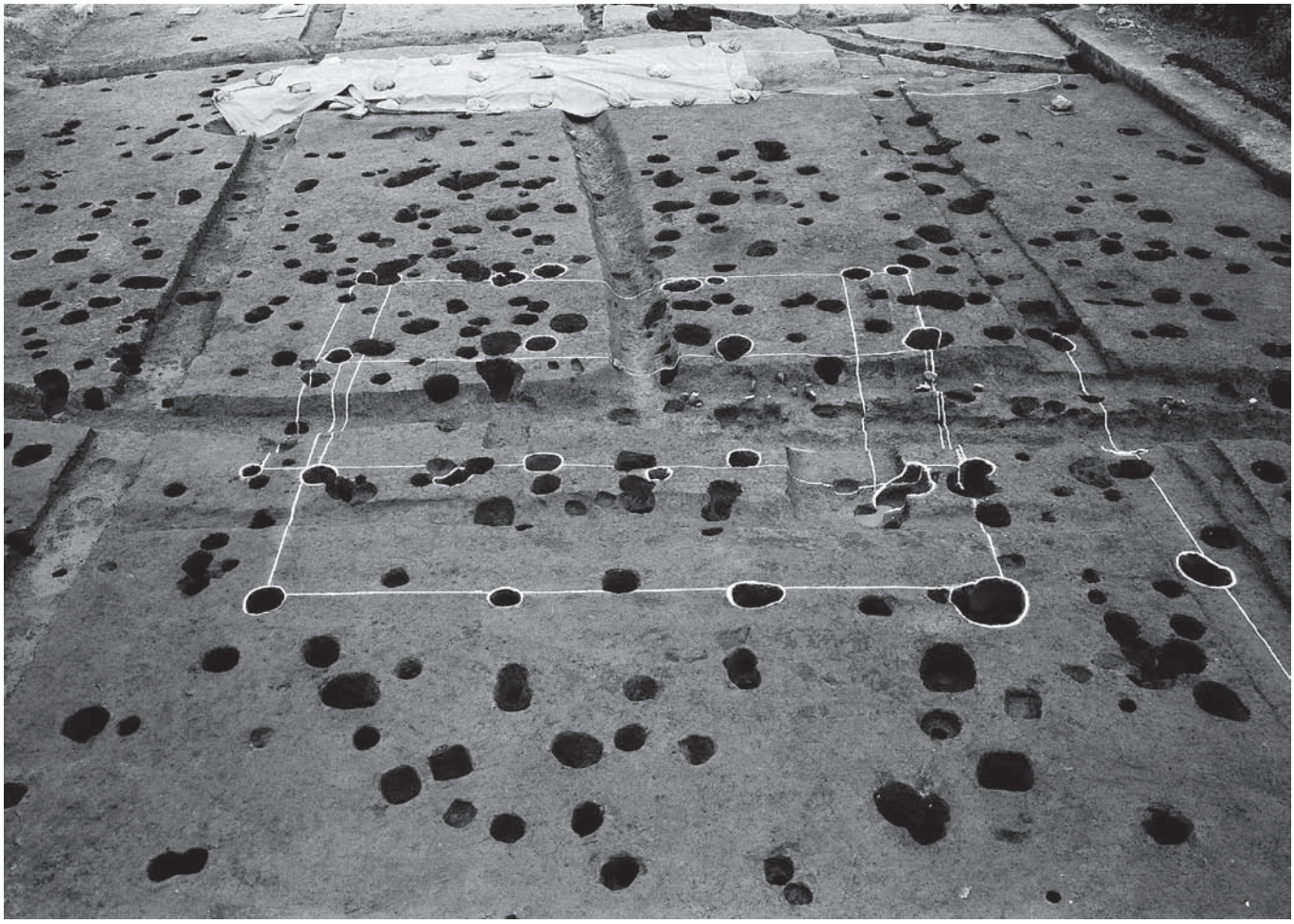
１号建物全景 (南東から)

１号建物遺物出土状況 (南東から)

１号建物焼土出土状況 (南から)



掘立柱建物群 (西群，東から)



掘立柱建物群 (東群，東から)

1 号井戸遺物出土状況 (南から)

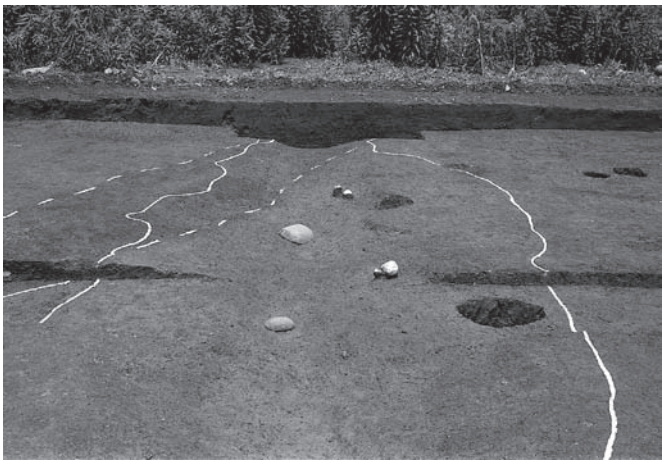
1 号井戸全景 (北から)

7 号溝全景 (南から)

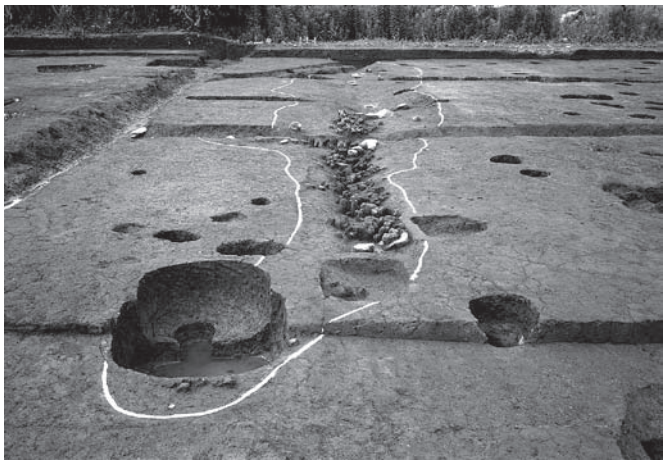
8 号溝全景 (東から)

13･14･15 号溝全景 (西から)

13 号溝内ピット 603(南西から)



16 号溝北側部 (南から)

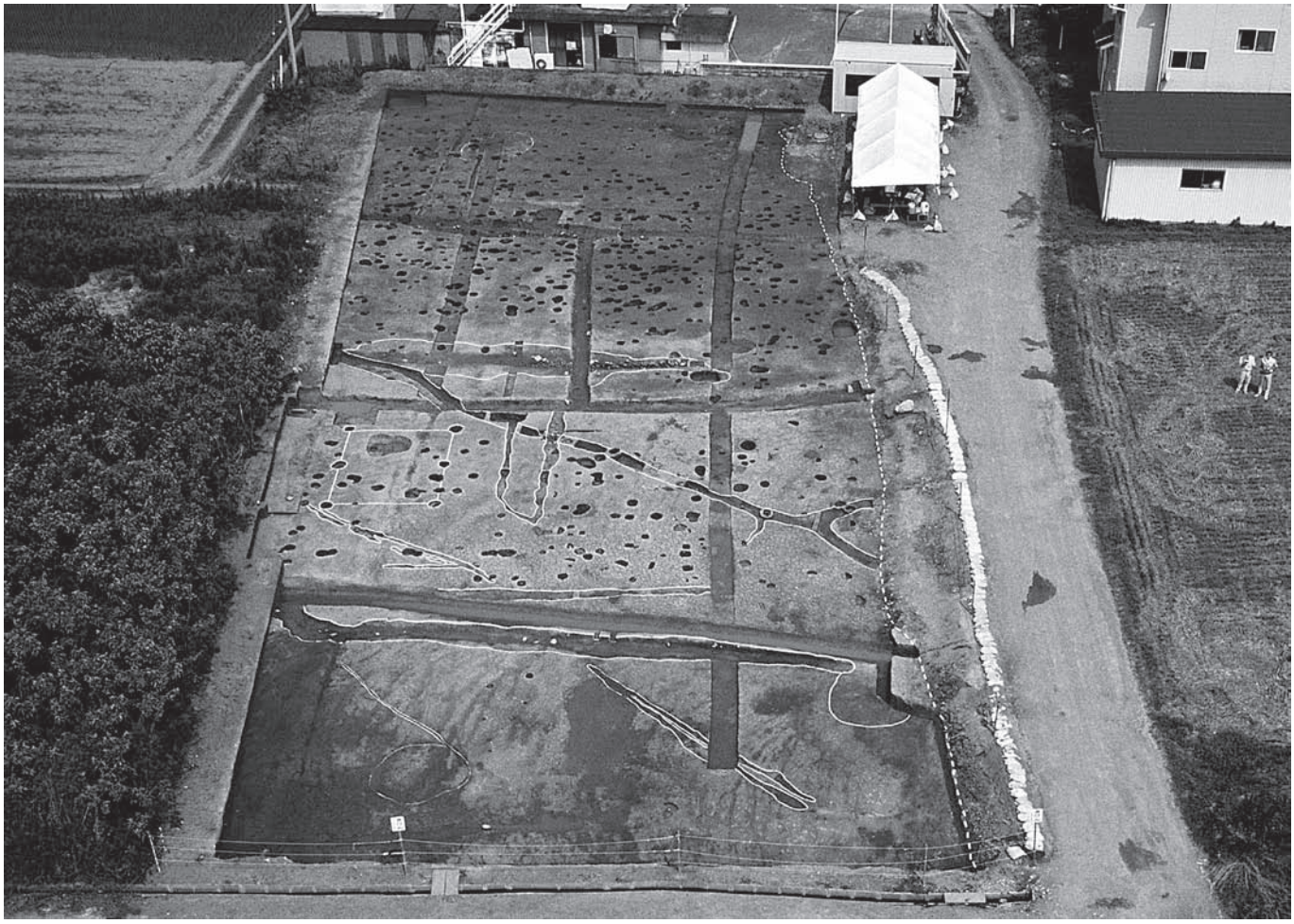


16 号溝全景 (南から)

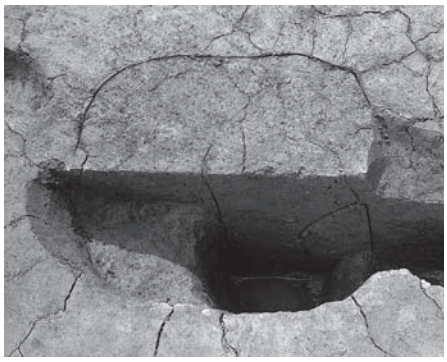
16 号溝遺物出土状況 (南から)

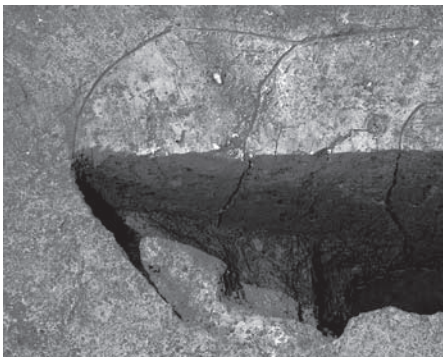
16･17 号溝全景 (北東から)

18 号溝全景 (南西から)



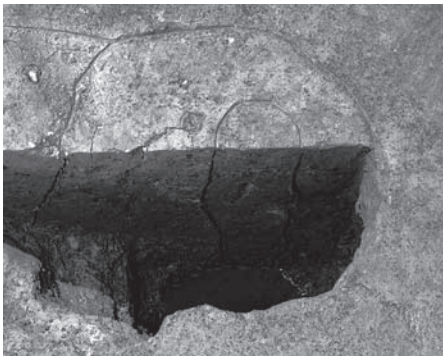
第 2 面全景 (西から)


1 号掘立柱建物 (ピット 748)


1 号掘立柱建物 (ピット 770)

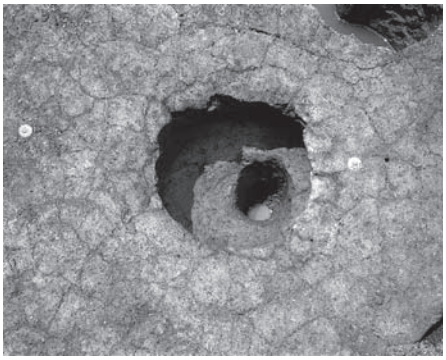
2 号掘立柱建物 (ピット 730)

2 号掘立柱建物 (ピット 747)

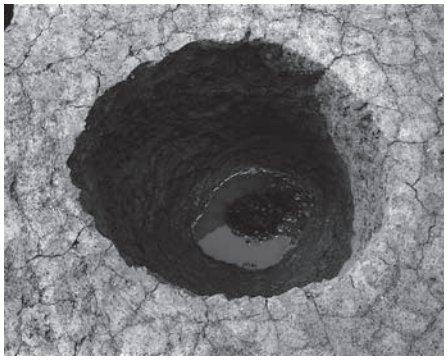

2 号掘立柱建物 (ピット 769)

3 号掘立柱建物 (ピット 737)

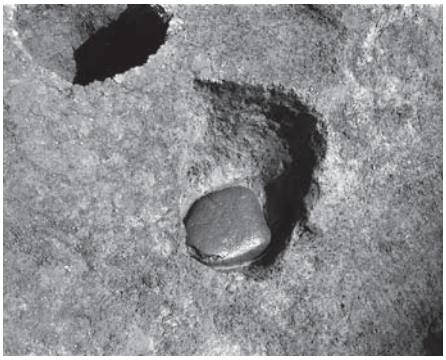
3 号掘立柱建物 (ピット 767)


4 号掘立柱建物 (ピット 843)

4 号掘立柱建物 (ピット 870)


5 号掘立柱建物 (ピット 880)

6 号掘立柱建物 (ピット 172- 中央)

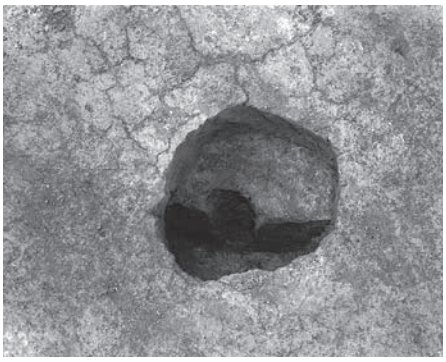

6 号掘立柱建物 (ピット 505)

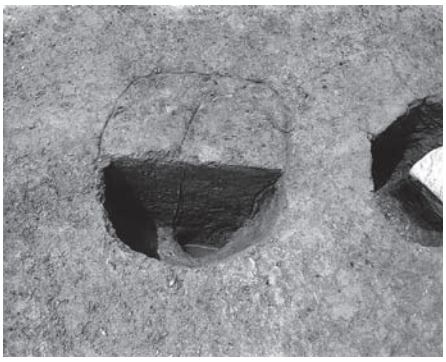
7 号掘立柱建物 (ピット 28- 中央)

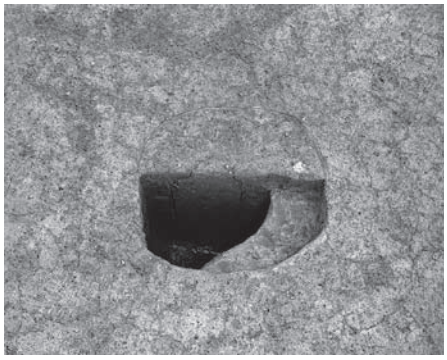
7 号掘立柱建物 (ピット 448)

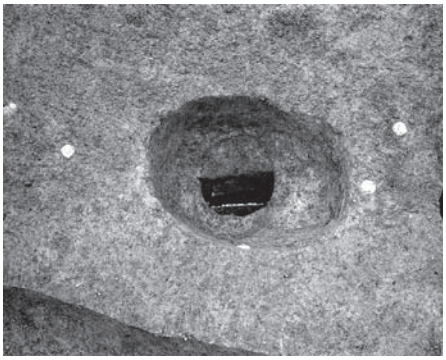
7 号掘立柱建物 (ピット 567)

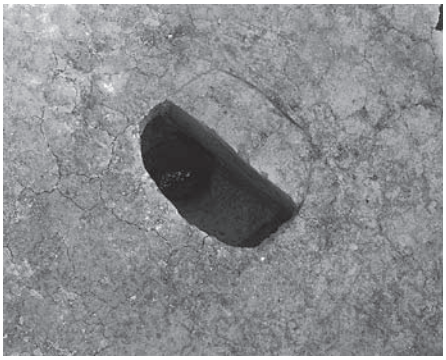
7 号掘立柱建物 (ピット 572)


8 号掘立柱建物 (ピット 186)


8 号掘立柱建物 (ピット 233)

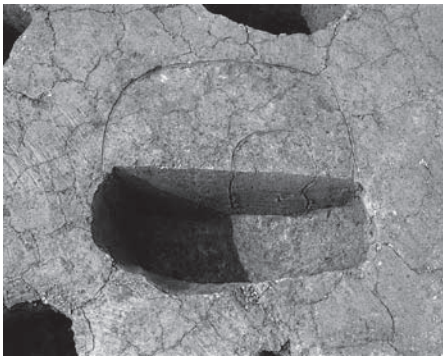

8 号掘立柱建物 (ピット 552)


8 号掘立柱建物 (ピット 564)


9 号掘立柱建物 (ピット 177)

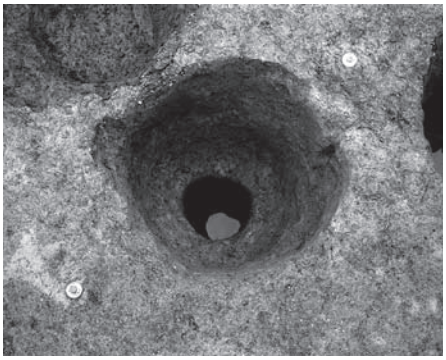
9 号掘立柱建物 (ピット 202)

9 号掘立柱建物 (ピット 202)


9 号掘立柱建物 (ピット 250)

9 号掘立柱建物 (ピット 678)

10 号掘立柱建物 (ピット 176)


10 号掘立柱建物 (ピット 249)

10 号掘立柱建物 (ピット 255- 左)

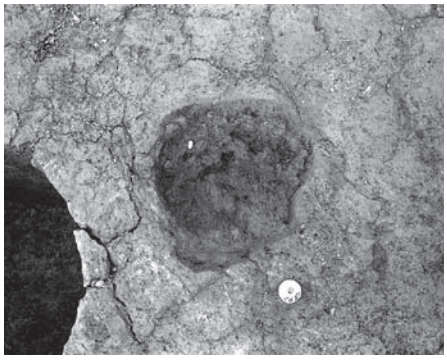
10 号掘立柱建物 (ピット 255- 左)

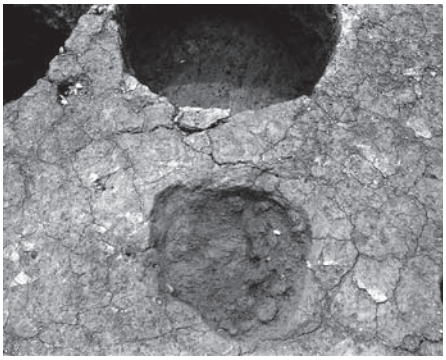
10 号掘立柱建物 (ピット 255- 左)

10 号掘立柱建物 (ピット 275)

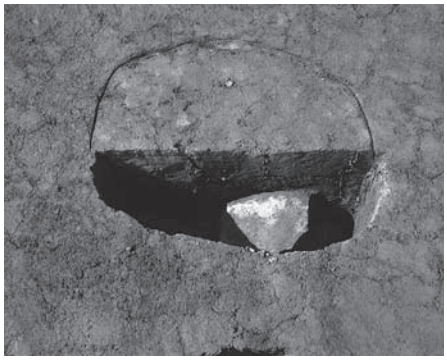
11 号掘立柱建物 (ピット 191･192- 右)

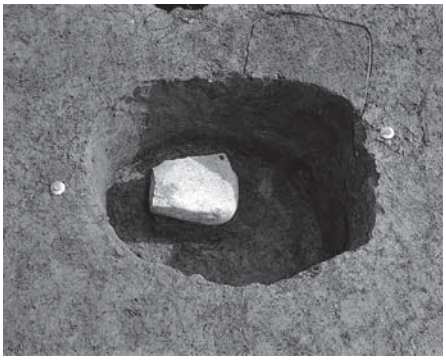
11 号掘立柱建物 (ピット 143)

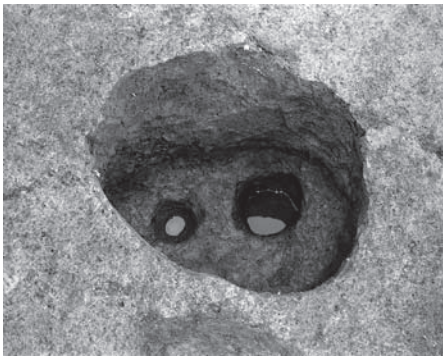

11 号掘立柱建物 (ピット 268)


11 号掘立柱建物 (ピット 268)

11 号掘立柱建物 (ピット 471)


12 号掘立柱建物 (ピット 40)

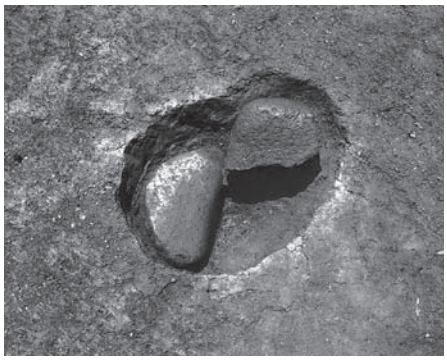

12 号掘立柱建物 (ピット 40)

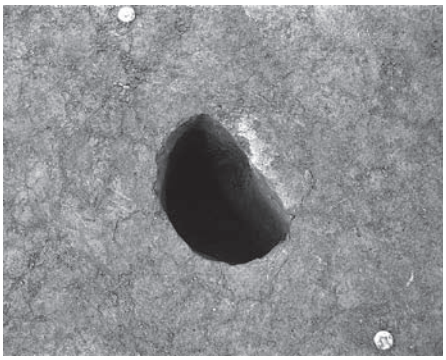

12 号掘立柱建物 (ピット 660)

12 号掘立柱建物 (ピット 660- 下)

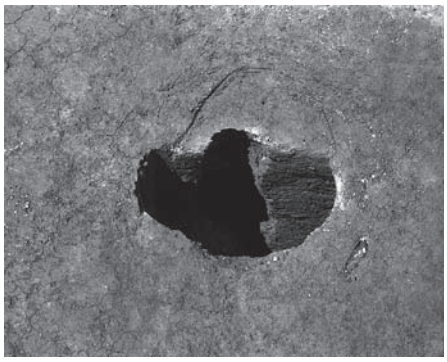
12 号掘立柱建物 (ピット 704)

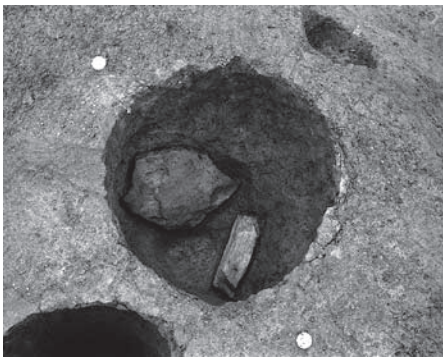
12 号掘立柱建物 (ピット 704)

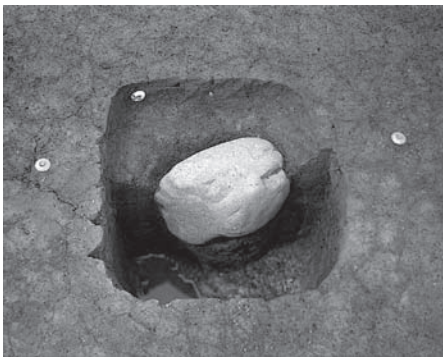

ピット 8

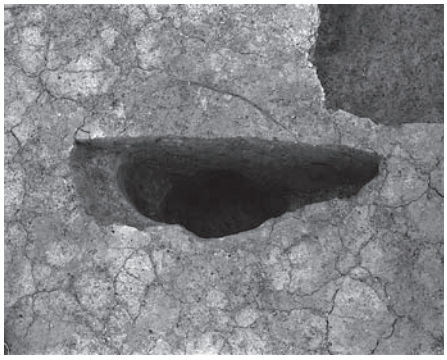

ピット 13

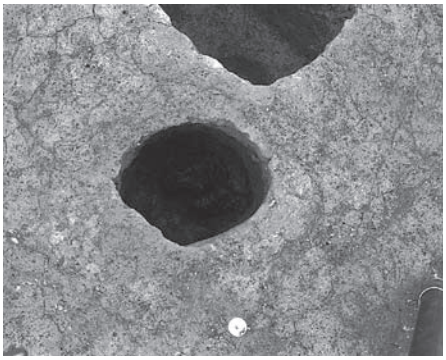
ピット 23

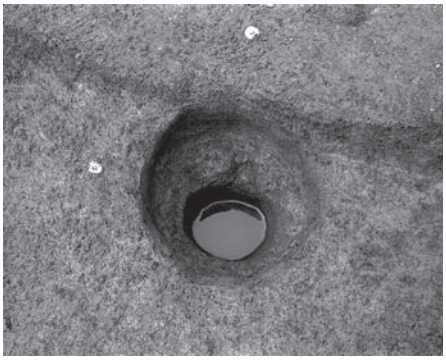

ピット 27

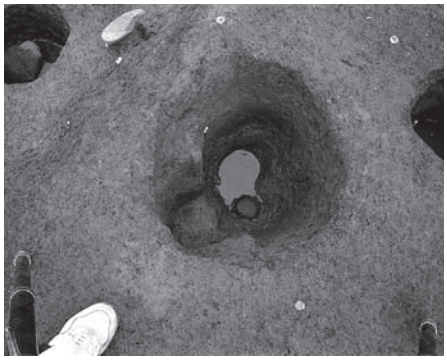

ピット 33


ピット 42


ピット 52


ピット 54


ピット 165

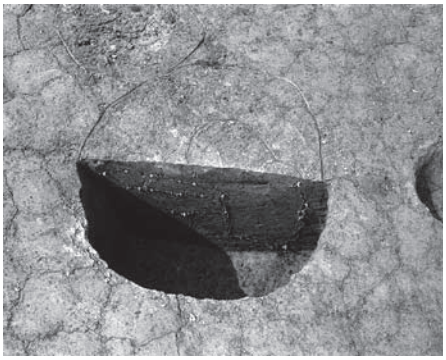

ピット 176

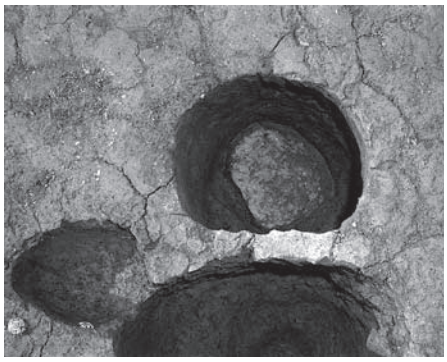
ピット 181

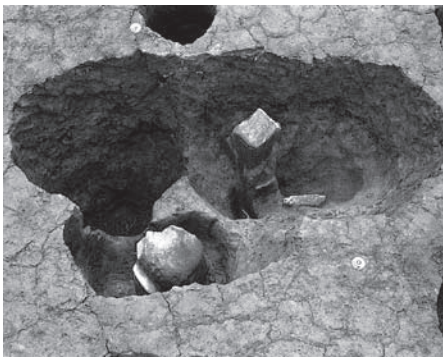
ピット 196

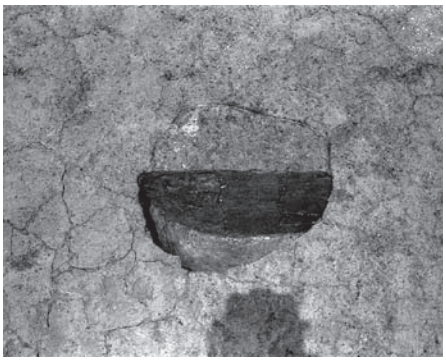
ピット 214

ピット 239

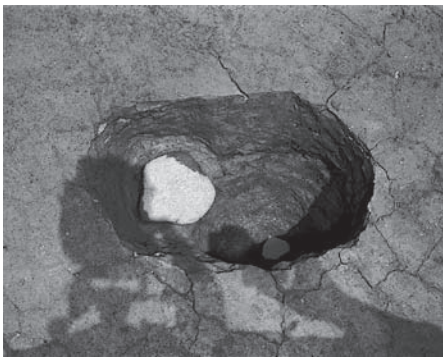

ピット 297

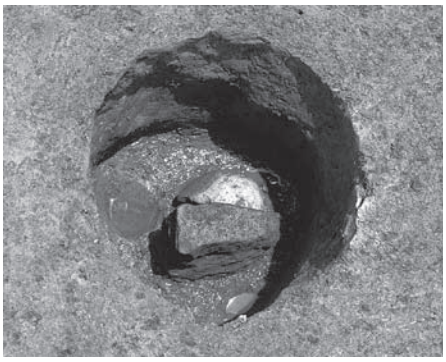

ピット 289

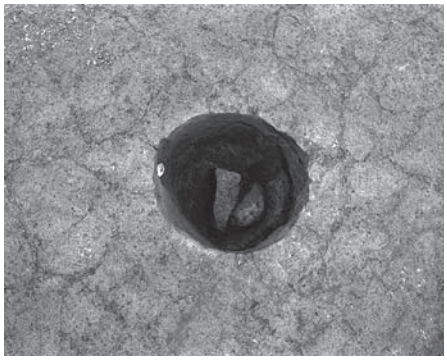

ピット 309

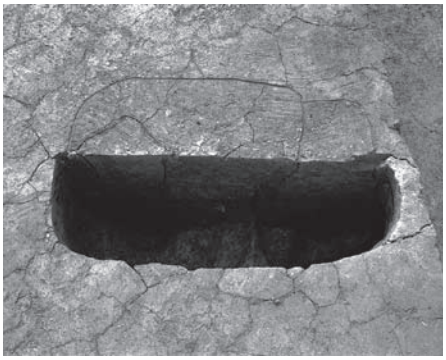

ピット 312

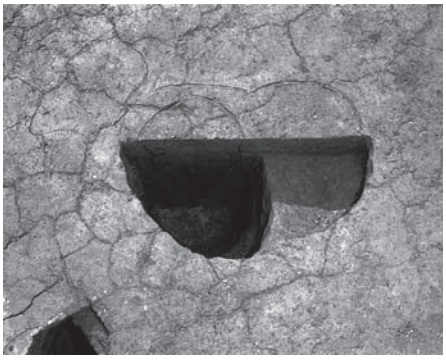
ピット 313･315- 右


ピット 318･319- 右

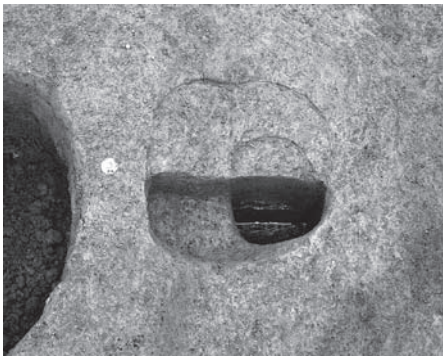

ピット 391


ピット 391


ピット 392･393- 右

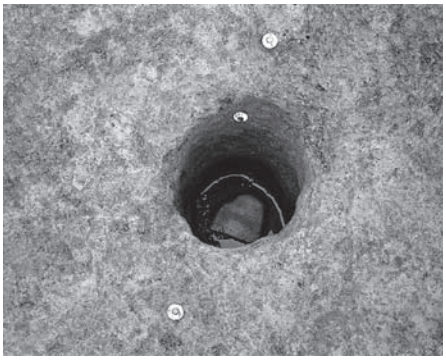

ピット 397･389- 右

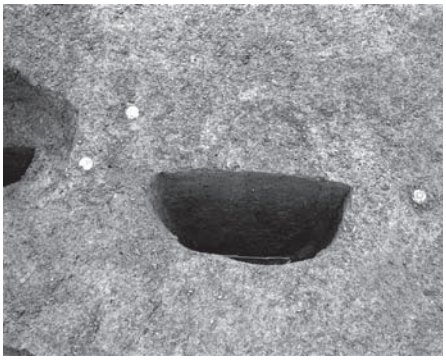
ピット 426

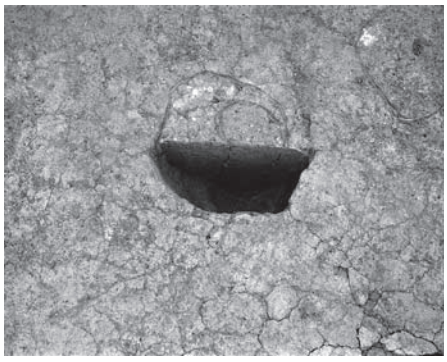

ピット 474

ピット 485- 中央

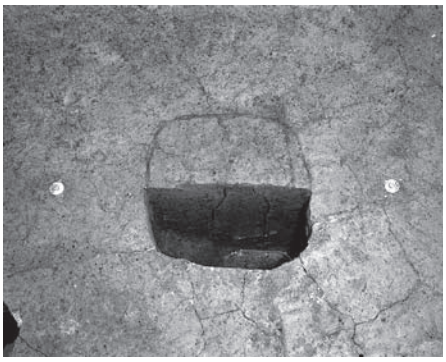
ピット 553

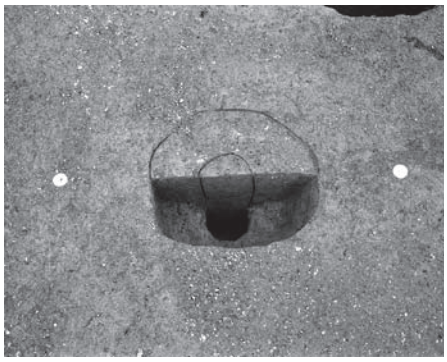

ピット 555


ピット 565


ピット 571

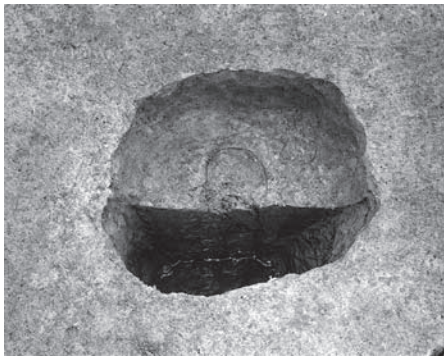
ピット 574

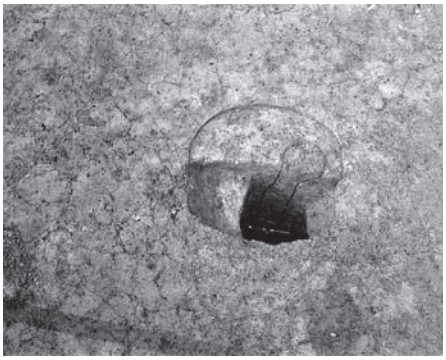

ピット 585


ピット 594

ピット 653･654- 右

ピット 655

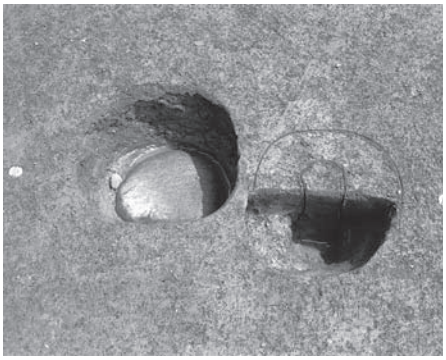

ピット 667


ピット 676

ピット 703

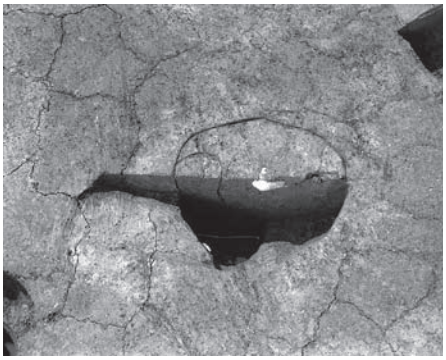
ピット 715

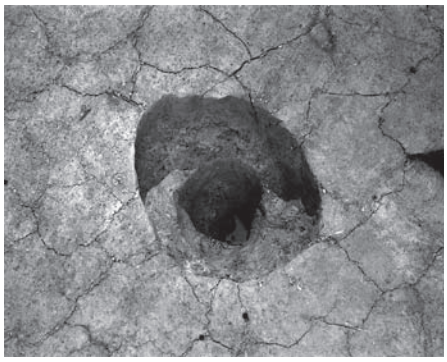
ピット 724

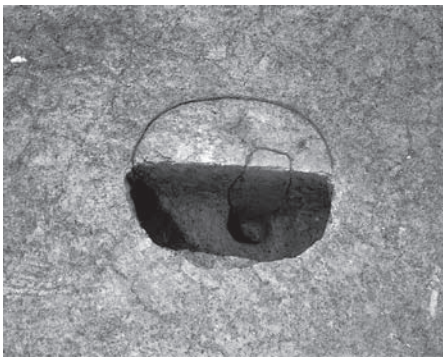

ピット 733･734- 右

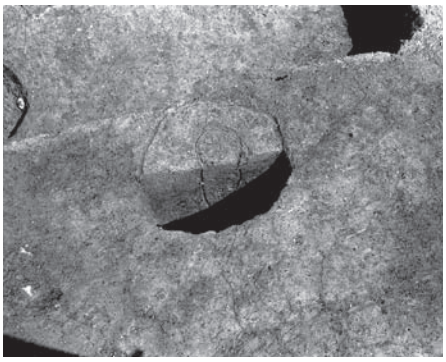
ピット 736

ピット 742


ピット 768


ピット 771

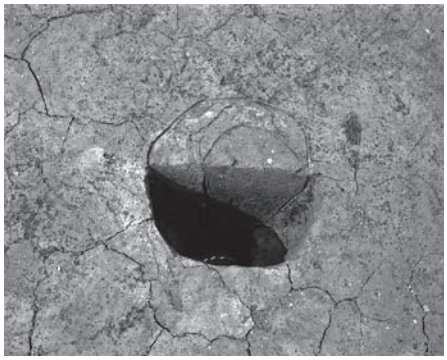

ピット 776

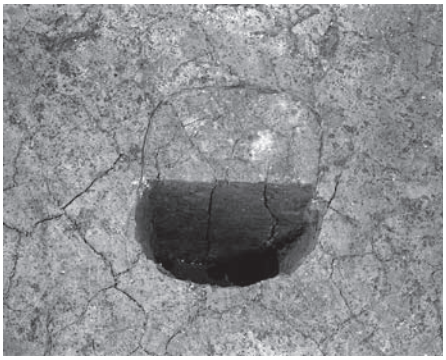

ピット 788

ピット 830

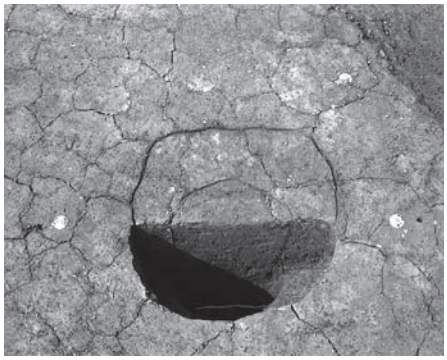
ピット 835

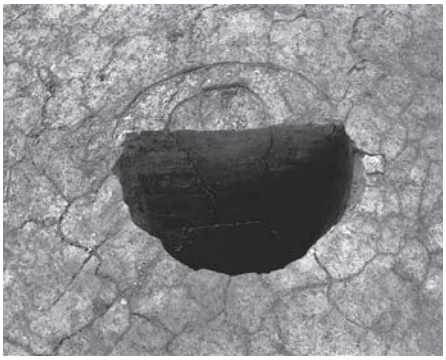
ピット 837

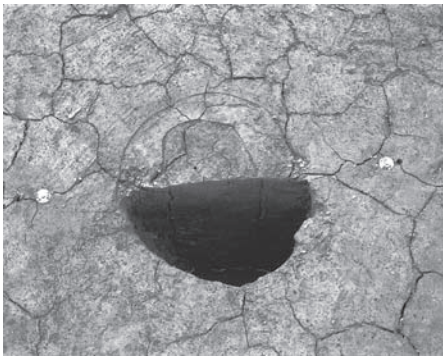

ピット 850

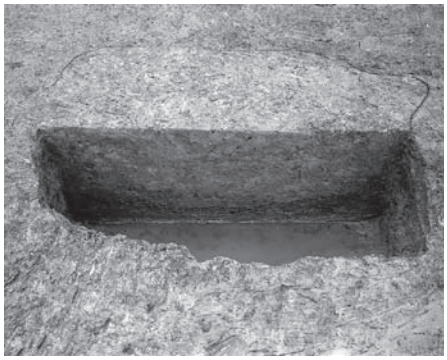

ピット 853

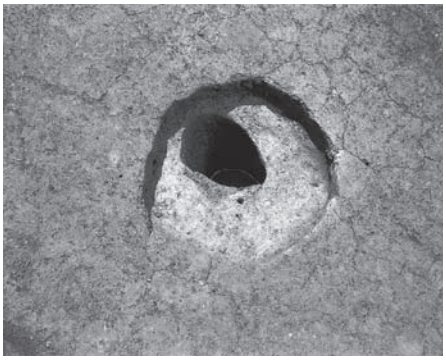
ピット 863

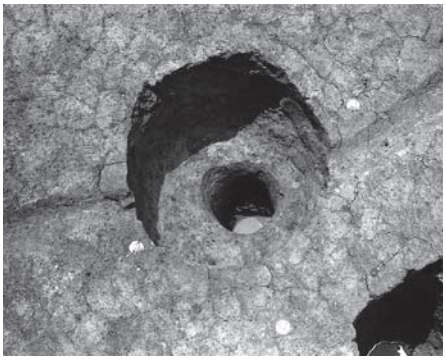

ピット 864

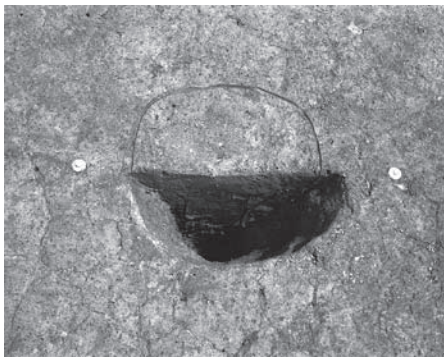

ピット 876

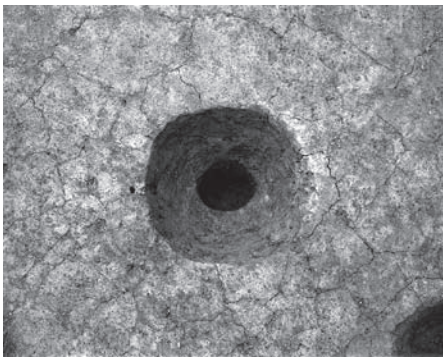

ピット 887

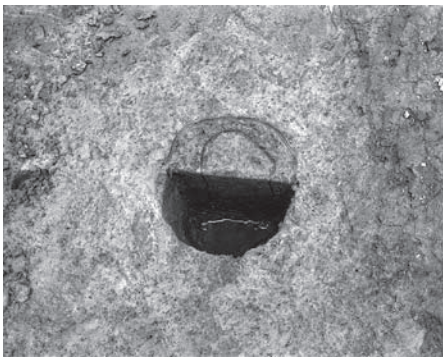

ピット 891


ピット 917


ピット 920


ピット 925


ピット 926


ピット 929

田島遺跡

遺跡全景 (南西から)

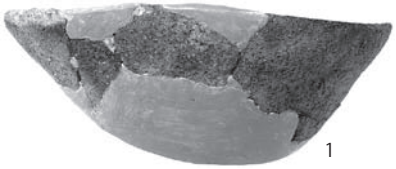
遺跡全景 (北東から)

水田面

調査後風景 (南から)

遺跡遠景 (シート部分，西から)

甘楽条里遺跡（庭谷深町地区）


1

2

3

4

5

遺構外出土遺物

塚田遺跡

1 溝 -1

2b 溝 -1

2b 溝 -2

2b 溝 -3

2b 溝 -4

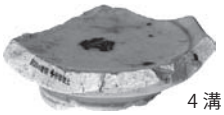
3 溝 -1

3 溝 -4

3 溝 -2

3 溝 -5

3 溝 -3


4 溝 -1

6 溝 -1

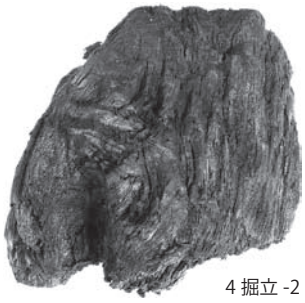
6 溝 -2

6 溝 -3

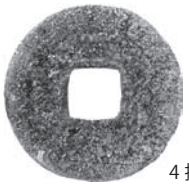
1 面 溝出土遺物

1 建物 -1

4 掘立 -1


4 掘立 -2

5 掘立 -1


4 掘立 -3

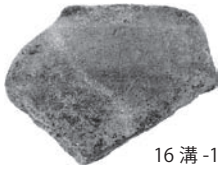
12 掘立 -1

13 掘立 -1

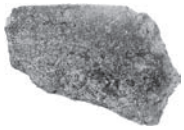
1 井戸 -1

8 溝 -1

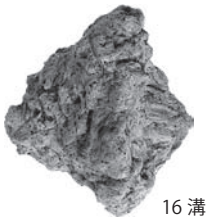
8 溝 -2


16 溝 -1

16 溝 -5


16 溝 -2

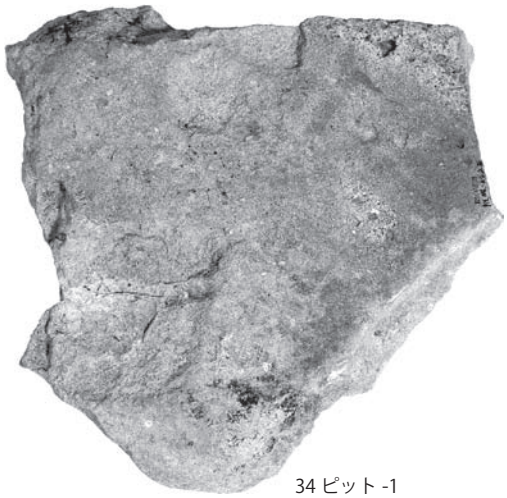
16 溝 -4


16 溝 -6

16 溝 -3

2 面 建物・掘立・井戸・溝出土遺物

33 ピット -1



34 ピット -1

299 ピット -1

54 ピット -1

456 ピット -1

244 ピット -1

309 ピット -1

2 面 ピット出土遺物 1

555 ピット -1

603 ピット -1

835 ピット -1

888 ピット -1

遺構外 -1

遺構外 -2

遺構外 -4

遺構外 -3

遺構外 -5

遺構外 -6

2 面 ピット出土遺物 2・遺構外出土遺物

遺構一覧表

甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)

種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			走行(方位)	備　　考
		本文	写真	遺物	上幅	下幅	深さ		
水田		7	PL2	−	−	−	−	−	Ⅲ層(As-B混土)下面検出
溝	1a	8	−	−	0.30	0.10	0.10	南東→北西	用水路
溝	1b	8	−	−	0.30	0.10	0.15	南東→北西	用水路
溝	2	9	−	−	0.25	0.10	0.05	N-30° -W	用水路
溝	3	9	−	−	0.40	0.10	0.25	N-20° -W	用水路
溝	4a	10	−	−	0.25	0.10	0.15	N-20° -W	用水路
溝	4b	10	−	−	0.40	0.20	0.10	N-20° -W	用水路
溝	5	11	−	−	0.20	0.10	0.05	N-80° -E	用水路
溝	6	12	PL3	−	0.80	0.50	0.20	N-65° -E	排水路か用水路

甘楽条里遺跡(造石大町地区)

種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			走行(方位)	備　　考
		本文	写真	遺物	上幅	下幅	深さ		
水田		15	−	−	−	−	−	−	Ⅲ層(As-B混土)下面検出
溝	1	16	−	−	0.50	0.20	0.10	N-92° -E	用水路
溝	2	16	−	−	0.30	0.15	0.05	N-92° -E	用水路
溝	3	17	−	−	0.50	0.15	0.10	N-2° -E	用水路
溝	4	17	−	−	0.50	0.20	0.05	N-2° -E	用水路

塚田遺跡第1面

種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			方位	形　状	備　　考
		本文	写真	遺物	短軸	長軸	深さ			
竪穴状遺構	1	23	PL5	−	2.40	4.40+	−	N-94° -E	長方形	
土坑	1	24	PL5	−	2.00	2.20	0.10	−	不整円形	
種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			走行(方位)	備　　考	
		本文	写真	遺物	上幅	下幅	深さ			
溝	1	24	PL6	PL19	1.00	0.30	0.20	N-2° -E	用水路	
溝	2a	25	PL6	−	1.40	0.60	0.50	N-14° -E	用水路	
溝	2b	25	PL6	PL19	1.40	0.50	0.30	N-14° -E	用水路	
溝	2c	25	PL6	−	1.30	0.30	0.15	N-8° -E	用水路	
溝	3	27	PL6	PL19	1.10	0.20	0.30	N-7° -E	用水路	
溝	4	28	PL6	PL19	1.00	0.25	0.30	N-15° -E	用水路	
溝	5	28	PL6	−	1.00	0.30	0.15	N-96° -E	用水路	
溝	6	28	PL6	PL19	0.90	0.20	0.25	N-15° -E	用水路	

塚田遺跡第2面

種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			方位	柱　間	備　　考
		本文	写真	遺物	短軸	長軸	深さ			
建物	1	29	PL7	PL20	−	−	−	N-95° -E	−	焼土化した土壁材
掘立柱建物	1	30	PL8	−	4.2	8.2	−	N-8° -E	1間×3間	側柱式
掘立柱建物	2	30	PL8	−	4.2	8.1	−	N-7° -E	1間×3間	側柱式
掘立柱建物	3	31	PL8	−	3.5	7.1	−	N-95° -E	1間×3間	側柱式
掘立柱建物	4	32	PL8	PL20	.8	7.2	−	N-99° -E	1間×3間	側柱式, 北･西面下屋
掘立柱建物	5	32	PL8	PL20	2.4	4.3	−	N-10° -E	1間×1間	側柱式
掘立柱建物	6	33	PL8	−	4.5	4.5+	−	N-97° -E	(2間×3間)	側柱式
掘立柱建物	7	34	PL8	−	4.0	6.6	−	N-100° -E	2間×3間	側柱式
掘立柱建物	8	34	PL8	−	6.3	10.9	−	N-10° -E	3間×5間	総柱式
掘立柱建物	9	35	PL8	−	3.7	6.5	−	N-10° -E	1間×3間	側柱式, 西面下屋
掘立柱建物	10	36	PL8	−	6.6	6.6	−	N-12° -E	3間×3間	総柱式, 東面下屋
掘立柱建物	11	37	PL8	−	4.3	8.9	−	N-13° -E	2間×4間	総柱式, 北面下屋
掘立柱建物	12	37	PL8	PL20	4.8	12.9	−	N-102° -E	1間×7間	側柱式, 南辺東に塀
掘立柱建物	13	39	PL8	PL20	3.7	3.7	−	N-15° -E	2間×3間	総柱式
井戸	1	39	PL9	PL20	1.0	1.4	0.6	−	−	
種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			走行(方位)	備　　考	
		本文	写真	遺物	上幅	下幅	深さ			
溝	7	40	PL9	−	0.80	0.25	0.25	N-15° -E		
溝	8	41	PL9	PL20	0.3～0.6	0.1～0.5	0.10	N-96° -E		
溝	9	41	−	−	−	−	0.15	南→北		
溝	10	42	−	−	0.15	0.05	0.05	N-6° -E		
溝	11	42	−	−	0.20	0.10	0.05	N-3° -E		
溝	12	42	−	−	0.10	0.05	0.05	N-47° -E		
溝	13	43	PL9	−	0.90	0.30	0.10	N-110° -E		
溝	14	43	PL9	−	0.30	0.15	0.10	N-102° -E		
溝	15	43	PL9	−	0.30	0.15	0.10	N-96° -E		
溝	16	43	PL10	PL20	2.30	0.60	0.20	N-8° -E		
溝	17	44	PL10	−	0.50	0.30	0.25	N-40° -E	用水路	
溝	18	45	PL10	−	0.20	0.10	0.05	N-45° -E	用水路	

田島遺跡

種　類	番号	掲　載　頁			規　模　(m)			走行(方位)	備　　考
		本文	写真	遺物	上幅	下幅	深さ		
水田		54	PL18	−	−	−	−	−	As-B混土下面検出

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	かんらじょうりいせき(にわやふかまちちく)・かんらじょうりいせき(つくりいしおおまちちく)・つかだいせき・たじまいせき
書　　名	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・甘楽条里遺跡(造石大町地区)・塚田遺跡・田島遺跡
副　書　名	国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	3
シリーズ名	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	468
編著者名	坂口　一
編集機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2009年02月20日
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	かんらじょうりいせき(にわやふかまちちく)・かんらじょうりいせき(つくりいしおおまちちく)・つかだいせき・たじまいせき
遺跡名	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・甘楽条里遺跡(造石大町地区)・塚田遺跡・田島遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんかんらぐんかんらまちにわや、ぐんまけんかんらぐんかんらまちつくりいし、ぐんまけんたのぐんよしいまちかたやま
遺跡所在地	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：群馬県甘楽郡甘楽町庭谷、甘楽条里遺跡(造石大町地区)：群馬県甘楽郡甘楽町造石、塚田遺跡・田島遺跡：多野郡吉井町片山
市町村コード	10384・10363
遺跡番号	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・甘楽条里遺跡(造石大町地区)：0001 塚田遺跡：0038、田島遺跡
北緯(日本測地系)	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：36° 15′ 23″、甘楽条里遺跡(造石大町地区):36° 15′ 23″ 塚田遺跡：36° 15′ 22″、田島遺跡：36° 15′ 22″
東経(日本測地系)	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：138° 56′ 32″、甘楽条里遺跡(造石大町地区):138° 56′ 56″ 塚田遺跡：138° 57′ 16″、田島遺跡：138° 57′ 20″
北緯(世界測地系)	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区):36° 15′ 34″、甘楽条里遺跡(造石大町地区):36° 15′ 34″ 塚田遺跡：36° 15′ 34″、田島遺跡：36° 15′ 34″
東経(世界測地系)	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：138° 56′ 21″、甘楽条里遺跡(造石大町地区):138° 56′ 45″ 塚田遺跡：138° 57′ 05″、田島遺跡：138° 57′ 08″
調査期間	2006年04月01日－2006年06月20日
調査面積	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：1,720㎡　甘楽条里遺跡(造石大町地区)：768㎡ 塚田遺跡：1,000㎡　田島遺跡：410㎡
調査原因	道路建設
種別	水田・集落
主な時代	平安時代、中・近世
遺跡概要	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)：田畠－平安時代以降－水田＋用水路７／平安時代以前－溝１ 甘楽条里遺跡(造石大町地区)：田畠－平安時代以降－水田＋用水路４ 塚田遺跡：集落－近世－竪穴状遺構1＋土坑1／田畠－用水路8／中世－建物1＋掘立柱建物13＋井戸1＋溝12＋ピット群960 田島遺跡：田畠－平安時代以降－水田
特記事項	塚田遺跡から、中世の建物が消失した際の焼土化した土壁材の基部が出土。
要約	甘楽条里遺跡(庭谷深町地区)・甘楽条里遺跡(造石大町地区)：「甘楽条里」範囲内における平安時代以降の水田と近世の用水路の調査。 塚田遺跡：中世の掘立柱建物群を伴う集落と近世の用水路の調査。 田島遺跡：平安時代以降の水田の調査。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第468集

甘楽条里遺跡（庭谷深町地区）・塚田遺跡
甘楽条里遺跡（造石大町地区）・田島遺跡

国道254号(甘楽吉井バイパス)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

平成21年（2009）2月17日　印刷
平成21年（2009）2月20日　発行

編集・発行／財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2
電話（0279）52−2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／松本印刷工業株式会社

富　岡　市

法泉寺
浦畑
神花
屋敷
火葬場敷
上野の五輪塔
前田
熊野森
中畑
東木
西畑
出中
上川原
白倉
西反畑
神花平
東大山
西大山
宮木畑
柳田
根田
久保田
前田
北貝戸
大山前
七反田
穴丘田
中畑
塚田
柳町
新田
鍛冶田
南貝戸
新田
赤井戸
藤塚
神田
金井町
谷田
日倉
三ツ橋
砂久
多世戸橋
大道
浦木
八反田
貯木場
盤谷
向井田
天神
天神
観音堂
関向
北金井
上州新屋駅
金井
新金井橋
下町
稲荷堂
関道254号
猫が久保
駅
天神田駅
日信川
鎌川
西下川原
東下川原
六岡
小棚
田口
東平
北
金山
大町
上町
下町
新田
砂久
37-16-1
37-16-2
37-06-4
1:3000
100m